

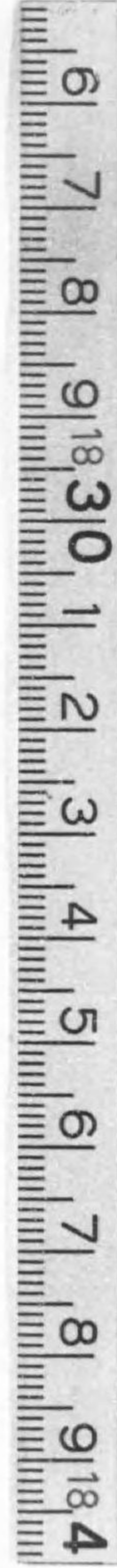
特 218

262

るす對に童兒校學小

策良の及普想思外海

會協外海縣島兒鹿



始



埼218
262



小學校兒童に對する海外思想普及の良策



鹿兒島縣海外協會



小島島嶼の海外移住の調査報告書



緒言

我國の現状は國運の勃興に従ひ、物質文明の異常なる發達と共に經濟事情の變移に依り、社會生活上著しき變化を來たせり、而かも國土狹少にして生産能力に限度あり、到底無限に資源の増殖を期待し得ざるのみならず、比年増加せる人口は、終に生活を脅威するに至るべく、延ひて人心の歸趨を謬る所あらんとす、之が解決に就き、學者、實際家等朝野に亘り、調査討究しつゝあり、而して如斯國情の下に、如何にして國家の發展を期すべきかは、更に大なる考慮を要すべきなり、是に於て海外發展を講ずるは社會の安寧民族の繁榮に資する一方策たるを失はず、然れども海外移住も自ら時勢に伴ふ進化なかるべからず、政府亦茲に觀る所あり、法を設け海外移住組合を設立せしめ移住者をして堵に安せしめんとす。

經濟に國境なし、天惠豐饒にして前人未到の地に我過剰せる人口を移し、資源の開發に力め物資の供給を圖るあらば、世界人類の福祉に貢獻するは當然の歸結にして、是實に我同胞の使命にあらずとせんや、我同胞は茲に自覺し國情に鑑み、識者の意見に聞き、而して政府の方針に共鳴し、宜しく海外に活躍し以て新天地の開拓に奮闘努力すべきなり、特に少年子弟は、今に於て進取敢爲の氣概を涵養し、膨脹せる我民族の前途に光明を投せざるべけんや。

北米南加州に在る本縣人は是に鑑みる所あり、海外思想の普及徹底を期するには、先づ小學兒童をして海外智識を涵養せしむるを前提とし、其の一端として縣下教育家に對し、普く懸賞論文を募集することとし、資金五百圓を寄せ來れり、今審査の結果採擇せしものを印刷に附し、之を廣く頒布し以て所期の目的に副はしめんとする所なり。

昭和二年六月

鹿兒島縣海外協會識

本書は、我が國の海外思想普及の歴史を、その萌芽から今日に至るまで、系統的に考察し、その進歩の過程を明らかにし、その功利的な側面を批判し、その建設的な側面を奨励することを目的として編纂されたものである。本書は、海外思想普及の歴史を、その萌芽から今日に至るまで、系統的に考察し、その進歩の過程を明らかにし、その功利的な側面を批判し、その建設的な側面を奨励することを目的として編纂されたものである。

前 言

小學校兒童に對する海外思想普及の良策

總 目 次

◇一等	小川周助	一
◇二等	中馬 玄	四七
◇二等	松ヶ野 勇吉	六七
◇三等	假屋 豊吉	一三五
◇三等	徳重 喜一郎	一六一
◇三等	今村 寛二	一八三

一等當選

東京府板橋第二尋常小學校訓導

小川周助

目次

一、論者としての私の態度……………三

 A、問題に對する私の態度

 B、記述に對する私の態度

二、教養の第一段（海外發展の必要を悟らしむること）……………五

 A、我が國は世界一等國である。將してさうか。
 如何に窮迫してゐるかを悟らしめねばならぬ。

 B、窮迫を脱する方法としては海外發展より外に道はない

三、教養の第二段（海外發展の方法を知らせること）……………一七

 A、我が祖先の海外發展は何を教へてゐるか
 再び祖先の失敗を真似ない様になければならぬ。

 B、排日の真相は吾々に何を教へてゐるか
 吾々は正義を以て之と闘ふ覺悟がなければならぬ。

 C、我が國民が今後海外に發展するにはどうしたら一番よいか
 海外發展の方法を知らせること。

四、教養の第三段（僕は海外發展者として適格者であるといふ自信を與ふ）……………二八

A、海外發展者として完全なる資格

五、形式的方面より見たる方法……………三七

A 海外思想普及の根本方法

先づ教師が自覺しそれに關する研究をなすことに始まる

B、教養に資すべき教科と其の取扱

C、教科以外による海外思想普及の方法

六、學校に於ける教養を徹底せしむる補助として……………四四

一、論者としての私の態度

「小學校兒童に對する海外思想普及の良策」何といふ時宜に適した好箇の問題であらう。私はこれほど近來痛快を感じたことはない。何となれば、今日國民教育上研究すべき問題は多々あるにしても、我が國現下の状態から考へて、この問題を選んだことは一大先見であらねばならぬ。然もそれが我が縣教育會によつて叫ばれたではないか。

私はこの壯舉に對して黙することが出来ない。淺學非才を顧みず茲に卑見を述べて諸賢の叱正を乞はんと思ふのである。

A、問題に對する私の態度

さて論をすゝめて行く上に、先づ問題に對する私の態度を明かにして置きたい。

1、問題に「小學校兒童」とあるのは言ふまでもなく、尋常科と高等科とを通じた小學校兒童の意味であつて、論域を限定したものでなく、教養の對象を明かにしたもので随分効果を擧ぐる必要からは小學校以外にも論及しなければならぬと思ふ。

2、「海外思想」の内容を解釋するに聊か考慮した。即ち一般に取扱はれてゐる海外に對する知識の教養を意味するものか、海外移民思想を普及するといふ意味か、そこには多少の相違がある。蓋しこの問題の發案者として鹿兒島縣海外協會があるからである。協會側から言へば、移民を奨励する上に於て、一般に理解がなければ協會の國家的事業も徒勞になる。故に一般に對して海外移民思想を普及し、協會の事業を發展せしめたといふ希望が多少なりとあるに違ひない。然し單に事業の發展から言へば、直接大人に向つて移民思想を吹込むことが有意義で、現在から見て兒童は間接である。

茲に間接的な小學校兒童に着眼したことは、一方鹿兒島縣教育會なるものが加つて發案者であるからだと思ふ。

教育會の事業としては少くとも將來に希望がある。と同時に、根本から築いて健全な發達を圖らんとするものである。

協會も單なる營利事業でなく、國家の重大な一使命を負ふ以上、そこに協同發案の意義がある。問題が海外思想移民の普及でなく、海外思想と問題を廣い意味でとつたことに深く思慮されたところがあると思ふ。

故に海外思想なる語は、換言して海外發展といふことになる。隨而この海外發展といふ意味は、移民に限らず、海外投資も、貿易も、遠洋漁業も共に其の中に含まれてゐることを開却してはならない。

3、「思想を普及する良策」といふ意味が、智識感情に訴へて發展の氣分を高潮せしむればそれでいゝのか、或は意志に訴へて實行せしむるまでを要求してゐるのか、茲にまた疑問が生じたわけである。

字義から言へば前の解釋でいゝように思はれるが、性質から見れば實際上に効果を擧げなければ無意義になつてしまふ。故に私は後者の立場から論ずることにした。

要するに該問題を掲げて要求する所は、海外思想を普及して、海外發展の實際成績を擧げるためには、今日の小學校兒童に對して、如何なる教養をしなければならぬか、といふことになると思ふ。

B、記述に對する私の態度

- 1、論述する方法は多種多様ある。其の何れの形式によるかに就ては又大に迷つた。
- 2、優良な海外發展者を養成するには、如何なることを授け、如何なることを訓練すればよいか、即ち教材に就て嚴密な研究を遂げ、選擇して、
- 3、尋常科一年より高等科に至る各教材に連絡をとつて配列し、
- 4、更に其の取扱ひに就て説明し、
- 5、其他必要な事項を漏さず論ず。

これならば或は論述の体裁としては立派であるかも知れない。

然し、私にはそれだけの時間的餘裕がなかつたと同時に又、この方案が實際教育に當つて餘り役立つことが知つてゐるがこれをとらないことにした。つまり方法倒れになつて、根本に觸れた生命ある教育が出来ないからである。

故に私は教養の主眼點を明かにするがため、思想の大系を整理し、方法の順序としてこれを三段に分けた。

第一段に於て海外發展の必要を悟らしめんとして説かんとするものである。換言すれば兒童に「僕も海外へ勇飛したい」といふ氣持を興へたい。

第二段に於て、海外發展の方法を授けて以て、益々決心を堅くし、海外發展熱を愈々具体的に指導せんとするものである。

第三段に於て發展者としての資格を明かにして教養の到達點としたい。この教養を成就した兒童は必ず「僕は發展者として適格者である」と自信を有するに至ると思ふ。

勿論以上三段の方法は必ず順を追はなければならぬといふ譯ではない。機會さへあれば何度でも繰返すほど結構である。然し教師の頭にはこの思想の大系が整然としてゐなければならぬことは勿論である。

次に形式的方面から見た方法として一項を設けた。實はこゝに詳論したのであるが餘白がないかも知れない。最後に補助機關として、一般社會に海外思想普及の必要を述べ、其の方法を簡單に説明せんとする。如何に簡單であつても重要なことに於て何れの項にも劣らないことだけを絶叫して置きたい。

二、教養の第一段

海外發展の必要を悟らしむること

△、我が國は世界一等國である。將してさうか。如何に窮迫してゐるかを先づ知らしめなければならぬ。

世界大戦後我が國は英米佛三國と相並んで一等國としての待遇を受くるに至つた。之によつて明治維新に於ける國民の理想は達成した。この榮譽ある地位を贏ち得た我が國民は總てを忘れて之を謳歌した。然し何が故に世界一等國であるか。

萬世一系の皇室を宗家として特殊な發達をして來た我が國體は、三千年の間に嘗つて外國の侮を受けたことのない奇蹟を有する歴史は、確かに世界に誇り得る事柄に相違ない。

或者はまた大和魂を以て世界無比と稱してゐるが、今度の歐州戰亂に於て、獨逸に燭逸魂があり、英國に英吉利魂があり、米國に米國魂があつて、何れも愛國の至情に於て我が大和魂に遜色ないばかりか、寧ろ彼に多く學ぶ點を見出した位である。さりながら精神文化に於ては今後世界に其の光明を放つべき時機が到來することを信じてゐる。兎に角是は後に説明することゝして、茲には經濟的方面から見て我が國は將して世界一等國たる資格があるか否かを考察して見たいと思ふ。

我が國の領土は合して四万三六一五方里であつて、人口は八三四五万四三七一人(大正一四年一〇月一日現在)であるから、一方里の密度は一九一三人となつてゐる。之を内地だけに見ると、面積二万四六三一方里、人口五九七三万六七〇四人、一方里の密度は二四二五人であつて、世界列國の密度に比較すると、全國に於て第七位となり、内地のみを以てすれば世界第四位となるのである。併して一年間の自然増加即生死の差は、大正一二年に於て全國の數一三万三七八八四人、内地だけで七一万〇八二二人、其の増加率に於て世界の首位を占め、伊國の四八万、獨逸の四四万、英本國の三七万、西班牙の二二万に比して遙かに多いことを知るであらう。最近の新聞に依れば、大正一四年度の増加數八四万五〇〇〇人といふことであるから、この勢では二十年後に總人口一億一千万に達するものと推考される。隨而一方里の密度約二五〇〇人となつて、略今日の内地の密度と等しくなる。之

を今日の白耳義の密度三七八二人に比すれば猶餘裕がある。

或人は「二億の人口に達しなければ諸外國と對抗することが出來ないから、人口増加の率が高いことは喜ばしいことである」と主張してゐるが、この説からすれば先づこゝ四五十年は悲觀しないでも濟みさうである。

然し之は物資が豊富であつた場合の話で、若し物資が豊かでない所に、限りなく人口が増加した場合、所謂人口過剩が現れ、生活問題を基調とした色々の六ヶ敷しい社會問題が勃起し、一國の運命を危からしむるのである。かの愛蘭が一平方哩僅かに二五〇人の人口密度を有してゐながら、天災によつて食料に困憊した結果、人口問題が八ヶ間敷かつたことがあり、又埃及のバルバドス地方では一方哩の密度一千人以上に達してゐるに係はらず未だ曾てこの問題に觸れたことがないといふ。要するに人口密度の多少は物資との關係によつて論せらるべきもので、白耳義の密度が大であるからといつて悲觀すべきものでもなければ、我が國の密度がそれに及ばないからといつて又直ちに樂觀することも許さないのである。

然らば我が國では物資の供給がどうなつてゐるか一應調べて見なければならぬ。先づ日本人の常食たる米産高に就て其の生産消費の關係を見るに、年々五百万石から六百万石の不足を告げてゐる。この對策として我が農林省の計劃は次の通りである。

「現在の人口増加率を基準として、内地の人口は三十年後八五〇三万人となり、隨而米穀消費量は三八〇〇万石の増加となる。この需要増加の中一二〇〇万石は有に朝鮮と臺灣から輸入を増加せしめ得る自信があり、一六〇〇万石は北海道及内地に於て開墾の助成、排水工事の完成、品種の改良、技術の改善によつて生産を増加することが出来る。この合計二八〇〇万石の増加見込みはたつてゐるのであるが、猶一千万石の不足がある。故に農林省は二十ヶ年の繼續事業として百万町歩の開墾促進の方法を講じ、其の中の五十万町歩は官營開墾として經費二億圓を見積つて着手した。これによつて不足の一千万石を生産し、一方人口の移住令分布を企圖してゐるのである。」
これによつて我が當局が今日の食料問題人口問題の解決に腐心してゐることが分る。併し三十年後乃至五十年

後に於ては如何なる方法を講ずるであらうか。なるほど總面積に對する耕地面積を諸外國に比較して見ると、

佛國 ○、五九 獨逸 ○、四九 伊國 ○、四八 英國 ○、二三
 瑞西 ○、一八 日本 ○、一五

であつて、我が國はまだ開墾の餘地があると見られる。けれども山地である我が國の耕地を、殆ど平野で國をなしてゐる獨逸や佛國と同一な耕地の割合にすることは望まれない。若し四割までの開墾が出来るとしても、それには非常な努力と多額の費用、百數十年の年月を要するものと思はねばならぬ。其の長い年月には増加する人口は非常なものであるから、恐らく今日の食糧問題の解決される日は來ないではないかと思はれる。

然し又、埃及の様な沃土がなくても、多少食糧の缺乏があるとしても、我國に英國の様な天惠資源があるならば譬へ人口が一億を突破しようとする問題にはならないが、これも頼りないことである。

今我國の最も重要な生産品は養蠶による製品で、生絲其他を合し大正十四年に於ける輸出總額は一〇億二八七六万圓を示してゐる。これは原料が自國に需め得られ、年々其の輸出額が増進しつつあるものゝこれにも不安なしとしない。即ち人造絹糸の進歩と、隣國支那に強敵があるからである。

次に貿易額の大なるものは綿絲工業で、綿織物綿絲其他を合して輸出高五億八六九三万一千圓となつてゐるがこれは原料を印度支那米國に需めてゐるのであつて、其の綿花輸入總額は九億二三五万六千圓であるから差引三億三六四二万五千圓だけ輸入超過となつてゐる。猶次類原料としてはこればかりではなく、他に羊毛毛織物毛絲等二億三四六二万四千圓の輸入を示してゐる。この種のもものは我國人の洋裝化につれて其の額は益々激増せんとしてゐる。

以上生絲類綿絲類の他には一億圓に達する輸出品はない。石炭などは天惠資源の唯一なるものであるが、これも輸出額の額は相半ばし、然も炭層の餘命僅かに五十年にして盡きるに至つては益々不安の状態である。今大正二年乃至十四年間の輸出入額を示すと。

年	總額	輸出	輸入	出超	入超
大正 2	1361892千円	632460千円	729432千円	—	96972千円
3	1186837	591101	595736	—	4635
4	1240757	708307	532450	175857	—
5	1883896	1127468	756428	371040	—
6	2638816	1603005	1035811	567194	—
7	3630245	1962101	1668144	293957	—
8	4272333	2098873	2173460	—	74587
9	4284570	1948395	2336175	—	387780
10	2866993	1252828	1614155	—	361317
11	3527760	1637452	1890308	—	252857
12	3429982	1447751	1982231	—	534480
13	4260437	1807035	2453402	—	646367
14	4878248	2305590	2572658	—	267068

言ふまでもなく入超は、邦貨の流出を示すものであつて、他に海外投資の利潤が、移民の送金かによらなければ之を補ふことは出来ない。我國の海外投資は勿論、移民に於ても問題にならない。故に結局の所國民に報ひ

られるものは窮迫といふことより外にない。今や其の窮迫は頂點に達してゐる。即ち大正十四年に於ける東京市外二十三都市内外の失業者數一〇万五九百五人に達してゐることによつても雄辯に之を物語つてゐる。

以上の説明によつて我が國は人口密度の大なること、増加率の大なることに於て有名であるに係はらず、物資は之に伴はず、國民の窮迫將に斯くの如しである。之を以て吾々はどの顔で世界一等國であるといふことが出来るやうか。茲に於て、海外普及のため先づ第一この誤れる我國國民の自負心を破壊して國運打開のため沈思黙考せしむる必要がある。之が私の直接兒童に對して採らんとする方法の第一歩である。

B、窮迫を脱する方法としては海外發展より他に道はない。

我が國は斯くの如く窮迫してゐる。然し全世界の陸地は五七二五万平方哩で、其の地上に約一七億三五〇〇万の人類が棲息してゐるのであるが、若し之が平均して分布するならば、一平方哩僅かに三十人を超へない。故に決して世界の人口問題は悲觀すべきものではないのである。現在人口稀薄のために土地開發が出来ないで困つてゐる國もある。今それらの國を密度の小なるものから列挙すれば

國 別	一万里ニ對スル人口密度	國 別	一万里ニ對スル人口密度
濠洲	一一八	加 奈 陀	一五八
グエネズエラ	三六	バ ラ グ ワ イ	三六
コ ロ ン ビ ヤ	六九	智 利	七七
パ ナ マ	八一	ベ ル シ ヤ	八五
ロ シ ヤ	九九	エ ク ア ド ル	一〇〇
ウ ル グ ワ イ	一一三	合 衆 國	二二二
支 那	五二六	比 律 賓	五三七
		ポ リ グ イ ア	三三二
		ア ル セ ン チ ン	四五
		ニ カ ラ グ ワ	七七
		ホ ン ジ ュ ラ ス	八六
		メ キ シ コ	一一一
		シ ャ ム	二七四

これを我國の密度二四二五人と比較して見よ。世界にはまだ斯くの如き廣茫の地がある。これ等の地はまた我等の移住を歓迎してゐるのである。歐米諸國では之等の國土に向つてあらゆる殖民政策を講じ、自國の移民をより多く送らんとしてゐるのであるが、それは唯に人口問題の解決ばかりでなく、之に伴ふ利得が他にあるからである。即ち、

1、精神的方面の價值

イ、眞の愛國心を養成することが出来る。

「可愛い子に旅をさせ」といふ言葉があるが、父母の膝下を離れて始めて父母の愛が分る様に、愛國の情は内國で千万言を費して説くよりも、一度異國の土を踏まじむることに勝ることはない。万里の異郷にあつて懐郷の情に堪へないものは決して仲磨一人ではない。異郷に生活したことのない君子も、愛國の至情に於ては異郷遙かに故國を念してゐる匹夫に及ばないといつて差支ない。

ロ、獨立心が自ら涵養される。

我が家族制度の國民は、獨立心に乏しいことを最も短所としてゐる。然し一度異國に足を踏込むとき、依頼他にしてゐることを許さない。まして個人主義的國民に朝夕接してゐる時に一層自己の力量を尊重することになる。言葉によつて教へられたことは總て力弱いものであるが、體驗して得たものは眞の力となる。眞の獨立心は體驗から生れる。

ハ、必要な智識が移民によつて傳達される。

今日我國の農工業の上に移民歸朝によつて、品種に或は方法上の智識に新機軸を與へられたもの數ふるに違がないこの點から言へば海外留學生にも勝る點が多い。

ニ、青年の士氣を鼓舞す。

兎角我國の如き狹隘な土地に額の鉢合せをして生活してゐては、身も心も小さくなつて凡てが消極に流れ易い。

海外に雄飛せるものは覇氣に富む。進取的である。海外發展者が一廉の成功をして郷里に歸つたとき、青年子女の血は湧立つて、そこに發展的氣分が高潮して來る。

ホ、文化の傳播を助ける。

英國が今日世界に其の文化を普及し得た所以は、國力の盛大が原因してゐるけれども又一方に、植民地を全世界に有し、多くの移民を送つてそこに自國の文化を植ゑつけたといふことは非常に意義あることである。よし勝れてゐる文化を有する國があつたとしてもそれを全世界に普及するものがあつたら、遂には其の文化は消滅して仕舞ふであらう。

2、社會的方面の價值

イ、無職業者の調節。

ロ、危險思想の防壓

ハ、貧民の減少

ニ、家族制度の改善

なごの上に海外發展が非常な價值を有してゐることは、これまで述べ來つたことによつて大体分つたことと思ふから、繁雜を避けて説明を省くことにする。

ホ、人口増加率の増進

ヘ、國民体格の向上

これが事實として現れる。然して出産も体格も生活の餘裕といふことや、結婚の數や、結婚年齢が適度に行はれるといふことに比例する。我が國の出産率が最近減少したと言はれてゐるが、それは向學心が盛になつて結婚が後れること、一方生活のために未婚の數が増して來たことに原因してゐると思ふ。又「貧乏の子寶」といふことは多く労働者で、身体健全なる上に、結婚年齢が適度に行はれるといふ結果ではあるまいか。英國のメリエビ

―ル氏が「英國に於て一八五一年より一八六一年に至る十年間に於て海外移民の數二百二十万人に激増したが、これがために人口増加の割合は却つて移住者が少い時よりも多くなつた。即ち一八四一年より一八五一年に至る十年間には人口の増加百人につき三、一の割合であつたのが、後の十年間には五、五となつた統計を以て、移住者の多少は一國民の増減に關係しない」と移民主張に反對した。反對の如何は別として、移民の數が多くなれば人口が増加することは證明される。この現象を以て直ちに反對することは謬論だと思ふ。何となれば結婚數が増し、年齢が適當に行はれ、生活が餘裕を生じて來た現象と見れば眞に喜ぶべきことで、人類の幸福といはねばならぬ

3、經濟的方面の價值

イ、移民が増加すると貿易が盛になる。今次に日本布哇間の貿易關係を例に擧ぐれば、

年 代	移 民 數	日本より輸出する高	布哇より輸入する高
明治二十三年	一一三六〇	一一二六二〇弗	一一三三弗
「 二十八年	一	一九六八五四	一〇八一
「 三十三年	五七三四五	六四七三九五	二六三二
「 三十八年	五九一五九	九三八二二七	二〇八五七
「 四十三年	七九六七四	一八五六三七六	二二〇一一九
大正 二 年	八三〇〇〇	二八四七七五六	一一三九四一

この表によつて我が移民一人を送れば約六十圓に相當するだけの本邦生産品を購買してゐることが分る。加州に於ける本邦移民の購買力は稍下つて約四十圓となつてゐる。若し最近の統計によつて調べたならば何れも其の額を増加してゐるに違ひないが其の資料が得られなかつたことを残念に思ふ。

猶茲に附加して置きたいことは、文化程度の高い國土に移民するものよりは、程度の低い國土に移民するものの方が購買力が高いことである。斯くの如く多少の差はあるとしても兎に角移民が自國の生産品に對して購買力を

有することは争はれない事實である。

ロ、内國の農工業が發展する。

我が國の耕地は農家一戸當一、〇七町歩であるが、米國の一戸當標準耕地四十町六反に到底比較することは出来ない。家族制度の弊は今日の都會集中を指して農村疲弊と見做してゐる。然し吾人はこの都會集中か海外發展かの道を講じなければ、耕地はこの上にも縮少され、勞力過剩のために農法は進歩しないと思ふものである。若し農村の青年が都會或は海外に雄飛するならば、其の當座は習慣から勞力不足を感ずるであらうが、この不足の感がやがて大農組織に進化し、農具の改良進歩によつて能率が向上して始めて農村は振興するものと信ずる。工業も亦國民の海外發展によつて需要が擴張し供給の關係からこの種の事業も盛になるのは言ふまでもないことである。

ハ、海運事業が進歩する。

これも前條と同じ理由で進歩發展する。今日の南米航路發達の歴史はこれを説明する好適例である。

ニ、移民の送金は莫大である。

例は少し古いが、我が加洲在留邦人の送金額を示せば、

明治四三年	一八四三〇五四三弗	明治四四年	一九九七九八六六弗
大正元年	一七五五〇七五三(農作物不況ノタメ)		
即ち年々約四千万圓が十万の移民に依つて送金されてゐるのである。この送金に潤つてゐる府縣を二三擧ぐれば			
府縣名	在留者數	送金額	
廣島	四四七五三	三六三九五五三圓	
山口	二〇八六九	一四一三八九九	
和歌山	一三〇三九	一七九二二七二	

岡山

七二三九

一六五二二三七

鹿兒島

四〇九〇

二八一四九〇

移民の多寡が直ちに其の地の經濟關係に斯くの如く影響してゐる。

ホ、移民を送ることは國家の經濟的地位を海外に擴張する所以である。

十万の我が加洲在留邦人は年々四千万圓を本國に送金するだけではない。大正元年頃に彼等同胞が獲得した土地貯蓄金、其他建物商品等の價額合して實に一億萬圓に達してゐるといふ。移民の効績や實に大なるものではないか。

ヘ、一旦緩急の場合に

今次の歐州戰亂に際して我が在米同胞は戰時募債に對し、何れの移民も及ばない多額を米國に奉仕したことは人のよく知る所である。更に我が同胞が義勇軍に加つて戰線に偉力を示したことも美談の一つである。又米國が戰時に際して苦しい立場にあつたことは米人中に獨逸系のもが多かつたからである。又英國がこの大戰に頑強であつた裏面に茫大な殖民地があり、そこに分布在留してゐた英人があつたことを決して見逃すわけに行かない。斯くの如く一旦緩急の場合に同胞を海外に有することは何より國家威力の維持に力強いことではないか。

以上述べたことによつて、海外發展が一國の盛衰に關係深いことを知つたならば、各國がこの殖民政策に全力を注いでゐる所以を知ることが出来るであらう。其の移出狀勢は

國別	大正一三年	大正一二年
英本國	一七四四七六八	二六七五五四八
伊太利	一三〇七七九八	一七七八五三三
獨逸	五八三二八八	一一五四一六八
我國内地	一三〇九八八	八八二五八

芬蘭	九八九九人	一三八三五人
瑞典	八四九二人	一八二八七人
瑞典	八四〇一人	二六五五九人

誰かこの表を見て我國の前途を嘆かないものがあらうか。更に移入國の状態を示せば。

國別	大正一三年	大正一二年
合衆國	七〇六八九六六	五二二九一九九
亞爾然丁	一六〇一二七人	二二二五〇一人
加奈陀	一四八五六〇人	七二八八七人
伯刺西爾	九八一二五五人	八六七六七人

之等の國は年々斯くの如く多數の移民を移入してゐるのである。この中合衆國を除く以外の地は何れも我が移民を歓迎し幾十萬たりとも決して拒まないものである。にも係らず我が國移民の数は僅々一萬を越すのみで情けない限りである。

今や餘された前米其他の地方に向つて各國は移民の競争時代である。若しこの際諸外國に後れをとる様であつたら、永久に我國の發展すべき地はないのである。好機逸すべからざるこの時に於て何故に我が國民の海外發展は振はないのであらうか。

由來我國民は極めて高遠な理想を有する發展的民族であるのである。即ち我が國を始めて經營された伊裴諾伊裴冊の二神が、朝鮮半島を中心として北亞細亞に發展するか、或は南部亞細亞に皇謀を伸暢するかに腐心されたことは我が民族理想の起源である。天照大神が皇孫瓊々杵尊に勅して、「豊葦原瑞穂の國は我が子孫の君たるべき地なり。爾皇孫就て治めよ。寶祚の隆々まさんこと天壤と共に窮まりなかるべし」と仰せられた。この豊葦原と指されたのは現在の日本内地であるかどうかは疑問である。前のことから考へて恐らくもつと大地域を指され

たものでないかと思ふ。猶神武天皇は「上ハ即チ乾靈、國ヲ授ケ給フノ徳ニ答ヘ、下ハ則チ皇孫正ヲ養フノ心ヲ弘メ、然ル後六合ヲ兼テ似テ樂ヲ開キ、八紘ヲ掩ツテ宇ヲ爲ス、亦可ナラヌヤ」と帝業を創始せらるゝに當つて宣せられてゐる。斯の如く雄大にして且つ高遠なる理想、即ち海外發展は我が國民の理想であつて今日に於ても變ることはない。神功皇后の三韓征伐、豊臣秀吉の朝鮮征伐の如き、或は倭寇御朱印船の如きみな我が國民理想の顯現したもので、如何に發展的民族であるかを物語つてゐる。

かゝる發展的血を有する我が國民は徳川三百年の間鎖國によつて其の飛翼を折られたとは言へ、明治維新以來六十年を経て、猶古の發展的機運を見ないのは誠に祖先に對して申譯けない次第である。これ全く吾々教育者が眞に窮迫してゐる國情を知らしめず、海外發展が唯一の救済策であることを悟らしめず、世界には我等が永へに安住すべき樂天地があることを教へず、亦我が祖先が海外に活躍した歴史或は建國の大精神を充分に徹底せしめなかつた罪である。故にこれまで論じて來たことが眞に徹底するならば兒童は必ず「僕も海外に雄飛しよう」と考へるに違ひないと思ふ。

三、教養の第二段

海外發展の方法を知らしめること

A、我が祖先の海外發展は何を教へてゐるか。
再び祖先の失敗を眞似てはならぬ

海外發展は我が民族の理想であり、又事實海外に發展したことは既に述べた通りである。然し、當時に於ける我が移民は土地に執着がなかつた。土地を開發してそこに文化を建設し、民族の發展を期せようなどいふことは毛頭考へてゐなかつた。倭寇の如く、八幡船の如く、珍寶の獲得を主眼とし、或は内亂に義勇兵を組織して之

を鎮め、其の効を誇るといふ様に、「武」を中心興味とした所謂掠奪的植民であつたのである。之がために三四千人も居たといふ馬尼刺地方に於ても、寛永時代に八千人もゐたといふ暹羅に行つても何等日本人の企業の跡を残してゐない。これは全く我が祖先の海外發展が失敗であつたことを証明するものであつて、吾人に對する一大教訓と言はねばならぬ。モンゼン博士が「劍を以つて奪つた土地は再び劍によつて奪はれる。犁によつて得たものは永遠である」と、農業移民の健實を述べた言葉を今に忘れないが、歐洲列國が今日までとつた殖民史を顧く時に總てさうであつたことを眞に思はせる。英國が今日殖民に成功せる所以は、第一に彼等が力を土に加へたことである。然して後に矛を採つて完全に自分のものとした。若し我が祖先が南洋發展當時土を耕して其の地の開發に努力してゐたならば、恐らく今日の無念を残さずに済んだであらう。

又、我が祖先が失敗した原因には、女を伴はない植民であつたことである。若し當時の我が南洋殖民に女がゐたならば必ず農業移民として成功してゐたであらう。土地と女とは實に離れ難いものであるからである。西班牙人の米大陸經營の失敗もそれであつた。彼等は女性を伴はなかつたため、淋しい餘り歸國したものが多かつた。或は土人を娶つて盛に離婚を行つた。そして後世に西班牙人を残さなかつたのである。そればかりでなく統治上に困難を生じて完全な發達を傷けたのである。

要するに健全な海外發展は、女性を伴つた農業的移民を最善なるものとして、掠奪的植民は絶体的に戒めねばならぬ。故に私は特に女性に對する海外發展の思想を普及することを闕却してはならぬと思ふ。

B、排日の真相は我々に何を教へてゐるか
我々は正義を以て之を闘ふ覺悟がなければならぬ。

前にも述べた通り北米合衆國は、今日に於ても人口密度僅かに一方里二二人で、年々移入する人口は七〇万六八九六人で其の收容力の大なるにも係はらず。我國に對して日露戰爭直後即ち明治三九年一〇月、日本兒童隔離事件なるものを起して以來、排日運動を續けて、大正一三年遂に東洋移民絶体禁止法を實施して、我が移民の

入國を許さないのみならず、尙既得の市民權をも侵害せんとしてゐる。之は我國にとつて現在だけの問題でないかゝる現象が世界各地に起つた場合、遂に我が國民の海外發展を不能ならしむるのみならず、國家の自滅を招致せんとも限らない。現に濠洲などでは既に吾々有色人種の入國が禁せられて居り、又加奈陀にも排日の手は伸ばんとしてゐる。吾々は茲に於て其の真相を究め、最善の處置をとらねばならぬ。

彼の學童問題といふのは、日本兒童と米國兒童と同一の小學校に學ばしむることは不都合であるといふのである、事實は問題にするほどのことではない。即ち問題となつた桑港の日本兒童總數は僅かに九十三名で、然もそれが二十三個の學校に分れてゐたので、一校平均四人に過ぎなかつたのである。之を問題とした米國が餘りに狹量であることに苦笑せずならぬと同時に、我國にとつては忍び難い國辱であつたのである。我國では之がために止むを得ず所謂紳士協約なるものを結んで、漸く學童を復歸せしむることが出来たのである。其の紳士協約なるものゝ内容は、「日本に歸省したる移民の復航者、移民の父母妻子、又從來米國に於て農事に關係を有してゐたものゝ外、他の勞働者には一切旅券を下附せざること、之と同時に布哇にも同様の制限をなす。」と明治四十年に締結して我が移民に制限を加へたのである。蓋し米國はこの紳士協約を結ばんがために學童問題を宣揚したものであると言はれてゐる。

- 爾來十四年我國はこの紳士條約を確守して來たが、加州に於ける排日運動は毫も休歇することがなく、州會には毎年排日法案が提出されたのであつた。彼の排日家輩が唱へてゐる表面の理由は斯うである。
- 1、日本移民は味噌醬油等を何處までも持歩いて、郷に入つて郷に従はぬ。
 - 2、日本人は儲けた金を直ぐ日本に送つて了ふか、又は歸國して少しも我が國土を愛する念がなく、文化を建設し土地を開發することをしない。
 - 3、白人の如く日曜を守らない。
 - 4、風彩や住宅を構はない。

- 5、賭博者が多い。
- 6、時間や契約を守らない。
- 7、働き過ぎる。賃銀が安い。それがために白人労働者は他に轉居せねばならなくなつた。
- 8、行儀が悪い。
- 9、女癖が悪い。
- 10、語學を勉強しない。

大体こんなものであるが、之を識者又は加州在留者等に言はしむると、殆ど當つてゐないといつてゐる。賃銀の安かつたことは遠い過去のことである。只明治三十二年頃から急激に増加した邦人がよく勤勉して土地を獲得し、生産を高め、偉大な發展をしたのを見て羨望したのは事實である、即ち加州既開墾地千二百萬英町の中三十九萬英町は日本人の所有する所であり、加州の農産額五億弗の中一割一分に當る五百萬餘弗は我が邦人の手によつて生産された。今一英町の一ヶ年生産額を比較すると、加州全体の平均は四十二弗で、邦人所有の平均額は百四十一弗となつてゐる。(大正七年)この大なる差額が地價を釣上げてゐるのは事實で、彼等はこの地價高騰を日本の防害としたのである。然し生産高が増加し、それにつれて地價が高騰したことは邦人が米國に捧げた功績ではないか、成程永住するものが少なくなつたことは大なる缺點であるが、其の地の文化發達に何等功績がないとは言はれた話でない、之を以て排日の理由とすることは寧ろ言語同斷である。

又我が國人が同化しないといふなら猶太人はどうするか。彼等は今日も猶基督を信じない。猶太語を忘れない。紐育市だけでも猶太新聞が幾十種あるか知れないのである。それにも係らず彼等を排斥せず日本人だけを排斥する理由はないではないか、下等な點でいへば日本人よりも伊太利人がある。米國に於て靴磨きといへば伊太利人で、彼等は自分の名さへ書けない無智文盲の輩である。にも係らず彼等の入國を許して邦人を排斥する理由がどこにあるか。

以上述べ來つた理由が眞實でないことを証明する話がある。それは排日家として知られたマックラチーの告白談に、「日本人は氣力あり、野心あり、彼は長時間勞作し、然も其の當初低廉な賃銀にて勞働する。日本人は互に協戮す。其の團結の鞏固なる點に於て米國の勞働組合の比でない。彼等は節酒し、且つ精勵す。彼等は概して法規を恪守す。彼は其の長上及び父母を尊敬す。警察の報告によると、何れの市町も日本人のために面倒を惹起したことはない。然して日本人の諸性格は、經濟的機關として白人の到底對抗し得べき見込みがないから排斥しなければならぬ」と、又リヴィングストンに住する日本人を見て或米人は「當人の日本人は何れも高等の階級に屬し、何れも土地を有す。彼等は何れも組合にて土地を有し、専ら果樹葡萄等を栽培してゐる。彼等は節制あり、正直にして勤勉に、誠に好ましき市民である。彼等は生活程度の低下を欲せず、隣人の住するが如き邸宅に住し隣人と服裝を同じくし、隣人同様の善き馬、若くは自動車にて乘廻さんと企圖してゐる。余は日本人が未だこの地に於て善良な白人を逐ひ出した例を見ない。但だ、其の民族の何たるを論せず、善良なる農夫が不能なる農夫に代るは是れ當然のことである。當地に於ける日本人が善良な市民として米國に對する愛國的行動は如何なる讚辭も過言でない。彼等は何れの軍事公債にも、何れの公共事業にも一般市民の割前を分擔してゐる」といつてゐる。にも係らず排日家はリヴィングストンの入口に一丈八尺の高札を建て、「日本人入るべからず」と標示した。彼等は其の理由に、「日本人を排斥する所以は、米國の文明と同化せざるが故でなく、其の日本人であるが故に排斥する」といつてゐる。

以上述べた所によつて邦人が排斥されることは下等なるがためでなく、實に優秀なるが故である。換言すれば前に述べた表面の理由でなく、全く白人が有色人種に對する壓迫である。人種的偏見の結果である。これがために彼等は紳士協約なるものに飽きたらず、一九一三年外人土地法を實施し、更に之でも承知せず、加州東洋人排斥協會を組織し、

- 1、紳士協約を取消すこと、

2、寫眞結婚を廢棄すること。

3、日本移民を嚴重に排斥すること。

4、亞細亞人を永久に米國市民たらしめぬ政策を確立し合法的ならしむること。

5、米國憲法第十四條第一節を改正し、其の父母共に合衆國市民たるを得るの資格なきものは、其の子が合衆國にて出生したる兒童と雖も市民權を得さしむべからず。

といふ五ヶ條を掲げて排日を徹底的に行はんとするに至つた。其の會員の數今や三十万を超へ、大正十三年遂に彼等は中央政府に於て東洋人の移民を絶體禁止する布告をなさしむるに至つた。

茲に至つて私は絶叫したい。吾々は決して徒らに彼等の壓迫に甘じてはならないと、即ち彼等が常に主張する正義や平等の誤りを、吾々は平等に生存權を有する人類愛の立場から之を指摘し、彼に其の非を改めさせるだけの覺悟がなければならぬと思ふ。嘗つて私は或貴婦人に向つて海外發展の必要を述べた所、「他國の領土に移住して土地を得んと望むのは乞食でなければ侵略である。他人の所有を侵すことが罪惡であることを知るならば、優生學的に質のよい子供を少く産んで、自分の國土で生活の出来る様に各自が慎まねばならない。さうすると世界に争鬭は見ないで済むだらう。」

と、今日かゝる思想を抱くものは可なり多くなつてゐる。だが私はかゝる思想に全然反對するものである。何となれば生存は神が等しく人間に與へた權利である。國境を設けて人類の生存に差別を設けることは神の意志ではない。産兒制限などによつて子孫を否定することは最も大なる罪惡である。今日の南北兩米も、濠州印度も、亞弗利加も、歐州人の手に征服せらるゝまでは、土人が經營してゐた。それを白人は征服して自國民を移住せしめ或は土人を壓迫し、或はこれを滅亡したのである。今日の移民が罪惡ならば彼等も亦罪惡者でなければならぬ。彼等は罪惡を許して我等の生命を認めぬ法はない。私はこれを指して横暴といふのだ。勿論掠奪的移民は飽くまでも排斥するが、人口稀薄な地に移住して其地を開發し、新文化を建設して人類の幸福を互に授受せんとするこ

とは、最も正しい人間意識ではないか。吾々が主張する海外發展は其の意味である。私はどこまでも米國の横暴を憎み、白人の生存だけを認めて吾々有色人の生存を否定せんとする彼等に對して正義の力を以て闘ふ決心である又かゝる覺悟を我が國民に持たしたいと思ふ。この正義の觀念を持し、眞に移住地の善良なる市民となる覺悟があるならば、吾々は何時の日にか彼等の蒙を啓き、理想を實現し得ることを信するのである。吾々はこの理想を國民教育に於て教養しなければならぬ。只誤つてならないことは排日問題の表面に現れた理由が譬へ事實に相違してゐるとしても輕視することがあつてはならない。英、佛、獨、米何れの民よりも崇高な品格を涵養することは最も大切なことである。

C、我國民が今後海外に發展するにはどうしたら一番よいか。

1、海外投資

海外發展の最も有効なる手段としては言ふまでもなく、一つの産業、一つの企業が先づ海外に於て成育し、發達するの道を講じて然る後に人を送るといふことである。換言すれば海外投資によつて、一つの産業なり企業なりを起すことである。各國が今日海外發展上特に力を注いでゐる點も亦これである。英米兩國はもとより伊太利に於てすら何時までも努力戦ではないといつて、英米に劣らぬ投資をやつてゐるのである。

左に「殖民」誌上の記事を抜粋して投資の有利を知つて貰ひたいと思ふ。

「日一日と騰貴して行くブラジルのコンキスタ地方の地價は目下一アルケル(二町四反半)が一コント即ち三百圓だと言つてゐる。こゝら一帯の地は十年前頃は只で貰へる所だつたといふ。今では未墾地でも三百ミル(一ミルは三十錢)から五百ミルを唱へてゐる。鐵道線路を遠く離れた不便の所でも百ミルだといつてゐる。次に小作料に就て見ると少し極端な例であるが、今五百ミルの未墾地を借りたとする。勿論上等の地であるから稻作で糶百袋は取れる。其の二割五分即ち二十五袋は地代となるのである。今この糶を安く見積り一袋十ミルとすれば二

百五十ミルで年五割の利廻りとなる。二ケ年で地價は消却される。實は最高價格の時になると一袋二十ミルもする。だから小作料は年十割の利廻りとなつて一年で地價が回収されることになる。若し土地が二百ミル内外で手に入れられるなら其のまゝ貸付けても小作料として地價の二三割が年々這入つて来るわけである。これは單に地代から割出したものであるが、其他地價騰貴といふ二割乃至十割の利益が地主にはある。借りたものはこの高い小作料を支拂ふ外に森林伐採料として百五十ミル内外を支拂ふねばならぬ。それに地代を收穫後に拂ふとすれば年六割といふ法外な利息を附して拂はねばならぬ。これは取りも直さず小作者の膏血が絞られるわけで、日本移民の大多數もまたかくして苦しめられてゐるのである。

斯くの如く不當の暴利に黙從してゐる我が移民餘りに意氣地ない様であるが實はこれでも尙餘裕綽々たる利益があるのである。然らば其の餘裕金を以て土地を買ひ自作者とならないかを疑ふ者があるであらうが、そこが日本とブラジルと事情を異にしてゐる點である。即ち單價は安いが小地域の賣買は殆どやらない。小さくても何千町とか何万町とか何十万町歩といふので、千圓や二千圓の端した金では齒も立たないのである。之がために日本移民が地主たらんとしても容易に其の望みを達し得ない主な理由である」と。

斯くの如き事情の下にある我が移民を救済するためにも、又將來の發展策を講ずる上からしても我々は海外投資といふことを忘れてならない。資本さへ投するならばブラジル等南米地方に限らず南洋其他滿蒙地方にも有利な事業は多い。殊に支那南洋地方には支那苦力のために勞力の供給には不足ない位であるが、資本を以て行くならざれだけでも仕事はあるものと見て差支へない。幸ひ我が國でも最近資本家が海外方面に着眼する様になつて藤山雷太氏等南洋産業株式會社を起し、關西資本家に依つて秘路に棉花會社が創立され、ブラジルに鐘紡が棉花栽培に着手するとか、或は大坂の野村徳七氏がブラジルの土地に百万圓を投するなど新企業を起すに至つたことは何より痛快でならない。然しながら之を英米などに比するときは到底同日の論でないことを思へば、吾々は國民の發奮を一層望む次第である。

猶特に私が茲で絶叫したいことは、我が鹿兒島縣海外協會を始め十五の協會が設立されたことである。此等の協會が如何なる方法によつて設立されたかそれを詳かにすることは出来ないが、長野縣海外協會が一般縣民の零碎な金を集めて二十萬圓を作つた。そしてブラジルの地に長野縣が延長した。小資本で齒もたない土地が、零碎な金で手に入れた。それは金の力といふより縣民協力の力である。國家的自覺の結果である。これを思ふとき私の眼には涙を催さずにはゐられないのである。個々の力は誠に微々たるものである。零碎な金を別にしては何の力もないが、合しては實に大きな力となることを思ふとき、海外發展は海外に渡航し得るものも渡航し得ないものも可能である。即ち海外に渡航することは万人に望まれないが、零碎な金を出資して土地を日本人の手に入れ、其處に優良な移民を送つて充分に發展せしむることは如何なる人にも出來得ることである。この意味に於て海外發展の實は特殊の人に委すべきことではなく國民全体が其の分に應じて之に参加せねばならないことを兒童にも徹底せしめねばならないと思ふ。縣協會は其の機關として存在するものと思ふから縣民の海外發展は實に容易な立場であると思ふ。

2、移民

我が國や西班牙が殖民史上に失敗した所を見、英國が成功してゐるのに鑑みて今後は農業を目的とした家族移民でなければならぬことは、これまで述べ來つたことによつて明かになつたことと思ふ。現在我國がとつてゐる方針も亦そこにあるやうである。殊にこれまで我が移民が、少し貯蓄を得れば直ちに歸國するといふ殖民政策上最も拙劣な習慣があつたのであるから、この弊を矯正する上からも家族移民を奨励しなければならぬ。

然しながら我が國の人口問題は、今日の家族移民の數が國民の海外投資によつて、よし十倍となつても、五十倍となつても解決の域には達しない。こゝに於て他に又方法を講じなければならぬと思ふ。他に良案とは何であるか。それは單獨移民の奨励である。けれども其の單獨移民なるものは過去に於ける單獨の勞働者ばかりを意味するものではない。これも勿論必要であるが、寧ろそれより今後奨励すべきは高級な技術者を養成して送ること

である。歐州大戰前彼の獨逸は國民教育なり補習教育なりに進んだ科學を多く取入れて高級な技術労働者を養成することに努力した。そして單なる理髮師にしても、醫學的に或は藝術的に訓練した。斯る訓練を受けた技術労働者は英國あたりに這入つて行つた。英國の理髮店ではこの科學的訓練を受けた獨逸人を雇はなければ到底發展を期することが出来なかつた。私が主張する所も亦この意味であつて、この移民ならば或は永遠的ではないかも知れないが、其の代り人口稀薄な所だけを選ぶ必要がなく、技術上後れてゐる所であれば如何なる地にも發展し得る可能性がある。人類偏見に陥つてゐる米國であつても、我が技術に到底及ばないといふものがあつたら、どうしても入國を禁ずることが出来なくなる。これは適例でないかも知れないが、排斥されてゐる同じ日本人の野口英世博士は米國になくてはならぬ人物であるが故にあらゆる方法を講じて引留めてゐる。こゝまで我が國人が到達すれば人種的偏見も、移民禁止も徹廻されて世界人類の上に光輝を放つ日が来ることを信ずる。故に私は農業移民として家族的にも單獨的にも大に奨励すると同時に、この技術者を海外に送ることを考へて、今日の教育上に反省するところがなければならぬと思ふ。

以上述べたことに依つて移民の数を増すことを主張したのであるが、更に現在の移民が猶不振の状態にある原因が、移民の具体的方法に就て殆ど無智であることだと思ふ。例へば南米に渡航したくても、幾らの旅費を要するものか、如何なる事業に従事すればよいか、収入が幾ら位あるものか、氣候、産業、風俗人情等に就て全く不案内であるがために折角の雄志も實現し得ないでゐる者幾何あるか知れないのである。この方面の指導者がないことが我國海外發展上一大缺陷と言はねばならぬ。今日では力行會、日本植民通信社或は南洋協會、中央海外協會各縣海外協會などがあつて海外發展の相談にも應じ、指導もしてゐる。それに雜誌に「植民」「海外發展」「力行世界」其他實業の日本、新聞就中萬朝などは特に移民欄を設けて海外發展の指導をしてゐるから、移住地の事情も渡航の方法に就ても詳しく知ることが出来るのである。けれども地方農村に於ては青年は勿論教師もこれ等指導機關の存在さへ知らないものが多いのである。これでは到底地方農村青年の海外發展が振はないのは當然のことである。

とである

故に教育者は海外發展の具体的方法にまでも精通して機會ある度に之を授けることを怠つてならぬ。

3、貿易其他

海外發展の意味は決して海外投資、移民だけではない。貿易も其の一つであり、他にもまだある。

海外投資や海外移民によつて貿易が盛になることは前にも述べた通りで、鐘紡の南米投資や、秘露綿花の企業は必ず我が南米貿易に進歩を促す導火線たることは言ふまでもない。又海外移民が本邦生産の消費者で従つて移民が増加することは海外貿易が盛んとなる理由も前に述べた通りである。以上は其の發展の動機が他にあつた場合であるが、海外發展の一方法として貿易其のものを中心にして發展せしむるにはどうすればよいか。これが茲に述べんとする主なものである。

イ、中繼貿易を我が手に入れること。

即ち我國の工業を進歩せしめて、諸外國の製品に加工し、再び諸外國に賣出す如き、或は諸外國製品を輸入して其のまゝ之を需要國に輸出する如きである。つまり工業設備或は海運業の設備を完全にしてこの理想を實現するときは、海外に貿易者が分布することになり、又海運業發達に伴ひ海に發展するものが多くなるわけである。

ロ、海外へ商戦の勇士を送ること。

我國は本年八月海外に隊商を試みることになつた。即ち政府の援助によつて支那南洋北歐北米南米等に商戦の勇士を送つた。誠に痛快に堪へない。維新以來始めて國際貿易の受身から脱して茲に進出するに至つたのである。更に來年からは世界の主なる都市に我が商品館を設立する計劃があると聞いてゐるから、之が實現したならば海外貿易に一新機軸を與へるであらう。此の際吾々教育者はこの方面の發展を期し、より以上の成績を擧ぐべく、國民教育に鋭意努力しなければならぬと思ふ。

ハ、海運業者並に遠洋漁業者を多く出せ。

我が國民は島國でありながら海に少しも親しみを以てゐない。そして一般にかゝる海の勇士に對し一種の悔蔑の感を以つてゐる。實に不都合千萬な話である。

今後の國際問題は太西洋から太平洋に中心を代へんとしてゐるのである。其の焦點にある日本の海運は過去に於ける英國の位置を占めなければならぬ。隨而海に對する愛着心を養ひ海の勇士に對して尊敬しこの方面に發展するものが一人でも増す様に教育の上から努力しなければならぬ。

猶我が國は世界三大漁業地の一たるオホーツク海に面してゐる。然るにこの海の富は寧ろ露米に勢力を奪はれてゐるではないか。技術が他に劣つてゐる譯けでなく寧ろ其の方面に於ては他國人の追従を許さないものさへ持つてゐる。潜水事業の如きは之を証明するに充分である。にも係らず不振の状態にある理由は海に發展する氣運を教育上等開視してゐるからである。

要するに國民教育上、この貿易海運漁業等海に發展することを重視して、我が國民の海外發展を益々盛ならしむる様教育者の反省を求むる次第である。

四、教養の第三段

「僕は海外發展者として適格者である」といふ自信を與へること。

A、海外發展者として完全なる資格

1、精神的方面

イ、我れは大和民族であるといふ自負心を失はないこと。

今日何れの國民にせよ。國民的意識を有しないものはない。蓋し種族の繁榮といふ生物本能から見て、この國民的意識或は民族的意識の存在は誠に當然なこと、言はねばならない。北米に於ける排日も、印度に於ける獨立熱

も皆これに原因してゐると見てよい。今日植民政策の上に、民族心理を重視するに至つたことも又之がためである。

併し一方には文化の進歩につれて、人間の道德意識が向上し、前に述べた國民的意識とか民族的意識を否定して人間はすべて平等でなければならぬと主張するやうになつてきた。

我が國は人口過剰のために窮迫してゐるのであるが、北米に於て或は濠州に於て我が國民の移住を拒絶し、吾々の生存權を剝奪せんとしてゐる。若しこのまゝにして置くときは、我が國民は將來自滅するより他にない。茲に於て吾々は、吾々の生存を否定して終るか、それともこの行詰つた局面を打開して永遠に生きんとするか、即ち新しい局面に對する態度を確立しなければならぬのである。

この新局面に對して吾々はどこまでも自己の生存を否定する様な弱者であつてはならない。譬へ孤島の一角に漂着してゐても、アンデス山中に迷ひ込んで、自分の体内には大和民族の血が流れてゐることを忘れてならぬとして大和民族の理想を實現して後でなければ死なうといふ覺悟がほしい。この偉大な國民的意識と自重があつてこそ眞の日本人であるのだ。

併して其の理想は、今日の米國人などが有する様な排他的國民意識ではない。即ち人類愛から叫び出された至上至高の道德意識、換言すれば吾々人間に與へられた平等の生存權を主張し、又東西文明の融和を圖つて、我が同胞の移住する所には必ず新文化を建設して世界人類の幸福を永遠に築かんとするそれである。隨而我が國民意識なるものは決して排他的のものでなくて、互に異民族を包擁する力を有してゐるものである。

けれども猶今日の我が國民中には、大和民族の理想を履き違へて、狹隘なる愛國主義に捉はれ、排他的となり徒らに争鬪的氣分を誘致する様な度量の狭い島國根生を有してゐるものがある。故にこの點について一層注意して教養を誤らないやうにせねばならぬと思ふ。

ロ、永住の決心をなさしめることが大切。

兎角我が移民は、「どうせ一度は日本に歸り、布哇戻りと言はれたい。」といふ俗話の通りで、少し仕事に眼鼻がつくと直ぐそれを放棄して、所謂國に錦を飾らうといふ極めて淺果敢な考へを起し易い。それがために移住地に愛着がなく、恥はかき捨て、身を慎まず、功を急ぐの果ては賭博的根生に身を移し、土地の美風良俗を破壊して顧みないといふ破廉恥な行爲がやがて排日の口實を作るといふ始末になるのである。故に今後海外に發展せんとするものは、移住する所を永住の地とし、善い郷土を建設して其處に子供の繁榮を圖らねばならない。隨て出稼ぎ根生を出すことや、賃銀を得るための移民と心得違ひがないやうに、全く神の使徒と思ふまでにしなければならぬ。

ハ、移住國のよい市民となるの覺悟

海外に發展せんとする我が國民が、「青山到る處にあり。」といふことを眞に理解し、世界が我が愛する國土で、住む所が即ち我が墳墓の地であると信じ、世界人類を同胞として相包容し、互に人類の幸福を増進せんとする大量を教養するならば、必ず我が移民は其の地に愛着し、大和民族の移住する處に必ず新しい文化が建設されるであらう。この新しい社會の建設、人類のためのよい郷土を建設することを目的とした移民であつたならば、我が移民は其の國にとつて缺ぐことの出来ない必要な人物であるに違ひない。

これは北米人の煽動によつて排日案が議會に上程された際カンヰイ耕地の地主マガリエス氏が日本移民を評した一節であるが。

「私が最近自動車で私の耕地を見廻つたとき、日本移民の家屋に繻々として伯國旗の掲げられてゐるのを見た運轉手に其の理由を問ふと、日本人は伯國民と共に母國皇帝陛下の御誕辰を祝ふために我が國旗をかゝげて敬意を表してゐるのだと答へた。彼等は斯くの如く、國旗を尊重し、我が國旗に對して畏敬し、我が市民として母國に敬意を表してゐるのである。如何に我がブラジルの一員として重要な愛國的移民であることが分る。」

これを讀んで私は我が同胞の崇高な態度に泣かされた。海外に發展せんとするもの何れもこの態度でなければ

ならぬと思ふ。これまで述べた通り、吾々が全我を盡して移住する國土を愛し、其の地の開發に努め、文明國人としての体面を失はず、品格を重じて彼等に接し、彼等と共に國利増進に努めるならば決して我が移民に對し排斥すべきものではない。譬へ排斥することがあつたとしてもその不合理な論に耳をかす必要はない。マガリエス氏は又、「優秀な移民はその皮膚の色でなく感情が高尙で優良な性格の所有者であり、又労働能力に富むものである。」と斷言してゐる。眞に彼等が要求してゐる移民はさうである筈である。これがまた教養上の目標とならねばならぬ。これが缺けたものは發展者として資格のないものと見てよい。

二、隱忍自重して素志を貫徹する性格の人でなければならぬ。

海外發展、海外移民眞に青年の血を啖る言葉である。然し、自分を育て呉れた山河に永別し、血を分つた幾多の親戚を殘し、波濤万里を越えて、異郷に異民族と餘生を送らんとする寂莫の情忍び難いものあることは言ふまでもない。殊に異民族の支配下にあつて労働の辛さを嘗めなければならぬ。苦節十年を耐へて獨立するまではなか／＼のことでない。まして未だ斧鉞を加へられない林野を開拓するのは勿論、天災地變の暴威に見舞はれて折角の蓄財も水泡と消へることがあらうとも限らない。救ひを他に求めようとして求められず、衷情を訴へて慰められんとしてもそれはない。廣い天下に頼むものは只自己あるのみ。自己の力より他に頼るものはないのである。他からは想像もつかぬこの苦しみに耐へ忍ぶことが出來ず、事業の半ばにも達せず歸つたものが幾人あるであらう。この苦しみを遁れんとして一日も早く日本に歸り、聊かでも錦を郷里に飾らんとする一種の虛榮が遂に賭博に身を肖して身も浮ばれなくなつたものが幾人あるであらう。今日海外に成功してゐる同胞は決してかゝる人物ではない。隱忍自重して氣長に自己の素志を貫徹したものである。怒るな。如何に侮辱を受けても。理屈はこちらにあつても怒らないで仕事に精進しながら力を養ふほどの人物でなければ成功するものではない。敗けて而して勝つといふ覺悟こそ海外に發展せんとするものに大切な要件である。

ホ、宗教的信念を養ふこと。

普通の人間には寂寞と困苦は堪へらるべきものではない。この境地から救はれるものは只神を知るもののみである。彼のピリグリの一團が北米の今日を基礎づくつたことを回顧するときに最も雄辯にそれを物語つてゐる。彼等は不忠不信の徒として凡有壓迫を受け遂に英國を遁れ、難を和蘭に避けた。當時何れも赤貧洗ふ有様であつたが、然し純潔精悍で、不屈不撓、万難を排して自己の所信を貫徹し、自己の信仰を保持せんとする意氣を有してゐた。そして英國民として自由の天地に新生活を營み、宗教の自由を保持したいといふ決心から、遂に北米に移住したのであつた。彼等の目的は西班牙人が行つた珍寶の掠奪でもなく、土地の侵略でもなく、高い賃銀を得て錦を故郷に飾らうといふ野心でもなく物質的に豊かな生活を送らうといふ淺薄な者へでもなかつた。實に自由の信仰に生んがためであつたので、これを満足することが出来れば如何なる苦難もそれは問題でなかつたのである。實際彼等は堪へ難い困難に遭遇したのであつた。即ち彼等百餘人の團員は上陸してから流浪に流浪を續けて、一二月の極寒に遭ひ、家屋其他の設備は防寒に堪へず、敗血病其他の病に斃るゝもの一日に二三人づゝあつたので、一團も三ヶ月の間に僅か五十人となつて仕舞つた。彼等の困苦はまだそれだけではなかつた。本國から携へて來た鐵鎌をこつて、荆棘を拓き作物の種子を蒔いたが、それは殆ど實らず、漸く土人から惠まれた玉蜀黍の種子を蒔いて食糧の一部を之で補ひ、或は河海を漁り山野を獵して餓死を免れたのであつた。斯くの如き悲惨な憂目に會ひながらも猶彼等は素志を亂さなかつたのである。「神と共にこの苦難を忍ぶ」この心、この信仰があつてこそ、萬難を排して其處に麗はしい社會が建設されたのである。

この偉大な信仰生活、これは我が移民に否國民生活に最も著しい弱味ではなからうか。今後海外發展に成功せんとするならば最も強くこの宗教的訓練の必要がある。

へ、藝術的生活の涵養

嚴密にいふ藝術とは聊か趣き異なるかも知れないが、異國に寂寞を感じる其の切ない情緒を落付けて行かうとするには、自然に親しむこと、現在の生活を充實して更に之を展開し創造して行くことに興味を有することであ

つて、この意味に於ける藝術的生活である。一人の友達がなくても、畑に伸び行く作物の姿を見て言ひ知れぬ興味を覺ゆ、汗だく／＼になつて一日の仕事を終へ野良から歸る道すがら夕陽を眺めて唄ふそこに感興が湧き、或は原始的な生活が一種の詩でもあるかの如く感ずるやうになれたら、普通人が悲惨だとか困難だとか思ふことも、却て美しく且つ尊い氣持も湧いて、自分の生活を讚美することが出来るであらう。

これは唯宗教的信仰によつて得らるべきものではない。どうしても藝術的訓練にまたなければならぬ所があると思ふ。

ト、海に對する愛着心を養ふこと。

海外發展の障害は海に對する恐怖から起る場合が多いと思ふ。前にも述べた様に我國は島國でありながら、海に對する理解と訓練とを等閑視してゐる。彼の北米東海岸に在留する邦人の多くが海員であつたといふことから見ても、又彼等船員が進取的であることから見ても、海に對する愛着心を養成することが如何に重要であるか分るであらう。殊に海外發展といふことが移民に限らず、貿易は勿論海運遠洋漁業等であるから一層この種の訓練を重視して海に愛着を持たせることが大切である。

チ、子女教育を家庭に於てなす覺悟

今日海外に發展せんとするものゝ最も杞憂するところは子女教育と、保健の問題であらうと思はれる。保健上のことは更に後で述べることゝして、茲では子女教育に就て述べて置きたい。この移民のための教育施設といふことは外務省でも注意してゐることであるが、移民の少い所には學校建設は覺束ないことで、結局移民各自が家庭に於て其の缺陷を補ふといふより外には道がない。隨て家庭教育といへば母の任務とされてゐるが、一般に家庭移民では婦人も男子と同様屋外の勞働に従事するのであるから、其の教育の任も母にのみまかせず父も共に其の任を果す覺悟がなければならぬ。それがために教育學を學ばせるといふのでなく、子女の教育は自分でやれるといふ自信と、常に修養を怠らないといふ習慣とは小學時代から徹底せしめて置かねばならぬ。

以上は海外に發展せんとする者の資格として是非有しななければならない點を列挙したのである。

2、習慣的方面

イ、禮式を重する習慣を作る。

所を異にすれば習慣禮式もまた自ら異なるは言ふまでもない。かつてブラジルのゴヤス州に住んでゐた日本人が馬を殺して食つたといふ話がある。こんなことはブラジル人から見ると、想像も及ばない蠻行として嫌はれることであつた。之がため、其の日本人は周囲が危険となつて遂に夜逃げをした。ところが途中橋に差かゝつた所をブラジル人の銃弾に危くはねられやうとしたが、河へ飛込んで一命を得た。そして伊太利婦人に助けられたまではよかつたが、彼女の家へ伴れて行かれると間もなく其の邦人は、婦人の前も憚らず裸体になつて、濡れた着物を着かへた。それを見た婦人は仰天して、日本人は野蠻人だと今も猶笑の種にされてゐるさうである。つまり異國に行つて其の地の風俗習慣を無視したために失敗したといふ教訓には眞に相應しい話である。

東洋人の愛好してゐる美點は、東洋の零園氣に觸れて、分るものであつて、何等東洋に關して理解ないものは直ちにさうした實例を捉へて、雜誌などに嘲笑的に書いて排日の種にすることを忘れてならない。勿論東洋の美風良俗は之を彼地に移すことは極めて結構なことであるが、理解ないところで何でも構はず振舞ふことは大に慎まねばならない。郷に入つて郷に従ふことは誠に大切なことである。

だが郷におぼれてはならない。郷に従ふことは、郷に入つて郷を研究し、其の美醜を辨へて、今踏入れた足を再び引抜いでそれをどこに踏出すかを考へることだ。そして第二步をどこに、第三步は第四步はど次から次に考へて踏み出すところに文化の進歩がある。かうして吾々日本人の力で其の地に新しい文化を建設することが吾々日本移民に與へられた使命であるのである。郷に入るといふことは其の過程として實に意義がある。

- 一、草履や素足にて戸外に出づるべからず。
- 一、多勢にて歩くときは歩を揃へよ。

- 一、夫婦同伴の時は妻に荷物を持たすべからず。

- 一、子供を背負つたり、街上に放置すべからず。

- 一、衆人の中にて子供に乳をやり、又泣かすべからず。

- 一、街上にて高聲を發するべからず。

- 一、店頭にて弄花をなし、街上にて長談議すべからず。

- 一、街上にて唾を吐くべからず。

これは加州日本人會が、會員に注意を與へた個條であるが、これを見て彼等が如何に細心注意を拂つて其他の公衆禮儀を尊じてゐるか分るであらう。海外に發展せんとするもの實にこの態度がなくてはならぬ。

ロ、強健な身体を作つて如何なる勞働にも堪へ得るといふ教養が必要。

何事も強健な身体でなくては成功しないことは餘りに分切つた話である。殊に自己以外に頼るものもない海外移民に於ておやである、我が國が如何に窮迫してゐることが分り、一步海外に踏出せばいくらも幸福な地があることを知り、其の渡航の方法が分つたならば、我が同胞の頭には必ず「僕も海外に雄飛したい」といふ念が湧くに違ひない、そして之等の人々が愈々決行しようといふ段になると、「俺の身体は大丈夫かしら」「俺はどんな勞働にも堪へ得るかしら」といふことを先づ考へて、自信ないものは結局この壯圖を實現し得ないことになるのである。

我國の現今教育の如く智育に偏しては、到底この健康と勞働に對する自信を與へることは出來ない。故に私は絶叫したい。我國教育の上にこの体育の徹底と、勞働訓練を重視することを！特に高等科及補習教育の實業科に對して一大改善をなさねばならないことである。

ハ、衛生思想の普及と其の訓練に努力すること。

我が國は醫學の進歩に於て世界に其の名を知られてゐる。然し國民の衛生思想は之に反して實に言語同斷の有様

である壯丁検査の結果は常に低下しつゝあるではないか。

最近体育方面に國民が覺醒しつゝあるにも係らず、健康状態がかゝる有様であることは一に全國民に衛生思想が普及しない結果と見てよい。海外に移住するもの殆どすべて、何等衛生的設備のない所に行くのである。然も氣候風土を異にし、暑熱と闘ひ、極寒に遭遇し風土病に悩むといふ場合が多いのであるからこれを免れる唯一の策は實に衛生思想の徹底と其の訓練にまつことである。

故に常に心掛くべき保健上の知識、病氣と其の手當法、家庭に備ふべき醫療器具と其の取扱法、急救療法等實際問題として教養することが即ち發展者としての資格を與へる所以である。

3、組織的方面

イ、科學的企業の方法に慣れしむること。

何れの企業にせよ、それを科學的ならしむるといふことは、今後の發展者に対して最も必要なことである。一般に我が國民はこの方面に大なる缺陷がある。企業に際して精査し、熟慮することが充分でないばかりか、結果から事業を考察して工夫改善し、合理化することに缺けてゐることは現在の移民が之を證明してゐる。例へば農業方面で、作るといふことは相當成績を擧げてゐるが、それを如何なる方法によつて賣れば最も有利であるかを深く考へない。又、資本や勞力を如何にすれば最も合理的であるかを考へない。只徒らに投機心に煽られて無數法なことをしては笑話の種子を残すといふことが多い。これはブラジルに於ての話であるが、堅實にやりさへすればブラジルに於て農業に失敗することは絶体ない。それを矢鱈に慾張つて手に餘る開墾をする。それで先づ播種除草だけは不完全ながらやれるが、いざ收穫期になると雇ふべき人が見付からない。自分だけでは手が廻らぬために、豐滿した穂先から穎が落ちこぼれるのを見ながら見す／＼捨て／＼はねばならぬ滑稽な悲惨事が演ぜられるといふ。又幸ひに雇ふべき人があつて無事に收穫はしたが、高い賃金を支拂ひ其れに反して收穫物が豫想外安かつたため、踏んだり蹴つたりの憂目にあひおまけに折角の資本も失つて再び賃銀勞働に返つたものやこれに類

した悲劇が澤山ある。

次に損益關係を一目瞭然にして經營に違算を生じない様に、簿記なども知らして實際に運用出来るまで慣れさせなければならぬ。

要するに充分な思慮と、研究とを重ねた上、企業と經營とを合理化して行くやうに、指導し訓練することが大切だと思ふ。

ロ、組合事業に慣れしむること。

個人の方は二人の力に及ばない。小なる團體の力は大なる團體の力に及ばない。この平凡な理由を、精神的にも物質的にも又何處に於ても利用することが人間の團體生活に無視することが出来ない。殊に經濟上には其の必要があり、内地にあるものよりは海外發展者に一層必要なことである。それに係はらず今日海外にあるものや、もすれば功を急ぐの結果協同の力を無視し、互に競争反目し、或は私派を作つて隱に働き、感情に流れて人を容るゝの度量がなく、ために組合事業の類が極めて發達しない。

若し彼等に協同の信念が高いならば産業組合もうまく發達するであらう。金融機關の不備な移住地であるから信用組合などがあつたらどんなに助かるか知れない。購買販賣は勿論利用組合などの設立を見たならば、開墾にも收穫にもどんなに便利であらう。其他個人では出来ないが協同では出来るといふことは澤山ある。土地購入なども其の適例である。故に組合組織の事業經營に對しては、其の知識と實際訓練とも最も重視しなければならぬ。

五、形式的方面より見たる方法

A、海外思想普及の根本方法

先づ教育者が自覺し、それに關する研究をなすことに始まる。

或人が教育者に向つて「今日教育上猛省しなければならぬ點は何であるか」と訊いた。この問に對して

「兒童の個性をもつて尊重した教育に進むこと」

「自由教育の普及」

「自學主義の教育を確立すること。」

「八ヶ年義務教育の實現」

等色々答が出来た。何れも重要なことに違ひない。然し其の何れもが近代歐米諸國に唱へ出されたものを受入れてゐるかの様なものに限られて、我國の立場から考察された教育の實際問題といふものが一つとして出なかつた。又官尊民卑の餘弊か、「文部省で決められたことを行つておればそれでいゝ」といふ傳統的氣分が今更教育者の大部分を支配して、教育の實際を時代化することに不頓着である。そして教育者の殆どすべてが教育の末技に没頭して、其の根本を忘れてゐることに驚く。

我が國の人口が諸外國に對して如何なる比例をなしてゐるか、今日の生活難が如何にして來てゐるか、我が國民がどれだけ海外に發展してゐるか。我が國の資源がどれだけだけの生命を有してゐるか。之に對して明確な答をなし得るものが幾人あるであらうか。生活難といへば直ちに資本家の罪となし、社會制度が悪いためだと不平を並べる。或は自分の地位と待遇に不満を抱くものが多いが國家の運命に對して慷慨するものはない。慷慨するものはあつても身を以て之に當らんとする程の熱と力を有するものは全くないといつてよい。これは最近新聞紙上で見たのであるが、鳥根縣の某村長が言葉盡して村民にブラジル移民の有望と子孫の幸福とを説いたが、村民は容易に之に應じなかつた。然るに彼れ自身が所有田地を賣却して渡航の意を示したところが、一村擧つて其の壯舉に加つたといふことである。茲まで教育も進まねばならぬ。この熱と力を見せねばならぬ。

然るに我々教育者が國家の窮境をさへ知らずして、次代の國民に其の救済と運命の打開を望むことが出來やうか。今海外思想普及の問題に就いても、教育者各自が十二分の國家的自覺を有して、我國の前途に涙を落す位で

あるならば、世界の事情に精通して文化の動きを凝視してゐる教育者があるならば、其の者に對しては別に方法を説かなくても、この問題の過半は解決されたといつて差支ないと思ふ。故に私は

「教育者の國家的自覺」

を絶叫するものである。今日の窮境から我國民を救ふことは海外發展より外にないことを教育者自身が先づ痛感しなければならぬと思ふ。

之がため教育者は常に海外研究を怠つてならない。本年四月長野縣に於て上伊那郡飯島村の青年六十名が海外研究会なるものを創立して國民的自覺の第一聲を擧げてゐる。教はるべき者が教ふべき人に教へてゐる形で、教育者たる吾人は實に恥かしい話であるが、實際眠つてゐたのだ。吾人はこれ以上眠つてならぬ。そして醒めなければならぬ。而して教育者同志或は青年合同でもいゝ一日も早くこの種の研究会を設けて修養機關にしなければならぬ。その研究の結果は兒童教育の資料に充つるばかりでなく青年教育の資料ともするやうにせねばならぬ。

次に、最近小學教師の海外視察が行はれるに至つたことは眞に慶賀に堪へない。然しそのすべてが西洋文化の爛熟し切つた遺跡を巡禮して、我が文化の種子を下すべき地に向て視察を試みないのは何といふ誤つたことであらう。希くは我が縣教育會に於て自覺の第一矢を放たれたいものである。

B、教養に資すべき教科と其の取扱

1、地理科

海外の事情を知ること地理教授に俟たねばならぬ。それだけ海外思想普及に重要な科目である。然し今日の地理教授には次の様な點に注意を拂はなければ所期の効果を擧げることが出來ない。

イ、我が海外發展地として目せられてゐる、支那就中滿蒙。印度地方、印度支那、暹羅、馬來半島及馬來群島、シベリヤ、南北兩米等に就ては、我が同胞の活動及び其の地の地勢産業氣候は勿論其の歴史や渡航の方法等に就ても知らしむること。

ロ、世界各國の取扱ひに就ては、我が國と比べて長短を明かにすること。

2、國史科

海外發展の教養上國史科に於て徹底せしむべき事項は、

イ、我が大和民族の理想が高遠なること、

ロ、我が民族が極めて發展的であることは大に意を強くすることであるが、然し尙武の弊として多く掠奪的であつたこと、それと男だけの殖民であつたが爲めに失敗したこと。

ハ、我が國の鎖國と西洋諸國の東方政策とが時を同じゆうして、我が海外發展を不利な位置に至らしめたこと。

ニ、明治初年以來の我が對外關係。

ホ、我が國史に關して近世萬國史の概要を授け、

ヘ、今日の國際場裡に於ける我が對外方針を確立して其の普及徹底を圖ること。

3、修身科

修身科に於て重視すべきことは、

イ、國際的禮儀の實踐指導

ロ、大國民としての品格向上。

禮儀に限らず、社會國家に對する權利義務の履行と、小事に懈弛せざる度量の涵養。

4、算術科

算術科に於ては

イ、移住國の通貨度量衡等の計算に慣れしめ、

ロ、海外思想普及に有効なる事項を捉へて問題を作製すること。例へば人口或は面積貿易其他事業計劃等に

教材をとる如き類。

5、理科

イ、科學的頭腦の修練と研究的態度の養成に努むること。

ロ、生理衛生の教授の場合に於て、食物、急救看護、其他衛生的設備に就て知識と實際とを指導すること

6、手工科

イ、家具其他日用品の修理製作

ロ、勤勞又は製作に對する趣味を持たしむ。

7、實業科

農業商業其他の技術の教養を主とする實業科にありては、

イ、研究的態度を養成すること。

ロ、常に仕事に、勞力、資本、賣買等の關係を離れない様に、經濟的に効果あることを主眼に置くこと。

ハ、勞動に堪へしむる様に鍛練すること

以上であるが、今日の實際教育を見るに、經濟といふことを甚だ閑却してゐる様に思ふ。例へば農業科に於て其の實習を見るに、一坪乃至二坪の實習地に數本數株の作物を植わ、勞力と肥料を無制限に施し、收支關係がどうあらうと要は立派に成育すればそれでいふことにしてゐる。私は常にかゝる實業教育に極力反對してゐるものである。何となれば、實業といふ以上は經濟を閑却して存在するものではない。故に最も小なる資本と勞力を投じて、最も大なる收穫を得んとすることを根本原則として教育されることが所謂實業教育でなければならぬ。猶更に生産の多量を望むと共に高價に賣却して多大の利益を得んことを工夫せしめねばならぬ。こゝに留意しない實業教育をさして私は一種の遊戯であると思ふ。遊戯化された實業教育には研究もなければ、勞働の鍛練もない。故に家庭なり學校なりで相當の面積ある實習地によつて眞の實業教育が行はれねばならぬ。

語學は今日小學校に於ては正科として認められてゐないが、隨意科としては課してあるところが多い。だが海外發展の教養から見て大に改善する餘地がある。

即ち今日課されてゐる語學は英語に限られてゐる。最も英語の使用範圍は廣いので隨而之を學ばしめることは悪いことではないが、移民地が今日南米を主としてゐる點から見れば英語が餘り役立たない様に思はれる。寧ろ西班牙語或は葡萄牙語を授くるに如かないと思ふ。殊に移民する階級のものには多く中等程度以下の教育を受けたものである。故に小學校は勿論中等學校殊に農學校等に於てはこれ等の語學を學ばしめたいと思ふ。

其他馬來語、シヤム語、支那語なども大に普及せしめたいものである。

イ、体操科に於て身体を鍊へ、

ロ、音楽に親ませ高尚なる趣味を養成することも亦大切なことである。

C、教科以外による海外思想普及の方法

1 兒童讀物

英國が今日世界に大殖民地を有するに至つた理由の一つとして見通すことの出来ないのは、一七一九年彼のデフオーの手によつて書き上げられた不朽の名著「ロビンソン漂流記」の力である。英國民はこの書によつてどれだけの海外熱を煽られたか知れない。著述の力が如何に大なるかを知らねばならぬ。

我が國に於ても、最近兒童讀物の出版物が著しく發展して教育上裨益してゐる點は尠くない。にも係はらず海外思想普及のためにより著書が少くないのを最も遺憾に思ふ。だが全くないではない。浦島太郎の話や、桃太郎の鬼ヶ島征伐などは何れも海外發展を意味し、構想もなか／＼面白く出来てゐるので非常に歓迎されてゐるものであるが、浦島太郎は男だけの移民で、桃太郎の話は掠奪的植民を讚美してゐる。軍國主義を鼓吹する上には最も

よい材料であるが、今後の植民政策から見れば寧ろ排斥すべきである。かゝる點からロビンソンの話を見ると、實に一分の隙もない立派な作である。故に私は數に於ても益々多く、内容に於ては更に一層精選されたものを、出版業者は勿論縣教育會などでも澤山出版されることを希望して止まない。

ロビンソンやコロンブス等については既に多く出版されてゐる。然し他にまだ、セシルローズの傳記や、阿弗利加或は樺太探検記などの類とか、佐藤真淵の宇内混同秘策を取扱つたもの、南洋南米或は滿蒙シベリヤ等の富源を叙した趣味あるもの、海外邦人の成功美談などまだ材料はいくらでもあるが出版されてゐない。こんなものを自分で書いて見たいと思つてゐる位である。兎も角この種の兒童讀物が多く出版され、多くそれが讀まれたならば海外思想普及の上に偉大な効果を齎すことは論ずるまでもない。

この讀物によつて海外思想を普及せんには、前にも述べた通り出来得る限り廣く讀ませることが必要で、學校に兒童文庫を設けることや學級文庫の設備を完全にすると共に、縣教育會や縣圖書館の巡回文庫などをうまく利用することであると思ふ。

2、活動寫真及名士に講演

百聞一見に如かずといふことがある。活動寫真によつて海外邦人の活動狀態或は目も覺むる様な富源を見せられた場合必ず誰れにも海外發展の氣分が湧くであらう。この方法は既に移民を奨励し、或は之を取扱つてゐる會社や團體の手によつて行はれてゐることであるが然しまだ其の手は廣く全國に行亘つてゐない。故に我が縣教育會や協會等でもこの實寫を以て思想の普及を圖つて貰ひたいと思ふ。

猶活動寫真ほごに土地の富源や活動の狀態を具體的に又如實に知らせることは他の方法に於ては出来ないことである。然し寫真によつて與へられる知識の範圍は極めて狭い。そこで實際に經驗し或は見聞して來た名士等を招いて講演は何より効果の多いことゝ信ずる。

3、兒童の海外視察

本年成城小學校では、夏休暇を利用して兒童の北米漫遊が試みられた。實利から見ても國際的立場から見ても誠によい企てである。

四四

文明諸國に向つてこの企てを誠みること結構であるが、又我國民が將來發展すべき滿蒙シベリヤは勿論南洋南米地方に向つてもこの海外視察が行はれたならば、どんなに我が國民の海外發展に利益を齎すか知れない。然し何といつても多額の費用を要することであるから、一府縣で企てることは六ヶ敷いかも知れない。又餘りに少數で効果がないと思ふ方もあるかと思ふ。更に又小供が見て来たところで役に立たないと主張するものもあらう。然し何れも其れは誤つた見解だと思ふ。譬へ少數でもそれがために海外發展熱が非常な熱が高潮することを斷言する。又子供には大人の様に部分的に深いところは映じないであらうが彼等の眼に觸れた大きな氣分といふものはそれが將來如何に發展して行くか知れない。必ずその見聞した事實は彼等の生命となつて大きな芽生ねがして來ること亦相違ない。

六、學校に於ける教養を徹底せしむる補助として

——「家内親族の者が理解ないために折角の決心も遂げられない」といふことがない様に——

「海外に雄飛したい」といふ希望が湧き「僕なら海外發展者として適格者である」といふ自信があつて、自分だけは既に決心したが最後になつて両親や兄弟親族が理解ないために、遂に素志を貫徹することが出来なかつたといふ場合が出て來ないとも限らない。これでは海外思想普及が完全とはいへないのである。

故に海外發展の實を擧ぐるためには、どうしても學校の教養だけに止むべきではなく、其の周圍にある障害物を除去する。換言すれば一家親族に至るまで、海外に發展せんとする其の壯圖を益々力づけてやるといふ立場になさねばならないと思ふ。つまり一般社會人に對して、海外思想普及の徹底を圖らねば、學校に於ける教養が徒

勞となる場合が多いといふのである。この方法として、

- 1、小學校以外の諸學校に於ても海外思想の普及を圖ること。
- 2、青年會或は教師青年の海外研究會を設立して互に海外事情を知ると共に之を一般に發表すること。
- 3、活動寫眞及講演會を盛に開くこと。

これによつて、一般の海外發展熱を高潮し、氣勢を擧ぐるならば、必ず一方には發展せんとするものを鞭撻し、一方には其の高潮した氣勢のために學校の教養がより以上に効果を收めることが出來ると信するのである。

二等當選

元 鹿兒島尋常高等小學校訓導
現在 東京市外濫谷町廣尾小學校

中 馬 玄

目次

- 一、日本人海外發展の急務…………… 四九
 - 1、日本の人口問題 ●我が國當面の問題と人口増加 ●日本の耕地と食糧不足 ●人口過剰と其の解決法
 - 2、海外發展の精神並に其の方針 ●誤れる從來の殖民政策 ●移民か棄民か ●列強諸外國の移民 ●邦人の缺陷と我等の態度
 - 3、國威伸張 ●近代に於ける道德の頹廢 ●天恵少き島國の日本 ●未來大帝國たるべき日本
- 二、日本國民性と海外發展…………… 五一
 - 1、日本人の國民性 ●邦人の國民性 ●發展的國民性の二三 ●短所と長所
 - 2、海外發展の史的觀察 ●邦人の海外發展史 ●殖民移民を忘れて居た日本 ●政府の移民事業着手
 - 3、祖國愛の思想と海外發展 ●背景として國民同情の必要 ●平和時に於ける愛國的精神
 - 4、日本人の新發展地 ●移民地撰定條件 ●日本現在の移民狀況 ●將來絶望の地 ●有望なる發展地
- 三、海外思想普及方案…………… 五五
 - 1、各教科に於ける海外思想養成
 - イ、修身科 ●日章旗の翻る處之日本祖國思想の養成 ●公德心の養成 ●女性の發展思想 ●教科書に表れた好適教材
 - ロ、國語科 ●現在教科書に表れた好適教材 ●取扱上の一例 ●海外讀本の必要

- 綴り方との交渉
- ハ、地理科 ●讀圖力の養成と郷土地理取扱の重視 ●教材書に表れた教材と其の補説
- 補説の標準と其の中心
- ニ、國史科 ●國民性自覺の喚起 ●愛國心の啓培
- ホ、唱歌科 ●唱歌教材の擴充
- 2、各種の學校施設
- イ、海外讀本の編纂 ロ、在外日本人小學校との音信交換 ハ、海外事情の講話
- ニ、揭示教育 ホ、寫真繪ハガキ圖表海外圖書及圖書室
- 3、海外教育資料蒐集
- 4、海外發展と思想訓練
- イ、國民性の訓練 ●國民性缺陷と其の反省 ●家族的改善の問題 ●忘るべからざる忠君愛國心
- ロ、女子の海外發展 ●婦徳思想の改善 ●慰安者共働者としての婦人 ●在外婦人徳性の反省
- ハ、國際聯盟と國際強調の精神 ●聯盟の目的と作用 ●聯盟會に於ける日本の地位
- 第二義としての正義 ●協調の精神
- 第二日本國民の養成 ●新日本建設と教育者の覺悟……………六四
- 四、結び
- 附 録
- 其の一 小國民の海外讀本……………六四
- 其の二 海外資料……………六五

一、日本人海外發展の急務

1、日本の人口問題

●日本當面の問題と人口増加
 皇統三千年國運を賭するが如き試鍊を經、國家意識を鮮明にし咀嚼撰別し、其の間我が國情と國民性は幾多愛國の至誠を燃わしめた。是大和民族三千年の永續である。今日世界各國間に考慮され論議されて居る問題の一つは移民の問題であらう。我が帝國の現状を見るも年々七十萬の人口増加を見るに至り、人口増加は國家に取り喜ぶべき事ではある。然し限りある領土に無限の増加を容るるは前途を悲觀せしめるもので人口増加は正に日本當面の重大な問題である。

●日本の耕地と食糧問題
 各國人口の密度と比較するも第三位で人間居住の平地のみの平均は一方哩一九八〇人世界第一位である。一億五千萬圓の食糧輸入よりしても人口過剰は事實上明白な問題である。

●人口過剰と其の解決法
 七十萬の増加をもつて日本將來をトすれば三十年を出でずして一億を算する事は明白の事實である。歐米諸國の産業革命後都市集中の傾向をして日本七十萬人の同胞増加を先進諸國の後を追ふもので憂ふるに足らぬと論ずるにしても食糧すら自給自足に苦しみ、都會に於ける失業者の數を見るも、現今日本の最大の悩みは實に永遠の大計劃を樹立し三十年後の日本を整へて行く事である。其の道は何等矛盾なき筋立つた一貫せる教化宣傳に依り海外へ發展せしめる以外に方法はないのである。

2、海外發展の精神並に方針

●誤れる從來の根本政策

日本が海外移民を始めてより四十年の星霜を閲し五十萬餘りの少數に止まつてゐることは當局者が海外發展の精神を誤り當事者又營利にのみ没頭し移民者自身が墳墓の地を戀ふる國民性に捉はれてゐたのではあるまいか。

●移民か棄民か

南米移民の如き移民でなく棄民の觀あり厄介者を出せばよいといふ精神で移民會社なるものも移民より金を取ればよいといふ體方であつた。三十年間に三千萬の同胞を海外に移すは痴人の夢を説くものと笑ふかも知れないが空想でなく事實である。政府は移民に對し保護を加へ積極的な組織的な移民政策を取るべきである。

●列強諸國の移民

日不没大英國も世界覇權掌握せる北米國も此の移民に成功した結果である。今や武力的世界主義は去り世界平和は國際聯盟に依り世界平和へと歩いて來た。然し聯盟の完全永續も疑問であり、人種問題紛糾する今日政府益々慎重を要する時であり、人種平等相愛共營の大理想の下に脚下の恥を凌ぎ宏大そのものの日本人としての態度もここに生れるのである。一体邦人の短所は英人の有する如き目先の利を追はず遠大に着眼し巧みに支那人を使用し長い間に同化せんとする態度を缺ぎ、且つ又何等支配者としての威儀を失せず悠悠々迫らざる永續的努力をなすのが英國國民の移民地に於ける生活である。

●邦人の缺陷と我等の態度

我が商人に至つては外國人と反目し、邦人同胞相食むは事業不振を證明するもので歐州戰中獨逸商品販路の後釜に据り込んだ日本商品も今又英國人の感情を害しつゝ、あるといふ。當局者及び移民當事者は世界の趨勢を洞察し永遠を期待し世界全般種族の親交を期しつゝ堅忍持久の精神を持つべきである。

3、國威振張

●近代に於ける道德の頹廢

最近六十年間の國威は旭日昇天の状態であつた。然るに現代邦人の國民性の道德頹廢は個人の根底となる思想の

惡化と共に國威振張への大障害であり邦國海外發展の先決問題である。

●天恵少き島國の日本

更に我が地理的天恵は食料の如き石炭の如き主要礦物銅鐵も列國の補助を仰ぎ將來動力の母たる石油も少く水力利用あるのみである。それ故人力に依り智慧に依り工夫し不足も補足せねばならない。

●未來大帝國たるべき日本

絶對數六千萬の同一民族を有する日本帝國は大帝國たるの資格を具備するといへる。我等は更に教育立國策を建て民族の分離膨脹を計り將來國家を泰山の安きに置く事を勉めねばならぬ。

二、日本の國民性と海外發展

1、日本の國民性

●日本人の國民性

海外に於ける競争場裡に優越權を認め他をして認めしめる根據は日本國民精神と文化を創造し來つた國民性に存するのである。

●發展的國民性の二三

- 第一冒險性に富む國民性
- 第二反撥性強き國民性
- 第三古くて日に新しい文化的國民性
- 第四統一力ある國民性
- 第五實際的な國民性

● 短所と長所

簡易生活に堪へ粗食に甘んじ飯食を厭はず尙武的氣象名譽廉潔を重んじ快活に現實性に富み慇懃温和は長所たるも、反面に淡泊なるも思慮を缺き忍耐力弱く意志薄弱因循姑息依頼心強く經濟思想乏しく具案的計劃的ならず責任感乏しい。然し同化力あり統一力ある國民性は列強の地位と並び得る要素を有してゐると言ふべきである。

2、海外發展の史的觀察

● 邦人の海外發展史

冒險的發展的國民として海外發展の素質を先天的に有する事を伺ふ事が出来る。

イ、神代に於ける大和民族の雄圖を見るに地理的知識なき頃より仙境樂土の此の地を探り冒險敵愾の氣象は

日本海を往來調歩してゐたと想像さる。

ロ、上古に於ける冒險を見るも聖德太子が唐に送りし國書に表れし氣概を思ふべく弘法大師以來退嬰固守の政策となつたが、日支通商の利を企てた爛眼者は平清盛である。

ハ、鎌倉時代の海外冒險事業は日本商人により支那海に船を浮べ九州より明への航路すら發見せり。

ニ、南北朝時代に於ける發展は所謂倭寇となり朝鮮支那の近海を荒した。

ホ、足利時代に於て海賊漸次發達し船体の改良操縦器械の使用水兵の指揮に見るべきものがあつた。不世出

の英雄秀吉により國內平定してより殘黨はマニラ、呂宋より南洋印度に向ふ者もあつた。

ヘ、江戸幕府時代に入つて高田一揆により海外交通を禁じたが家康は倭寇を公然許可し前後百七十艘に朱印

船を許し交商國二十國に達した。又九州豪族はローマに使節を送らしめ駿河の山田長政等の暹羅渡航等

あり、江戸初期の我が商人は皆海國男子たる資格を有したり。

江戸時代後半高田屋嘉右衛門。間宮林蔵、松田傳十郎等の樺太地方の探險あり、加賀の人錢屋五兵衛等

兩替等をも營む者あり。然し徳川三百年は隱進退守に向つてゐたが、幕末に於ける黒船渡來は俄然長夜

の眠を醒まし開國の急を叫ぶ者もあつた。明治維新の大業を見るに開國進取の國是を樹立せしは先天的冒險的氣概の大和民族精神に依るものと認了せねばならない。

● 殖民移民を忘れた日本

日本人の傳承せる精神の發露は國運の旭日昇天の伸張をなしたが、三千年の歴史上何等殖民政策移民政策の行はれざりし事である。只神功皇后の外征と秀吉の征韓戰國時代諸侯の南洋發展位のものである。

● 政府移民事業の着手

明治三十二年二百九十名を北米に全四十一年三万二千人をブラジルに送り以來五十八万人の在外邦人を數へる現狀である。我等祖先と共に有する進取的冒險的氣象こそ絶大の動力たるを信ずる。

3、祖國愛の思想と海外發展

● 背景としての國民一般の同情

現代に於ける帝國の危機と云ふべき人口處分問題の解決こそ眞に愛國の熱情により處理せらるべき問題であらう

● 平和時に於ける愛國的精神

世界平和戦は産業競争となり帝國を窮地に陥れんとするの時、邦人活動の地を廣め製産品の販路を擴め工業原料の地を索めねばならない。愛國の熱情こそ海外發展者への同情となるのである。

4、日本人の新發展

● 移民地としての撰定條件

イ、土地廣く地味肥沃なること。

ロ、氣候風土が我が國に類似すること。

ハ、我が國との距離近きこと

ニ、人口密度少く競争者の少きこと。

ホ、國際關係密接で人種的偏見なく歡迎する土地、

ヘ、其他母國の損失にならぬ事

之に依るならば濠州カナダ北米ハワイ等は將來絶望であらう。

●現在邦人の移民状態

亞細亞地方へ二十四万四千五百二十五人

北米地方へ十五萬四千八百九十七人

南米地方へ五萬千七百四十六人

大洋州へ十二萬六千六百九十三人

歐羅巴地方へ三千四百八十人

●將來絶望的な地方

イ、濠州||人種排斥の第一聲の地

ロ、カナダ||東洋有色人種の禁止の地

ハ、北米合衆國||一昨年排日事件以來絶望となつた。

●將來有望な發展地

イ、亞細亞方面

A、支那滿蒙地方

E、蘭領東印度

ロ、南洋地方

A、ペルー國

之を思ふ時邦人新發展地を憂ふるを要せないと思はれる。

B、シベリヤ東部地方

E、蘭領東印度

ロ、南洋地方

A、ペルー國

之を思ふ時邦人新發展地を憂ふるを要せないと思はれる。

C、マレー半島

E、蘭領東印度

ロ、南洋地方

A、ペルー國

之を思ふ時邦人新發展地を憂ふるを要せないと思はれる。

D、マレー諸島

E、蘭領東印度

ロ、南洋地方

A、ペルー國

之を思ふ時邦人新發展地を憂ふるを要せないと思はれる。

三、海外思想普及方案

1、各教科に於ける海外思想養成

イ、修身

●日昇旗の翻る所これ日本祖國なる思想の養成は愛國心の新方面として海外に發展し日の九旗の翻る處祖國の延長にして世界到る處の青山を墳墓の地とする覺悟の養成は本科の重要な使命である。

●公德心の養成 公共團體外國人に對する公德心に至りては不思議な程缺けてゐる。排日論者も此の爲不信用を來し遂に排斥をなすに至つたものとすら言はれてゐる。

●女性の海外發展思想 日本婦人固有の道德思想の改善と徳性の反省である。男子と共に海外に發展する女性として外人に恥ぢざる思想を與へる事は將來の婦人としては必要な事である。

●教科書に表はれた好適教材

卷四 第四志を立てよ。第五皇室を尊べ、第十一忠義、第十三自立自營、第十五志を堅くせよ、第廿二國旗第廿六公益、

卷五 第一課我が國 第二課舉國一致 第五課公益 第六課衛生 第七課衛生 第十二課進取の氣象 第十五課勇氣 第十八課主婦の務 第廿三課誠實 第廿六課德行

卷六 第二課國運の發展 第四課國交 第五課忠君愛國 第七課祖先と家 第九課進取の氣象 第十一課自立自營 第十二課公益 第十三課共同 第十六課良心 第十八課國民の務 第廿一課男子の務と女子の務

ロ、國語

現在教科書に於ける好適の教材

各教科中海外發展思想養成に尤も適切なる學科は無論地理科であらねばならぬが國語科に於ける教材は多種多

様千差萬別で多方面に渡つてゐて従つて此の思想養成の材料を多く見出す事が出来る。

五六

卷五 第一大日本 第十八ツバメ

卷六 第廿一神風 第廿二象

卷七 第一世界 第二横濱 第十獅子と武士 第十二大連だより

卷八 第五楊子江 第六吳鳳 第十八アメリカだより 1 サンフランシスコから 2 シカゴから 3 ニューヨークから

卷九 第二トラツク島便り 第七ナイヤガラ瀧

卷十 第八開墾 第十三京城の友から 第十五輸出入

卷十一 第三上海 第十二ゴム 第十四北海道 第十五南米より

卷十二 第八歐羅巴の旅 第十二國旗 第廿七我が國民性の長所と短所

海外讀本の必要

我が國民の海外に於ける過去現在に渡りその活動の状況を知らしめ且海外在住の成功者並に海外便り等兒童の感奮興起すべき教材を加味して課外讀物の指導と共に此の種讀本の指導を希望したい。

●綴方との交渉

其の土地より海外在住邦人への音信や返信等を作らしむ。又各科における既得の智識を基として其の地を想像し人情風俗物産等の童話や詩や歌を創作せしむる。

要は現在教科書に表はれたる教材取扱に對し兒童をして海外と邦人の活動とを知らしめ以て海外發展の方法を理解せしめねばならぬ。

ハ、地理

●讀圖力養成と郷土地理取扱ひの重視

先づ第一地圖を視る習慣を養成せねばならぬ。然して其の基礎養成は郷土即我が鹿兒島縣の讀地圖指導に待たねばならぬ。

郷土たる本縣の有機的組織及交通産業等の都會に於ける有機的關係等を會得せしめ他府縣の學習の比較の標準たらしめ更に兒童の直觀しつゝある鹿兒島を中心漸次外の自然事項及び人事活動との關係交渉を窺はしめねばならぬ。更に進んで地圖に依り世界の大体を解得して地圖を見るの趣味即ち讀圖の趣味を有するに至るのである。地理學習に於いて必ず觸れねばならぬ事は即ち讀地圖學習指導でなければならぬ。海外に發展せんとするものは先づ其の土地を知らねばならぬ。部分的な理解でなく有機的に可成多く詳しく其の發展地を知らねばならぬ。海外邦人の先輩が偶然な發展の後をみだりに辿る事は危険な事である。

教科書に表はれたる教材と其の補説

小學校に於て移民問題を取扱ふに適切なる教材滿洲 面積は我國より大、人口は一千數百萬、此處にわが内地人五萬餘我が朝鮮人二十餘萬在住。

支那との關係 關東州租借一南滿洲鐵道の敷設南滿洲及東部蒙古に於ける諸權利の獲得一移民漸次數を増す。

尙支那本部に於ても山東省其他鑛工業に在留邦人の關係せるもの多し。

シベリヤ。黑龍江河口及び沿岸は世界三大漁業地の一にして我國人の出漁するもの多し。

マレー半島。ゴムの栽培盛にして此處に在留する邦人の多くは之に従事す。

マレー諸島。近年航路を我國もこゝに開き彼の貿易も漸次勢を得我國人の渡航するもの多し

北米。太平洋沿岸の地方には我國人の在留するものが少くない。

南米。太平洋方面のカリヤオ、バルパライソ等の諸港は我國と航路相通じ又ブラジルの南部ペルー等には我在留邦人の多くを數ふ。

濠洲。眞珠の採取一濠洲の北海岸と西海岸

五七

ハワイ諸島 我國人の此處に在住するもの十餘万多くは甘蔗の栽培に従事

以上の數個所で矢張りアジヤ南北米太平洋洲に限られて居る。高等小學地理書卷一に於ても矢張此の域を出でぬで教師は時勢の進運に伴ひ適宜附說せねばならぬ。即ち我國の周圍にある地方の事情を明かにし我移民發展地として最適な所を選択して補說すべきである。

●補說の標準と其の中心

第一日本人を移す有望な土地たる事 喜んで日本人を迎へる地方

第二物産豊富土地廣きこと(食料品の補充)

第三國交親密なること

要するに地圖に親しみ地圖を通じて世界の大勢を知り得る指導と教科書に現はれたる國のみならず特に太平洋に係る地域の取扱ひ又は適切なる地方をも補說して邦人の活動狀況及び邦人の發展地に進むべき道を取扱ふ事は忘るべからざる任務である。

二、歴 史

●國民性自覺の喚起

新らしき方向としての愛國心は海外發展の思想である。史實の上から見た邦國の殖民的發展を見るに實に貧弱であつた。黒田北海道開拓使長官に依りてなされたる千島樺太の交換以來明治初年琉球問題まで僅かに二三を數ふるのみである。現在に於て殖民地を他に求める事は不可能である。故に現在我國に於ては移民政策となり殖民政策となつたのである。此の發展を遂行する念慮を旺盛ならしめる事は現代に於ける愛國心養成の一方面である。

第二國民性訓練の資とする事である。國民性の長所短所利弊を各國に推察し海外發展者としての道德方面の訓練を期せねばならない。

第三身心力の練磨に留意する事 心力の陶冶と共に心力の練磨を忘れてはならぬ。

●第四日本國民としての使命及び海外發展を適確に遂行するの念慮を旺盛ならしむる事。

●愛國心の啓培

正義を愛し平和を保証し以て一方世界の文化人道に裨益する使命は一に我が双肩にあると云ふ一大抱負を鼓吹せねばならぬ。即ち我國國民の感化力の絶大なることを世界に向つて宣言し得る實力の充實すべきを自覺して國民の愛國心なるものゝ意義を擴充する心情を啓培せねばならぬ。次に實際國史教授の上から見るに極端に鎖國政策をとりたる徳川時代に於いてすら如何に我國國民が海外に活動したか兒童の感奮興起を促す様な事實は實に枚擧に暇なき程である。此處に於いて教師は周到なる注意を以て海外に於ける活躍の氣象を養成しなければならぬ

ホ、唱 歌

●唱歌教授の擴充

第一よし一時的にもせよ或る機會に或る必要上兒童を興奮状態に導き又印象を深からしめる爲に海外發展思想上の題材を選び歌はしめる事は道德的情操を動し感銘せしむる間に實行意志の發動に資する事ではなからうか第二唱歌の直接目的である美を甚だ廣義に解して一般的陶冶を企圖する必要から自然美藝術美以外に人情美を認め其の内容として海外移住邦人の心得及び行爲並に人情方面に於て賞揚すべき事實等を歌詞として兒童に歌はしむるも一方法である。

2、各種の學校施設

イ、海外讀本

課外讀物としての内容を教師自ら取捨撰擇して與ふること。然してその内容は海外發展の急務なる思想養成にあるが故に國史地理國際上より材料を撰ぶべきである。その編纂につきては如何なる主旨によるべきか。須く將來の渡航者は何處も共同的で具案的でなければならぬ。然して事に當りては堅忍不拔惡戰苦闘の結果に依

るにあらざれば成功は得られぬと云ふ所にその主旨を置かねばならぬ。そして必ずしも組織的でなくともよい児童が不知不識の間に成人の後活動の天地を海外に求めて見たいといふ處に結着すればよいのである。

ロ、在外日本人小學校児童との音信交換
海外在住の数が五十餘萬と見ても之と同時に在る日本小國民の数は相當にあるのである。そして常に母國を思ひ異境の淋しさを思ひ海外生活の体験を知り苦闘を續け外入の人情を最も良く知つて居るのである。此等小國民間互に音信を交換して友情の交りななましめ厚き握手を計る事は海外邦人に精神的慰安を與へ希望を益々強固になさせるものであると思はれる。彼等幾萬の少年少女の音信交換は又彼等の愛國的精神を増さしめ帝國少年少女なる態度を保たしめ同胞愛へのみちは開けるのである。

ハ、海外事情の講話

先づ教授者自身が海外發展地移民の狀況及び國交狀態等に精通すること。それが爲には常に新聞雜誌及び諸報知により周密なる調査を怠らず機會を利用して適切なる講話をなして児童に知らしめねばならぬ。又歸朝者視察者に遇つては直接講話をきく出來得れば活動寫眞にまで進め一層感興を起さしめたいものである。

ニ、揭示教育

早くしかも手軽にその動靜を知る事の出來る價值ある教育である。之に當りては児童の親しみ易い理解し得る方法により一時的に陥らず永續的のものである事が肝要である。

ホ、寫眞繪葉書圖表及圖書室

教育者自らは理論的抽象的でなく常識的具體的直觀的方法が必要である。であるから教育資料即ち教材の蒐集が必要である。挿繪、切抜、寫眞繪葉書圖表統計あらゆる材料を系統的に集めて慎重なる態度で以て臨むべきである。

その材料の使用法 揭示板利用もあるが是非やりたいのは教育材料の陳列である。此處に圖書室の必要が起る

之は大いに地理料との交渉がある。一度此處に脚をふみ入れて世界の氣勢を知り日本の現在を知らんか期せずして愛國の熱情に燃わ易い子供の心底に海外發展への熱火を焚きつけられるのである。

3、海外教育資料の蒐集

誤らない指導と徹底した教育をなさんとするならば先づ海外發展地を眞實に理解し且つ具體的教育資料を蒐集せねばならない。

イ、エバガキの蒐集

海外に於ける邦人の生活及び現在の發展地や將來有望な地方を具象するものは繪ハガキである。一般海外のもの蒐集に困難かもわからぬが出來得る限りの手段は講じたいものである。

ロ、新聞雜誌の切抜

邦人發展地に關する記事日本及世界各國の海外發展方案に關する記事人種問題の切抜蒐集それは最も新らしい事情を知る上より必要の事である。

ハ、其他各種圖表統計の蒐集

過去、現在、未來を想定して道を知る上に海外發展地の統計圖表の蒐集は缺くべからざる事である。

4、海外發展と思想訓練

イ、國民性の訓練

●國民性の缺陷と其の反省

永い三千年の間に築かれた日本國民性は貴いものである。然し現代我國にもたらす外來思想に依る悪影響は何時しか此の尊い在來の日本國民性の悪化を來さんとしつゝある。此の時現代の要求は又大にして國富の増進は唱へられ産業の獨立と經濟の改善國民能率の増進國防の充實に憲政自治の改善に學問及び思想の獨立に次から次へ叫ばれて居る。之を處理して行くべきは我等國民であり國民性の力である。而してその缺如せる國民性を

擧ぐれば忍耐持久力乏しく徹底を缺き豪雄壯大の氣象に乏しく因循姑息にして不規律に依頼心強く獨立自營の念弱く責任感の薄弱なることを見出すであらう。實に我が國民が我が國に對する純眞さに於て又我が國民の民族的使命に對する覺悟の聰明さ遠大さに於て正に其の危機に際會して居ると言はねばならぬ。此の善導こそ海外發展國民の持つ必要條件の最大なるものである。多くの機會により補短採長以て國華發揚を期すると共に世界の一員としての人格者とならねばならないことである。

●家族的改善の問題

次に日本人の缺點と云ふべきは家を成すに急であつた昔の習慣が残つて居る事である。志業緒に就かずして一家の經營に追はれ精神的に老朽し活氣を失ひ冒險的事業等思ひも依らずして小成に滞り大成するに由なくしてあたら志氣を失ふに至るのである。日本人として早婚の弊風が絶へざる以上國民として大成する事は覺束なしと斷する人さへある。之等思想の善導により國民性の改善をはからねばならぬ。

●忘るべからざる忠孝思想

何處までも忠孝思想を中心思想として海外の何處たりとも日章旗の翻る所これ皆日本祖國たるの思想に據るべきこと。

ロ、女子の海外發展

●婦徳思想の改善

日本の婦徳として貞淑温良に勤務を厭はず犧牲的精神を有することは西洋婦人の及ぶ事の出来ない美徳であるが一方外國婦人の行動敏活に判斷力に富む思想を養成せねばならぬ。

●慰安者努力者としての婦人

海外に於ける家人に對し落付きと慰安とを與へる者は女性愛と母性愛とを有する婦人でなければならぬ。共に夫婦生活をするといふ安心は實に偉大なる人間活動の原動力となるのである。

●海外在住婦人の徳性の反省

從來海外に活動する女性の大多數は醜業婦であつた、が只今では我が當局が嚴重に之を取締りつゝあるので將來の發展に一大光明を放つた。遙かに異郷の地にあつてこの醜態を演じて居る事は婦人のみならず我等國民の大いに反省を要するものである。よろしく國內婦人に對しても海外發展の急務なることを理解せしめ自覺せしむべきである。

ハ、國際聯盟と國際協調の精神

●目的と作用

- 一、國際聯盟は平和的解決の手段である。
- 一、國際聯盟は法律上自主的に結ばれた一種の列國同盟條約である、となつて居る。
- 其の主權説には超國家的主權説と現在維持説と折衷説がある。其の仕事を見るに
 - 一、國際平和の促進
 - 一、國際協力の促進

右は目的と其の作用を述べたもので簡短なものではないが國際聯盟は今日事實上成立して居る。

●聯盟に於ける日本の地位

然し我國は其の忠實な一員として最有力なる組織維持者となつて居る。其の活殺も運用も一に聯盟各國の誠意と協調とに待つのである。然し從來試みられた協定が失敗に終つて居る原因は何處にあらう。曰く「教育的手段に依つての精神を忘れて居たからである。」その手段は根本理想たる人類愛人格の尊敬の意義を豊富に廣く且つ深く實現し得るものでなければならぬ

●第二正義としての正義

吾人は先づ愛する事敬する事を學ばねばならない。此の實現に障礙を惹起するものに對して正義は叫ばれ色や

文化の程度により差別的に行はれるものではない。吾人は我國民性の特色をして人道的合法且公正ならしめ道を誤らない覺悟が必要である。

四、結 び

●第二の國民養成

今日は既成政治家や既成愛國者を必要とするより一切を將來に矚目する第二國民の養成により現在惱める人口處理法其他外交上産業上の悩みも人口過剰の處理法により解決されて行くものではあるまいか。

●新日本建設と教育者の覺悟

眞に世界の眞日本國民たらしめ新日本建設への憧憬者たらしめ現實への努力者たらしめる國民の養成にあると思ふ。教育者は猛省一番此の際に於ける善處の道を講ずると共に他日の使命完成の爲に圖る覺悟がなければならぬ。

附録 其の一

小國民の海外讀本

目 次

- 一、南へ南へ
- 二、日本人とフィリッピン島との因縁
- 三、トラツタの驟雨
- 四、南洋土人
- 五、南洋の小學校
- 六、ブラジル渡航のシヨリ
- 七、南洋の奪合ひ
- 八、ブラジルと珈琲
- 九、ローマ字
- 十、アルゼンチンの大平野

- 十一、印度日本人團歌
- 十二、キューバの日本風呂
- 十三、椰子の葉蔭
- 十四、印度支那半島の象と猛獸毒蛇
- 十五、世界人種の展覽會
- 十六、月の荒野
- 十七、長閑なるシベリヤの田舎
- 十八、イルクツクと邦人國民の態度
- 十九、邦人の發展を待つ有望な商業地
- 二十、犠牲の白骨
- 二十一、海外發展の模範村
- 二十二、海外雄飛
- 二十三、我國の四隣(一)
- 二十四、我國の四隣(二)
- 二十五、海外の發展
- 二十六、海外發展と桃太郎童話
- 廿七、世界と日本

附録 其の二

教育資料 目 次 (新聞切抜)

- 一、人口増加と食料問題
- 二、移民問題
- 三、南洋と日本
- 四、鹿児島縣の食料問題
- 五、海外便り
- 六、日本貿易狀況
- 七、國際聯盟の部
- 八、雜の部

二等當選

市草牟田校

松ヶ野勇吉

目次

○ はしがき
、人口問題、本問題の意義、論述の方向

○ 第一篇 基礎論

第一章 我が國の海外的維新……………七五

一、海外思想の勃興……………七五

二、海外貿易の發展……………七七

第二章 我が國海外發展の方向……………七八

一、日本殖民の缺陷……………七九

錦を故郷に飾り度い、懷郷病

夫婦共稼でない、資本の投下不十分

二、如何なる精神的用意を必要とするか……………八三

人種平等の思想、西洋人なる者の了解、品格の向上

三、所謂我が民族發展の方向……………八七

我が國海外發展現在の實蹟

將來の方向

其の一、我と接壤せる大陸地方

其の二、南方

其の三、太平洋を越えて

其の四、印度の東と西
太平洋を中心に世界の大勢

○第二篇 實際論

第一章 兒童海外思想の資源(教師).....九九

一、教師の修養.....一〇〇

二、海外視察、鮮活なる知識.....一〇〇

三、方法の具案.....一〇一

第二章 海外思想はお伽噺の世界から.....一〇一

第三章 小學校地理教育の徹底.....一〇三

一、本邦地理學習の徹底.....一〇四

本邦國勢並に世界的地位の自覺

國民的經濟思想の涵養

國產増殖必要の自覺

産業取扱を重視

各種産業取扱の着眼点

海外貿易に對する覺悟

我が國交通の發達

二、外國地理學習の徹底.....一一一

自然的、人文的方面の學習

各國特徴の理解了得

諸列強國の重視
密接なる關係ある國々の重視
海外に於ける邦人の活動狀況
各國殖民政策、殖民的氣象
女子に對する海外發展の氣象作興
將來有望なる發展地
國家の盛衰興亡と其の國民性及民族性
英國、西班牙

三、地理學習の諸要件.....一一五

直觀地理、想像地理、類推地理
地理學習に親ましめる
情味ある取扱、實習的學習
地圖に親ましめる

第四章 他教科教育の徹底.....一一九

一、國語科.....一一九

二、修身科.....一二二

三、國史科.....一二四

四、唱歌科.....一二五

第五章 機會の善導.....一二六

一、十二三歳.....一二六

- 一、講 演.....一二七
- 三、活動寫眞.....一二七
- 四、展 覽 會.....一二八
- 五、揭 示.....一二八
- 六、社會の氣圍.....一二九

- 結 び.....一三〇

は し が き

日本の人口は大正三十五年には約一億に繁殖すべく今日内地のみにても一ヶ年の増加は實に七十万の多きを示して居る。七十萬といへば隣縣宮崎の人口である。毎年宮崎縣だけの人口を加へるとすれば毎年宮崎丈の土地、而も未だ一人も住まぬ宮崎縣丈の土地を増さねばならぬ。而してそれは不可能な相談である。人口の増加は目出度いことであるが、今日の人口にも尙狭小を覺ゆる我が國土は聊かも安堵の時を許さない。社會を根柢より破壊せんとする所謂危険思想も、食へぬ所から多く生ずる。「日本の人口の處分」是は日本國及日本國民の死活問題である。志賀博士の言へる「日本にこれ以上の大問題ありや」痛感せざるを得ない。「日本の人口の處分」、これは吾人等しく而も次代益々研究と努力を復ねなければならぬ所で、其の方途は次の内外二者に歸すると略て大誤あるまいか。

内的。 には所謂氣化法によつて國內に衣食住の資料を増加し、又生産費を遞減して農産物の收穫を遞加する方
法を採ること

外的。 には海外發展に依ること

此の二者の眞の實現は兩々相俟つ所に存して、内的の充實は外的の活躍を促し、外的の發展は内的の充實を相伴ふことを忘れてはならぬ。而も帝國今日の實情と世運の推移よりして憶ふに、所謂海外發展の企圖は、實に帝國永遠の人口問題、生活問題解決の最善努力であり、國家存立の根本的活動であることを識らなければならぬ。

此の貴重なる問題を、國家は重要中の重要政策として實行を考慮し、社會、團體此處に目醒めて、國民亦總動員の自覺と奮起を見るとき始めて此の緊急問題に對し得るのである。

是を憶ふ時、國民思想の根柢を培ひ、國民的將た民族的活動を豫想する小學校教育任務の重大さが今更の如く感じさせられる。吾人は須らく兒童の着眼を大きく、思想を濬潤に導かねばならぬ。そして諸子の舞臺は地球上

の全面に亘る大きなものであつて、決して日本といふ狭小なる國土に局限せらるべき筈のものではないこと、及び歴史的又現在の事實よりして、年一年滅び行く種族の悲哀と共に日一日と榮へ行く民族の行蹟に鑑みる所ありしめて、「日本民族」の健全なる發展を永劫に保証するに足る大抱負に漲らせねばならぬ。

爰に論旨の徹底上先づ釋明すべきは、海外思想普及の意義と論述進展の方向である。

「海外思想」とは最も通俗的に言つて、海外即ち日本以外の國に對する思惟とか考へとか、又一步進んで其の思惟、思考の結果として在る夫れであると解せねばなるまい。「普及」とは行き亘ることである。廣く又深く徹底するといふ義に外ならぬ。それで「海外思想普及」とは、海外に對する考へが、よく徹底するといふ義になつて來る。立場をかへて

「我が國、我が國民の海外に對する考へは如何になくはならぬか」と考ふるに、十分日本といふ立場から海外といふものを理解して、そこに日本國、日本國民乃至は日本民族といふものゝ心の据わ所がなくてはならぬことになる。その心それが吾々の所謂海外思想でなくてはならぬ。海外思想といふ意味を専ら斯う解して之を兒童に普及するといふことに論を進め度いと思ふのである。

そこで思ふに、廣く見て歴史は國民性又民族性の現はれであるから、歴史に見ゆる海外方面の事跡は我々の祖先の有つて居た精神即ち海外思想の現はれでなくてはならぬ。即ち對外的史實は對外思想の形跡である。故に祖先の有した海外思想は、史上に残る海外的事跡によつて、容易に窺ひ知ることの出來ることは言ふまでもない。

由來「思想」といふやうな重大なる問題は、單なる現在といふ一場面に依つて正しく窺はるべき筈のものではない。日本人の言ふ海外思想は日本人の有つ海外思想でなければならず、日本人の有つ海外思想は、「過去から現在、現在から未來へ」と不盡の流れでなくてはならぬ。爰に吾人の云爲する海外思想は、實に此の長い流れで

あり、而も其の流れを如何に清くなすか、如何に大きくなすか又如何に有値になすかにある。

故に本問題を論究する上に吾人は

一、過去(歴史)を重視する

二、現代を重視する

三、將來を一層重視する

靜かに惟ふに本問題は「如何なる思想を 如何に普及するか」之にある。故に

「如何なる……」のために

本邦の對外發展及諸外國の海外發展の歴史より現勢に亘つての考察を試みる(第一篇基礎論)

「如何に……」の爲めに

所謂良策の實際を考究する

(第二篇實際論)

そして所見を結ぶことにする

第一篇 基礎論

第一章 我が國の海外的維新

一、海外思想の勃興

徳川二百年間の鎖國政策は、我が國の海外發展を全然杜絶せしめた。然し我が建國の精神は之がために根絶しなかつた。「黒船」の來航に少からず驚かされた我が國民は、茲に初めて長夜の眠から醒めて昔ながらの民族に復活したのである。

即ち明治大帝は、明治維新の大業を遂げさせらるゝや

「……遂ニハ万里ノ波濤ヲ拓開シ國威ヲ四方に宣布シ天下ヲ富嶽ノ安キニ置カンコトヲ欲ス」と宣せられ、茲に我が國は新しき殖民帝國としての紀元を生み、海國としての意氣と活動を示すに至つたのである。

最近三十年間に於ける我が國の殖民的發展は、相當の成績を挙げ帝國の總面積は四萬四千方里に達し、之を臺灣領有以前に於ける舊日本の總面積二萬五千方里に比すれば、實に七十五%餘の増加である。従つて其の人口も著しく増加し、大正十三年十月一日施行の第二回國勢調査の結果に依れば、帝國の總人口は八千三百萬の多きに達し、就中植民地の人口は二千四百万人で、總人口の二九%を占めて居る。尙之に租借地たる關東州、委任統治區たる南洋を加ふれば、更に人口と面積とを増加するは勿論である。

而して殖民地以外の海外諸國に在留する邦人の數は敢へて多いといふ譯には行かないが、それでも大正十三年六月末現在では五十九萬餘に達し、且其の分布區域も殆んど世界の各地に擴がつて居る。就中最も多いのは滿洲（關東州を含む）の十七萬九千人で、北米合衆國の十三萬一千人及布哇の十二萬三千人之に亞ぎ支那（滿洲を

除く)の四万五千人、ブラジルの四万二千人、南亞細亞及南洋諸島の一万八千人、加奈陀の一万九千人、南米(ブラジルを除く)の一万四千人等が其の主なるものである。

今外務省通商局の調査に依り作製したる海外在留邦人の地方別及男女別統計を示せば左の通りである。

(大正十三年六月末現在)

在留地別	男	女	計	男百ニ付キ女
英領加奈陀	一一、七四八	六、四二二	一九、一六〇	五〇、二九
北米合衆國	八二、〇八七	四九、二七〇	一三一、三五七	六〇、〇二
墨西哥國	二、三〇一	一、〇〇九	三、三一〇	四三、八五
巴奈馬共和國	五五一	一一九	六八〇	二二、四一
布哇國	六八、六一五	五四、四二一	一二三、〇三六	七九、三一
伯刺西爾國	二四、一三五	一七、六三九	四一、七七四	七三、〇八
南亞米利加	一〇、三一九	三、二四〇	一三、五五九	三一、四〇
比律賓群島及「ゲラム島」	六、八二五	一、五六五	八、三九〇	二二、九三
南洋群島ヲ含ム	一〇、五二六	七、〇三七	一七、五六三	六六、八五
支那(滿洲を除く)	三、六〇八	二七一	三、八七九	七、五一
支那(滿洲を含む)	二四、〇四〇	二一、二二九	四五、二六九	八八、三〇
滿洲(關東洲を含む)	九四、六七六	八四、八〇八	一七九、四八四	八九、五七
西比利亞	一、九九八	一、三六九	三、三六七	六八、五一
歐羅巴洲	三、三〇七	四九七	三、八〇四	一五、〇二
阿弗利加洲	二八	二二	四九	七五、〇〇
合計	三四五、七六四	二四八、九一七	五九四、六八一	七一、九九

我が國の最近數十年間に於ける海外發展は、決して不成績でないことを右表に依つて窺ふことが出来る。

二、海外貿易の發展

鎖國の夢を醒されて外國から勸めらるゝまゝに徳川幕府が結んだ條約は、我が國の面目を損じ、利益を害する箇條が少くなかつたが、維新成り憲法布かれ、法律、制度漸く整ひ、加ふるに明治二十七八年役の戦勝に我が國力大いに顯はれて、各國との改政條約成立し三十二年七月より實施せらるゝことゝなつた。

而して漸く興りかけた我が對外貿易は、内國力の充實と、外國威の發揚とに促されて愈々伸展し、今や世界の三十餘箇國と條約を結び、東洋諸國は勿論遠く歐米全般の國々との間に汽船は往來し、通信は迅速に交換せられて居る。

即ち年貿易額は三十億圓を超へ、汽船の總噸數三百萬噸を凌駕して居る。輸出品は生絲、綿織物、絹織物綿絲石炭、陶器等輸入品は綿、鐵及び鐵材、機械其の他の鐵製品、豆粕、砂糖、木材、羊毛等である。それ等が横濱神戸、大阪、門司等の諸港に依つて、合衆國、支那、印度、英吉利、佛蘭西、南部亞細亞の諸地等と取引されて居る。

年貿易額三十億圓は英米の多額に顧みて固より同日の比ではないけれども、我が國が海外に目醒めて僅々數十年後の今日、海運上の勢力に於て英米に亞ぎ第三位か四位を下らず、商品殆んど全世界に亘つて至らざる所ない現況は、決して落膽すべきものではない。

以上を以て略るに、我が國の對外貿易事業は相當の成功で、民族性が之に適しないやうな傾向は何所にも認められない。寧ろ優越せる手腕の所持者である。我が國人が此の惠まれたる帝國自然の位置を利用し、海國民性の

七八
氣概を發揮することならば、今日の得意先は倍加し、資源は見出され、物貨は動いて、輸入超過の非境より脱すること左まで困難ではあるまいと信ずる。

以上を要するに明治維新は海外發展の維新でもつた。明治大帝の「萬里拓開」の御聖旨は、或は移民となり拓殖となり、或は貿易となつて優に鮮かなる進歩を辿つた。吾々素人の識る限りではないけれども、國家の政策も國民の活動も兎角相應であつたと信ずる。而して惜しむらくは、時既に晚れて翼足を伸ばすに十分でなかつた。海外的思想の根抵や及び其の普及の点に幾多の問題を残すことは無論である。

第二章 我が國海外發展の方向

我が國に於て維新以前に無數の學者及び志士が殖民を説き、海外發展を論じたのは、丁度獨逸に於て、獨逸帝國の統一前後に幾多の學者が帝國統一と海外發展の必要を論じたのと、稍々似た點があるのであつて、日本にせよ獨逸にせよ、他の歐洲強國に比較すれば甚だ立遅れたるの遺憾がある。

以來五十年を経過して未だ著しき發展を成し得なかつた獨逸は、不幸にして世界大戰の結果殖民地の全部を無くしてしまつた、我が國に於ては、維新の當時開國進取の國是を定め、日清日露の兩戰役に勝利を收め得た結果領土は幸にして著しく増加して來て居るが尙是を前述の先覺志士、學者の主張した所論に比較すれば、其の量に於て僅かに一端を成就したに過ぎない。

故に我が國の殖民的發展は多く今後に残されてあることを忘れてはならぬ。

然るに最近我が國民一般の思潮が、此の重大なる國家問題を念ふこと十分ならず、徒らに國內の小事に没頭して、雄大なる國家問題を忽せにして居るの感あるは、眞に國家の一大恨事である。

吾人は大いに發展し、大いに膨脹しなくてはならぬ。而して吾人の祖先が爲さんと欲して、未だ成し得なかつた此の大問題を解決しなくてはならぬ。

世界は廣い。日の照るのは敢へて日本ばかりではない。何れの邊と雖も、天日の恵みは普遍平等である。教師先づ此の信念に目醒めて心行くまで兒童の信念たらしめねばならぬ。そして男女相携へて移住し、殖民する風潮を作らねばならぬ。

而して是は實際問題である。單なる理論でなくして年は一年より速く具体化されて行かねばならぬ重要にして緊急な問題である。自己自らの、而も亦現實を豫想する兒童の所有すべき思想は、具体を通した鮮活なるものでなくてはならぬ。

此の意味に於て、先づ我が國海外發展の事實を見、現在如何なる長短を有するか、將來の發展には如何なる用意が必要であるか、そして如何なる土地に向つて如何に活動すべきかといふ方向を定めなければならぬと信ずるものである。

一、日本殖民の缺陷

(現今我が國の殖民は、朝鮮、臺灣、樺太だけであるが、此の外に關東州の租借地、南洋の委員統治區がある。此の二つは廣義に殖民地として取扱つてよいが、右の區域以外に於ける日本人の發展は嚴密に言へば殖民ではない。然し從來述べ來る所も極めて通俗的に解して移民といふべきものをも殖民といふ文字を使つて來た。今後にも尙殖民地以外に於ける日本人の發展をも海外發展の意に於て廣く用ふることを豫め斷つて置く。)

第一 錦を故郷に飾り度

在外日本人共通の理想は多くこれである。之を移民の歴史の古い布哇に就いて見るに、同時在住の日本人は總計十二万三千餘人、實に布哇總人口の約半數を占める盛況である。而も殖民發展主要件たる女子の數も、十二万中の五万四千四百餘人の多數に上つて居るに拘らず、彼等の社會的地位や經濟的地位が餘り高くない。それには色

々の理由はあらうけれども、或意味に於て半永住、半分捕的なるが其の主因ではあるまいか。例へば布哇に於ける労働者が或は甘蔗畑に或は鳳梨畑に働きたがら、「ドウセ一度ハ日本ニ歸リ、布哇戻リトイハレタイ」と唄ふが如く、一度は本國に歸つて、貯へ來つた幾何の金で「吾々は移民歸りである」というのを花に、其の成功を郷黨の間に誇り度いといふ日本人固有の國民性ともいふべき閃きが見ゆる。即ち、彼等の目的は何か成功して、一度は日本に歸りたい自分は布哇戻の成功者であると言はれて見たいといふ望みに充たされて居る。結局、「錦を故郷に飾り度い」といふが、彼等多數者の最終の目的である。

如上の日本人が而も浮腰の日本人が、布哇に重要な社會的地位も、經濟的地位も握り得ないのは當然である。彼等が布哇に行くのは「布哇に根強く日本を植ゆるのでなくして日本に歸るのが目的」なのである。いはゞ彼等の氣分は、桃太郎の氣分其のものであるといふべきである。

更に彼等日本人は其の労働に得たる賃金に餘裕があれば、悉く之を故郷に送金して居る。従つて彼等多數者の經濟的地位は、何時も伸展を見ず依然として、始めながらの労働者たり、小作人たるのが其の一般である。斯くて布哇に於ける日本人が、その數に於て第一位を占むるが如く、其の質に於て第一位を占め、政治的に社會的に、又經濟的に、布哇の實權を握り得べき時が何時來るであらうか。

この浮腰的な、そして海外の財寶を獲得して歸るといふ半分捕的、半永住的な思想は、決して殖民の大を成す所以でないと信ずる。

第二、彼の地でも日本の櫻を夢見て居る。

「新潟出るときや 涙で出たが

今じや新潟の風も いや」

これは、我が新潟港を出た北海道移民の、北海道に住馴れて「住めば都」の心理を描いた俗話である。移民はこれでこそ其の極致と思つて居る。

カリフォルニア洲を中心として亞米利加合衆國に發展して居る日本人の數は、男八万二千餘人、女四萬九千餘人、計十三万一千餘人に達して居るのみならず、農業的にも相當の發展を遂げて居ることである。が然し彼等も多く布哇に於けると同じ様な考へを持つて居るらしい。

「故郷へ送金」是が亞米利加移民の目的であり。又彼等の果すべき義務であらう。財寶を故郷に送るか、左もなければ自ら財寶を貯へて日本に還るといふのが、彼等の最大主眼であることは日本人何地に於ても變りはない。尙進んで考ふるに、「再び日本に歸り度い」。これは大かた横濱を出る時の豫定である。「何年したら何程位の貯金が出来から……」それを携へて何年時分には歸らう……とは實に常々の期待である。加洲には敬意を表すべき成功者も幾多あるさうであるが、歸り度い、歸つて後生を樂に……とは大かたの願であるらしい。兎角日本人は

「祖國の櫻を夢見て居る」。勿論

其の祖國の櫻を忘れない所に日本人の卓越せる長所と短所とが窺はれる。然してその短所は、日本人乃至は日本民族の發展に逆行することを知らねばならぬ。

米國に生れた日本人は米國の市民權を有して居る。彼等三万人の市民權所有者は、米國大統領たる資格者である。在米十數万の日本人から米國一の學者を出し大實業家を出し、大政治家を出すといふことが、日本國民の誇りではあるまいか。今後の大統領の血液の中には、日本人の血が混じ居るといふことを日本人の誇とし、米國に於ける活動家は日本民族の血流であるといふ時を、民族的大發展の時としなくてはならぬ。

偏狹な愛國心に驅られて、此の至大な使命と至高なる誇とを捨て、しまふ愚を學んでは濟まぬ。吾人の痛憾とする彼の排日の原因には種々の要素があらう。而も其の中の幾分かは日本人自身が分擔しなければならぬ。

要するに日本人の殖民發展は先づ其の「心理」を代へねばならぬ。家郷戀しく病みつくやうな。錦を故郷に飾らなくては成功ではないといふやうな小さい所を解脱しなければならぬ。

「今じや新潟の風もいや」までには、それは涙もあらう決心も要らう。が是こそは實に殖民事業完成の根本で

あり終局であらう。

第三 夫婦共稼

従來の殖民は無論のこと、現にまだこゝに徹底を見ない。

然し曾て我々の祖先が非常な發展を遂げてゐた南洋一帯に對する日本人の發展が、最近稍々其の緒に就いたことは吾人の意を強うするに足る。而も其の發展が過去に於けるそれと異なり、女を伴ふ夫婦共稼の農業經營にも一歩を進めつゝあるは慶賀に値する。

而して近來大いに炬の手を揚げつゝあるものは南米ブラジル移民である。而もそれが所謂「農業開拓を本とした村の建設」であつて、廣漠たる肥沃の平原に日本家庭が遷されて、「熊本村」「鹿児島村」が相連つて行くかと思ふ時、無限の欣快を禁じ得ない。

男ばかりの飛躍、女を伴はない發展は、我等祖先の誤れる發展であつた。尙今日も概して世界の各地に於ける日本移民の男女の割合は甚だしく隔たつてゐる。出稼は男子がするもの、女子は家に辛抱するものといふが如き考へは日本各地共通の事實である。將來の意義ある發展の爲には懷郷の涙を飲み込んで永住であり開發であり、或意味に於て同化進展でなければならぬ。かゝる意味に於て女子は家庭の基礎、活動の同伴者であるべきことを忘れてはならぬ。

第四 資本の投下

亞爾然丁にせよ。伯刺西爾にせよ。その人煙少き所程相當の投資を必要とする。未開の地は勞働資金の目當では覺束ない。廣い土地を所有し之に施すに機械の力を以てしなければならぬ。一も資本である。二も資本である。かゝる土地に於ては其の次に勞働を必要とすると言つてよい。土地が唯同様なりといふことのみ聞き込み、何等資本を携帶せずして移住すれば、其の成功は大きを期せられない。現に亞爾然丁にある日本人は二千五百人になり、而も成功者として見るべき者一二に止り。就中獨立して農業を經營する者數ふる位なるも亦資本の缺乏に

座する。外國とさへ言へば移住し、移住して勞働し、勞働して貯金し、貯金して資本を博し、資本を博して開拓に従事するといふことは蓋時代後れである。

今日は、資本的準備があつての移住でなければならぬ。資本を未開の沃野に投じて、勞銀の低廉なる其の地の勞働者を使傭し、我も利し、彼も利する地主となりて活動しなければならぬ。然るに我が國の如き生活に餘裕あるものは容易に故國を離れない。海外移住者は中産階級寧ろ夫れ以下に限るが如き状態にある國にあつては、總べての移住者に資本は言ふべくして行はれ難い所である。是に於てか資本家の投資を切望する。而も政府の積極的なる援助、縣、市町村及公共團體の資本的後援が大いに必要となつて來る。近來漸くかゝる機運の動きつゝあるのは慶賀すべきことである。

在外日本人の缺陷は以上の二三問題を最大として尙幾多存する。即ち「國民的品格」の問題、「對外人」の問題等、海外發展上の根本を成すべき大切な問題は尙多く取殘されて居る。是等は漸次別項を述べて行く間に自然明かになることゝ信するから、こゝには省畧する。

一、如何なる精神的用意を必要とするか

一、人種平等の思想

是が日本民族發展の根本問題である。志賀重昂博士の言辭を以て言ふならば、或一人、或一國、或一人種の專有物に非じして、此の地球は君の物でもあり、僕の物でもあり、日本人の物でもあり、支那人の物でもあり、伊太利人の物でもあり、印度人の物でもある。即ち世界各國、各人種、各民族の所有物否共有物であるべき道理である。

然るに色の白き一人種所謂白色人種なるものが、此の地球を我物顔にして他有色人種の存在を認めぬが如き振舞あるは實に奇怪千万である。色白きが故に「我は優等人種なり、自分等以外の者は劣等人種なり、彼等劣等人

種は吾等に奉仕する爲めに此の世界に存在するなり、歐羅巴人に限る」とするは誠に不届極まる横暴である。全く自然界の道理を解せざる、又人道を無視せる我が儘勝手の逆観念である。而も彼れ白人は斯く思ひ、斯く行ひ世界の各所に敢へて他民族を禍して居るのである。

然れば此個の白人の自負心即白人闘を打破せんば眞の世界の進展と幸福と改造は大成せられない。所謂民族發展も此の打破が第一の手段でなければならぬ。

然るに見渡す所、數多き世界の民族中よく此の「打破」を决行し得る民族に何にがある。東亞の天地に唯「日本民族」あるのみ。とならざるを得まい。而して日本民族にして此の強き自覺に、立つ時に於ては、彼白人の迷盲を開いて、地球上の各所に人道愛の温みが浸潤して、あらゆる世界の民族等しく之に魅る時が來廻すると信するるのである。

かゝる意味に於て「日本帝國の強大」を期せねばならぬ。「日本民族」の發展を圖らねばならぬ。海外發展の雄圖も亦、根柢を茲に置くのであつて、侵略に非ず、分捕に非ず、夢にも亦「白人相手の敵對行爲」であつてはならぬのである。

植民の要は、鐵劍を以ての征服に非ずして、「愛」を以て融かすにあり、眞價を發揮して敬服せしむるにあると信する。實に之は歴史の教ふる眞理であつて、理想に輝く日本民族たる者の等しく自覺を要する所である。

濠洲メルボルン市の醫學博士ホルナブルク氏は其の論文「氣の狂へる白色濠洲主義」に論じて

「有色人種の力を待たざれば、白人は熱帯に住むことは出來ぬ。否存在することすら出來ぬ。有色人の力を仰がずして白人なる者如何にして熱帯を經營することが出來やうぞ。白人の健康殊に女子の健康は熱帯には堪へ得られぬ。

要するに、有色人なくしては全濠洲の發展は到底期すべからずである。然るを「白色濠洲主義」などは氣の狂へる言である……云々」

斯く言ひ、醫學と白人の家庭及經濟との見地よりして色々論じて居る。

有色人は日本人のみではないけれども、日本人はよく北寒帯より南熱帯の何れへも適する。而も其の勤勞能率は白人に勝るとも劣りはしない。此の天與の特質を世界の各所に十分に發揮する時に於ては、白人輩何ぞ恐るべきやである。

「人種の特權は平等」である。而も大和民族は優秀なる特質を有して居る。これは日本國民自覺の第一でなければならぬ。此の貴き自覺を幼少なる兒童の腦裏深く植ゑつけねばならぬ。而も亦海外に向はんとする者の第一用意でなければならぬと信する。

二、西洋人なるもの、諒解

日本人が米國のみならず各所に於て排斥せられつゝ理由を解釋して、曰く人種の上から、曰く日本人勢力の發展、曰く日本國家の膨脹、曰く一種の世界的流行、曰く何々とは、人の誰しもいふ所で、是等が其の一因をなすことは或は事實であらう。而も排日の到底免るべからざる要因として、志賀博士は左の如く言つてゐる。

「日本人は未だ西洋文明を解せざるものにて、之あるが爲に西洋人との間に眞成の理解を得ず、彼此の融合が出來ず、排日の素因をなす。」と。

所謂、西洋文明とは何か、「婦人と藝術とを神視する」ことで、此の精神は、西洋人種の國は其の何れへも浸み込んで居る。然るに日本人には其の眞諦が悟られない爲に、彼此の思想の間に大溝渠の劃然たるものがある。此が彼此の融合せざる骨子で、即ち排日問題なるもの、發作すべき素因である。

實に白人は女子の人格を尊重する。女尊男卑とても謂ふべきか逆も日本の了解されぬ位の深みがある。而して西洋人は學問技藝を尊重する。國の内外を問はず人種に差別なく、學問藝術界の功勞者を心から推賞する美点を有つてゐる。

然るに日本人は「女子と小人とは養ひ難し」などいふ思想、學問藝術を輕視する思想を持つて居る。是が日本

と西洋と全く反対する点で而も正當ではない。日本人が海外發展の成功を収める爲には先以て此より悟發するを要する。「郷に入つては郷に倣へ」に潜む眞理を悟らねば、海外生活は尙更出來得るものではあるまい。

三、品格の向上

其の數に於て多數を占むる有色人が甚が少數なる白人の支配下にあり、平等なるべき人權を無視せられつゝある所次のものは、要する所、其の知識文化の度遠く白人に及ばず、品格乃至は生活の度一般に低級なるに座する。吾等日本人も亦有色なるが故に一様に劣等人種として眼下に見下され、あらうべくもない差別待遇に置かれつゝあるのである。吾等は果して劣等なる人種か、是には唯、三千年來の歴史の事實を以て答ふより外にない。蓋し我等の祖流は彼等白人に優るとも決して劣りはしない。何ぞ白色人種彼等に依つて人種的待遇の等差を附せらるゝの要あらんやである。

けれども顧みなくてはならぬ。吾等日本民族は素質優秀にして、他の民族乃至は國民の模して能はざる美質を具有する反面に、人として國際的生活者として、彼等白人に恥かしき所はないか。これである。而して「無し」と明答の出來ないのが遺憾である。

日本人の白人に及ばざる点は、否寧ろ彼等に嫌忌される点は、「品格」の低劣なる所にある。詳言すれば彼等西洋人の眼に映する日本人は、其の品性が餘りに利己的である。自利に向つての根氣は猛烈であるが、反對に公共を念ふ心に薄い。公園に於て、車中に於て、あらゆる機會に彼等の爪弾を受けて居るとは、常に外遊者の口に依つて傳へらるゝ所である。次に擧ぐべき缺点是、度量の狭小なる点である。

宏量は對外融和の根本條件であり社會生活の基底である。言語及風俗、習慣の全然異なる他郷に在りて、克く先住者と親和を遂げ、其の土地に愛着せんとするならば、須く己を開かなくてはならぬ。そして其の地の風俗を重んじ、習慣を認めねばならぬ。更に其の地の言語に馴れることは、やがて己の大を成す所以であつて、これには十分の努力を必要とする。

日本人が郷關を出で、幾十年 而も舊慣を脱することを知らず、唯己を固執して外に和せざるの概あるは決して植民の大成を遂ぐる所以でない。日本人は、又特に海外發展を志すものは、大いに自己を内省して己を樹てる前に人を立て、清濁合せ呑むの襟度を修養して大帝國民の威信に副ふの覺悟が欲しいものである。

日本民族の根本的大問題は人種平等問題にある。更に又白人種以外なる世界の各人種、各民族を無差別ならしめ、平等ならしめ、依つて以て世界に蟠居する白人種を打破すること、日本民族の終世的事業となさなくてはならない。故に我等の植民的發展の理想抱負は是にあり、努力經營も亦茲に向はなければならぬ。而も是は人類六千年來の大事業たるは言ふまでもない。而して之をよく成す所以のものは、劍にあらず、強制的威力に非ず彼を懐ける愛であり、彼を輝す人格の光を措いて外にはない。然るを我が同胞の滿洲、朝鮮に於ける行動は如何、彼を侮蔑し彼を虐げ、優れる力を悪用して壓迫もし、強制もする。同族相食むの現狀でどうして「世界の善導」など出來やうぞ。憶ふに日本人の度量は小さい、人格は低い、蓋、大いに自覺する所が無ければならぬ。

二、所謂我が民族發展の方向

最近二三十年間に於ける帝國の植民的發展は、稍々見るべきものありとするも、之を英、米、佛等に比すれば共に談するに足らぬ。故に帝國の植民的發展は之を今後に俟たねばならぬ。然るに最近我が國の植民的發展を單に軍國主義か、侵略主義であるかの如く解せらるゝ傾きあるは甚だ遺憾である。

尤も我が國の過去に於ける海外發展が侵略的發展に偏して居たことは事實で、失敗の原因もそこにあることは既に述べた通りである。敢へて失敗の歴史を再び繰返さうぞ。我が國の探らんとする植民發展は必ず農業主義であらねばならぬ。敢へてグエーリック博士の言を藉りるまでもなく

「日本は食糧問題に就ては世界中で一番窮して居る」のである。

故に此の問題解決のため、我が國が植民發展を要求するのは實に當然の權利である。更に國家生存上必要なる

諸般の原料品を得べく植民經營の必要なるは言を俟たぬ所である。我が國の植民政策は決して軍國主義の手段ではない。「農業的植民」「經濟的發展」「文化的伸展」之が今後日本の遂行すべき一大方向であることを忘れてはならぬ。

一我が國海外發展現在の實蹟 (志賀博士の調査による)

世界に於ける人口の密度は一方里につき	
白耳義	三九〇〇人
英吉利	二八〇〇
伊太利	二〇〇〇
和蘭	三三〇〇人
獨逸	二〇〇〇
日本	一八〇〇

で、我が國は世界の第六位に位する。然し本國に一百四十倍する領地を所有し、白耳義は八十倍、和蘭は六十三倍、伊太利は五倍の領地を所有して居る。而して我が國は皆無である。年々の増加七十万人は今後如何にするか日本帝國の大問題である。

實にや日本人の海外發展は大いに主張しなければならぬ。然らば目下の實蹟は如何。
(寒地に於ては)

哈爾濱、

十五年前の在留日本人八百が今は五千。自治民團を組織し、日本小學校、日露協會學校、共立病院がある。北滿製粉會社(資本金五十万圓)北滿電氣會社(同百二十万圓)製皮革會社がある。而も日本人は支那官憲の中に重きをなし一方露西亞側には望外の信用を博し、攝氏氷点以下四十五度の下に「一小日本」を築き上げて居る。

露領沿海洲、

歴史に尼港事件の慘劇を残すと雖、明治四十一年勸察加を併せ、我が國人の手に依る鱈魚、鱈詰生産高一百

萬圓であつたが今や實に四千萬圓、従業人二萬五千に上つて居る。

又將來のバルブ供給源は此の沿海州にありと、大川、王寺、富士、三井等團體となり伐採を經營し近隣北樺太の豊滿なる石油にも、今や利權を得て事業は着々其の功を擧げつゝある。

さて炎熱地方に於ては如何

元來日本人は地球上の北緯五十度より南に於て生れたものである。然るに西洋人は大概北緯五十度より北に於て生れたもので、即ち太陽の光薄く、熱弱き國土に生れ、皮膚が生白くなり子々孫々相稟け遞加し遞加して、幾萬年の久しき終に白人種なるものが造られたものである。随つて「白人体」の大弱點は暑熱に耐へぬことである。然るに日本人は熱に堪ゆる。

此の「日本人の暑熱に耐ふる所」日本人が白人種と競争し、世界に雄張する大資本である。

即ち我が同胞が此の「大和肉体」を提げ、世界到る處に熱に耐へ、勇往邁進し居れる實蹟を窺ふに

馬來半島

新嘉坡、柔佛國、彼南等日本人六千。明治三十九年日本人の護謨栽培業を開始せし以來、既に植付面積十二萬噓、採取面積七萬噓、到る處にカーキ色の服をつけたる日本人の栽培者を見るに至つた。(二噓半にて日本の一町歩)

比律賓諸島

日本人一萬、陸にはミンダナオ島に其の拓殖會社六十。太田興業會社(一萬町歩)を主とし、アヅアカの栽培が主である。海にはスールー各島に眞珠を採取し、又比律賓全島の漁業は日本人獨占の状態である。

布哇
布哇の人口三十二萬、内布哇土人二萬、西洋人六萬二千、而して日本人は十四萬に近く、毎年殆んど六千人の小兒が出生する。

日本小學校一百四十、中學校四、高等女學校五、その他日本人建設の義塾がある。
首府ホノル、には加藤清正公の社あり又、布哇全島に八十八箇所の大師様がある。

北米加州

問題の北米加州、中部フレスの地方は、夏季寒暖計一百二十度に上る。故に果物の絶品を以て稱られて居る
此の加州で、最も優良なる労働者は日本人である。それは克く熱に耐へ、勤勞するからである。

帝國平原

米國及墨西哥との境上なる帝國平原は、土地海面よりも低く、低きこと二百尺に達する所もある。それで暑
熱焼くが如く、平原の入口にある鐵道分岐点を「地獄の門」と呼ぶ。土地がこんなであるが故に水瓜を名物と
する。そして之を作る者は大概日本人である。

米國

北米ロッキーマウンテンにロッキーマウンテンと稱ふる極熱の所がある。よく甜瓜を産し「ロッキーマウンテン甜瓜」
とて全米中に名高い。而して之を作る者は大概日本人である。前米國大統領ウイルソン氏に日本人栽培團体
より獻呈せし程である。

墨西哥

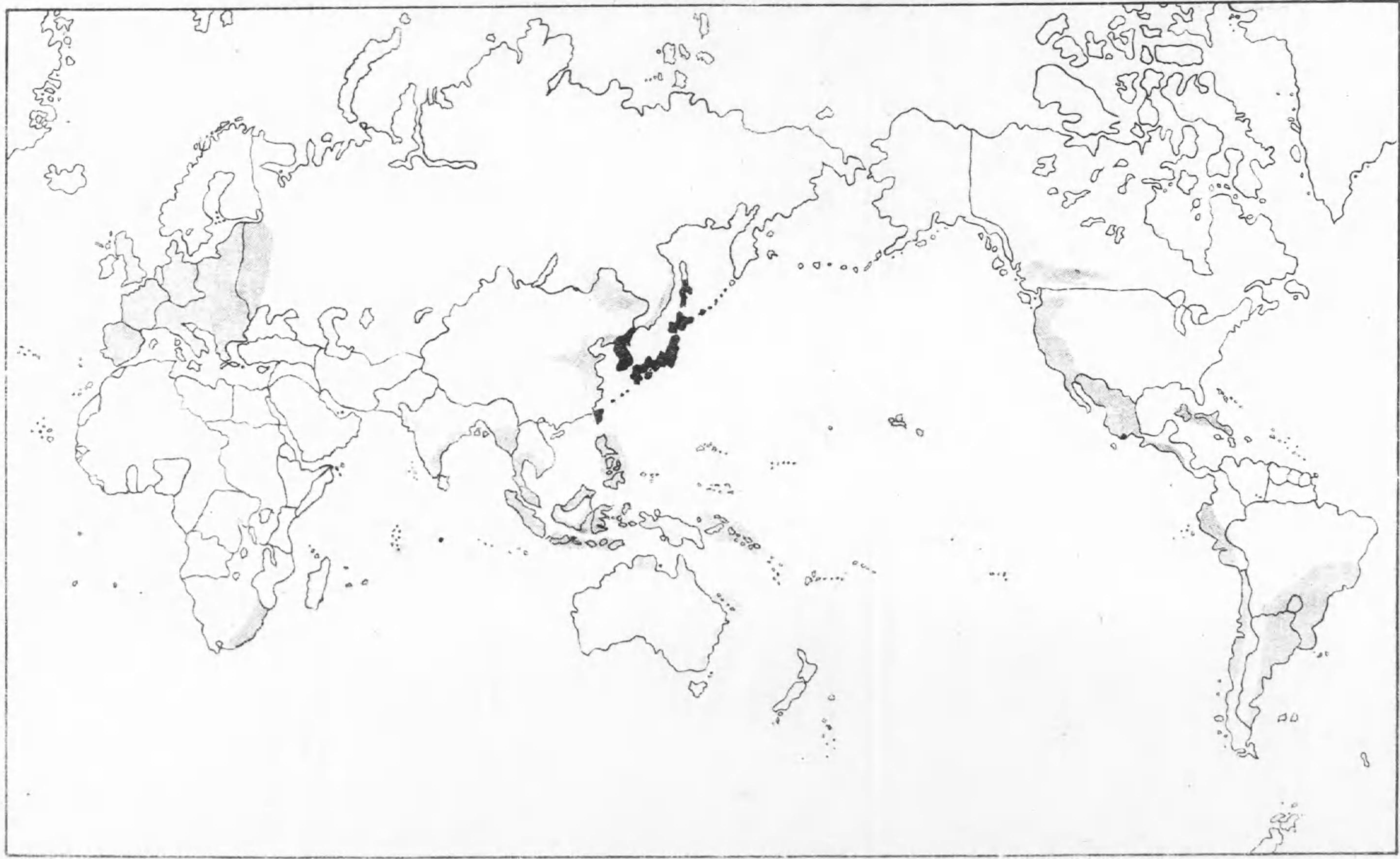
墨西哥の北部カリフォルニア地方の綿花、南部チアパス地方の珈琲栽培には、我が同胞着々成功しつつある。中
部は、氣候温暖、土地肥沃、河湖もあつて水利の便も多く、且其の門戸たるマンサニョ港は東洋汽船會社
の寄港地にもなつて居り、日本人の爲めに多望である

秘露

明治四十年には在留日本人二千、今や一万二千、市街地より森林地、護謨産地に進入して居る。
サンタ、バルバラ(國都里馬市の西南四十里)には日本人村役場、泰平山慈恩寺がある。



(圖展發外海ノ族民本日)



明治四十年には在留日本人二千、今や一万二千、市街地より森林地、護謨産地に進入して居る。
サンタ、バルバラ(國都里馬市の西南四十里)には日本人村役場、秦平山慈恩寺がある。



伯刺西爾

日本人の団体移住は、明治四十一年に始まる。而も今やサンパウロ州等に四万餘り、珈琲園、米作等に從事して居る。日本小學校十二、日本郵船會社、大阪商船會社は航路を通じてゐる。

目下、我が鹿兒島村及熊本村等の日本村を現出の計畫あり、尙、アマゾン河流に幾百萬町歩の廣い地域を伯刺西爾政府は、我れに提供せんとする意志さへ發表して居る。將來我が國の殖民發展上最も注目し値する地方の一であることを記憶せねばならぬ。

玖馬

大正三年の秋までは、日米人は僅々三十餘人に過ぎなかつたが。今や約五百に上つて居る。その産物と人情は、我が國人の目ざすべき所である。

以上の如く暑熱の地には殊によく各地に亘り、尙舉げ来れば殆んど際限はない。近々三十四十年間の實蹟は相當の發展を物語つて居る。

而して是等移住者には、財貨を貯へて故國に還るといふ一時的の者も尠くないが、近次益々農業本位の殖民者多く、而も永住者の數を増し、「夫婦共稼」「一家引移」の機運に向ひつゝ、あるは、最も喜ばしき現象である。

此の如き現状にまで行き着いて居る我が國は、今後如何なる方向を取るべきか、次に起るべき問題である。左に、最も有望と目せらるゝ箇所につき簡單に述べることにする。

一、將來の方向

其の一 我と接壤する大陸地方

滿洲、蒙古、西伯利亞等の廣くて廉くて、地方の充實せる大陸地方は恰も我が爲めに展開し來つて居る。今や滿洲のみにも邦人の此處に活動する者十八万の多きに達して居るが(關東州を含む)將來我が國の死活に

大關係を持つ綿羊の牧畜、綿花の栽培にも適し、大豆、高粱等の豊産を以て聞ゆる沃野は際限も無く續いて今後尙幾倍の移民を容るゝの餘地がある。

歐米の眼は漸く此處に轉せられて、利權の手は延びつゝある今日、速かに商租問題を解決して多々益々移住を決定し、彼等支那民族と親しく握手して寶庫の開拓に従事することは今日の急務である。朝鮮、滿洲は、言はゞ其の爲に許けられた資源ではないか、爰數年の間に日本の強固なる地盤を固めなければ、國家的に亦亞細亞民族の爲めに永却の不覺となることを忘れてはならぬ。

其の二―南方

嘗て我等の祖先の發展せし、南亞南洋の地は、何時しか白人の領土となり果てゝは居るものゝ、今や亦時は巡り來つて再邦人の南洋發展の曙光を認めつゝあることは、慥かに邦家の慶事である。南洋の諸邦は天産が飽満である。世界物資の主なる供給地で、白人の熱中した地中海の經營、大西洋岸への發展は既に行詰つて。鋭い眼は南洋の經營に注がれて來た。開發を待ちあぐんで居る南洋の水陸は彼等の投ずる大資本によつて今や開かれつゝある。

さりとて暑熱に耐へ得る獨特の体力を以て此の中に活躍しつゝある我が日本人の勞働力は實に無類である。祖先によつて啓示された在南の寶藏は、外人の得て及ぶべからざる此の貴重なる力によつて、廣く大きく開かれて行かねばならぬ。

夫婦共稼はおろか家庭相携へて、自然に興へられたる臺灣及委任統治區の波石を、喜々として渡るべき時は是からである。

其の三―大平洋を越えて

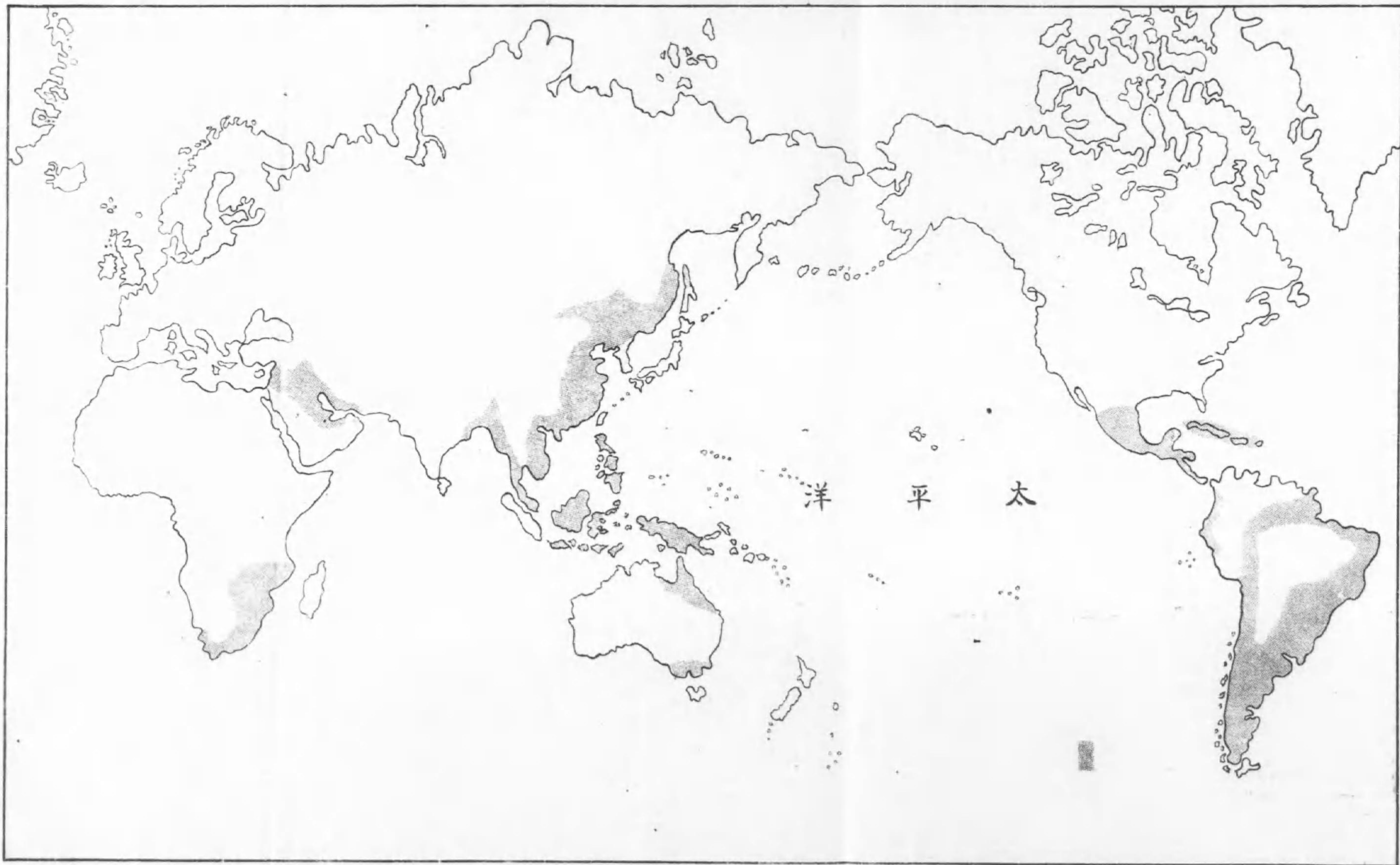
○ 玖馬

日本移民十三万の盛大を極むる彼の布哇は、早今日以上に砂糖を植うる土地を餘さない上に、米國政府は去

(圖) 南洋の發展と南洋の資源



(圖ノ域地ルナ望有ニ展發ノ族民本日大來將)



其の三 太平洋を越えて
○ 玖馬
日本移民十三万の盛大を極むる彼の布哇は、早今日以上に砂糖を植うる土地を餘さない上に、米國政府は去



る明治四十一年、日本人の入國を禁じてしまつた。

此の布哇にかへて日本人が砂糖栽培に志すべき處は、巴拿馬運河を通つて行くべき攻馬である、攻馬は布哇の八倍の面積を有し、砂糖の産額一ヶ年二十億にも上ることがある。随つて世界中の砂糖は、毎日同國より來る電報に依つて翌日の相場を定むることゝふ。而も砂糖キビの作付反別は僅かに全國面積の一割に過ぎぬとは同國政府の報告である。

氣候も冬六十度、夏の最高九十度を上らず、健康に適する故に死亡率も日本よりも少い。而も人口の密度は日本の四分の一、一人當貿易輸出率は實は北米合衆國の三倍であることである。砂糖の外、ハバナ煙草の有名はいふまでもなく、諸種の農産、林産、鑛産もあつて、最も有望なる地方の一たるを失はない

○伯刺西爾

移住地は居心地の好い處たること其の第一條件である。切言すれば、其の土地に移住して、其の國人と均等せる待遇を受け、選舉權及歸化權を所有し、文武の公職に就くことを得、縦し歸化しなくても土地の所有權、鑛山の探掘權位は之を得べき所なくてはならぬ。而して南亞米利加の伯刺西爾こそこれである。

北加奈陀より加州及び太平洋系の諸州に住する日本人十五万は、年々排斥せられて、當分今日以上發展すべき餘地を残さぬ場合に於て、南米に伯刺西爾といふ我が國の十三倍半に當る大國が、我が國の移民を待つと聞いては實に欣幸に堪わぬ。在伯刺西爾は四万、殆んど全部がサンパウロ州に偏住して珈琲の栽培に従事してゐる。

サンパウロ州の珈琲は伯刺西爾總額の九割を占め世界産額の三分の二を出すのである。同州の將來も多望に違ないけれども、其の南部三州(巴拉ーナ州、サンタカタリーナ州、リオグランデ、ドスール州)は、珈琲を始め、茶及一般農業に適するを以て、此處こそ北米の諸州に代るべき我が國人發展の場所と目されて居る。三州の面積は三万四千方里、朝鮮の三分の一を除いた日本の廣さで、而も人口の密度は日本の十二分の一に過

ぎぬ。こゝに最も特筆すべきは「ここは世界稀有の健康地である」といふ点である。パラナ州の如き、首府クリチバ市の年平均温度は華氏六十一度、最低四十六度、死亡率は千人に對する一四、五四を示して、事實は雄辯に無比の健康地を談つて居る。尙生産的天恵無比で、獨逸のビヒ、グイテール氏をして「南伯刺西爾は木材も、水も、牧場も十分なり、空氣の清純にして又人を健康ならしむることは、全世界に復た此の如き處なし」と記させて居る。

域内には年四回馬鈴薯を收穫する所もあり、水利は良く米作に適する所もある。這般我が鹿兒島新聞は「日本人が成功した南米の米作

大農式經營が頗る有望……」

を見出しに、次の如く記載して居る。

「東電」從來南米ブラジル、アルゼンチン、チリの殖民地は、日本人に依つて開拓され、コーヒー、ゴム、栽培は勿論、近年米作も成功した。即ち多量の食糧米を産出するに至つたのは、全く我が日本人獨特の農工技能によるものと、南米各國の政府も日本移民の活動に對しては深甚の敬意を表し、今後も引續き「集團的」家族的移民の渡航を希望して居る次第である。尙此の機會に日本人に對しては米作を改良し、大農式方法を試みたら益々有望で、母國に向つて輸出し得る見込は十分あり、就中……云々」と。

我が鹿兒島縣海外協會では縣民の海外發展につき調査研究中であつたが、いよ／＼具體的方法が出来上り、

南米ブラジルに鹿兒島村建設のことに決定したので、近く縣下各町村長を地方委員に囑託し、渡航者の人選移住民に對する物質上の援助移住者と郷土との聯絡等、移住者が何等不安なく前途洋々たる希望を以て勇往邁進して初期の目的を達成するやうに努める方針である（本年八月六日鹿兒島新聞記載）

ブラジルに「大キナ利權」日本側が得たとの報（本年七月二日鹿兒島新聞附録）

「紐育發」米國勞働者發行の國際勞働報告は、ブラジルの東北部テアラ、アマゾナス地方に日本移民を送り且此の地方に於て可なりの利權を求めんとする日本側と、ブラジル當局との交渉は終つた……云々略」

アマゾン河の流域に（八月中旬鹿兒島新聞に見ゆ）

「日本村」建設の計畫

伯國政府が八百四十萬町歩を提供

伯刺西爾政府により、アマゾン河流域地方開拓の爲め日本移民を歓迎し、日本人に對し八百四十萬町歩の土地を提供し、自由開拓を許すことになつたといふのである。……中略……

我が政府の有望なるブラジル移民策漸く進捗し、或は長野村、或は能本村鹿兒島村と、地方名を名とする日本

人村が、南米の各所に出現する機運に達したとは、眞に近時の痛快事たるを失はない。獨逸が大戦前既に五十萬の移民を送りて第二の獨逸國を此處に建設せんとした大計畫の崩壊した今日最も好感を以て迎へらるゝを幸として、特に堅實なる移民を渡して土地の開拓と文化の建設とに盡さしむるは、極めて大切なる而も意義あるとに相違ない。家々相携へて移民を執行し、やがて伯刺西爾の地に日本櫻の咲匂ふ日を待ちたいものである

○パラグアイ

面積約三萬方里（即ち日本内地に同じ）に人口僅かに一百万、一方里の密度二十三人即ち日本内地の七十分の一である。以て其の餘地の廣大さが知られる。

氣候は同温線の最高二十四度（華氏七十五度）同最低二十度（華氏六十八度）國の中央部にある國都アスンシオン市の年平均温度は華氏七十二度で日本の櫻の開花する温度である。

ラ、プラタ河の流域なる所謂銀河平原は廣漠で、平坦で、肥沃で、實に多望なる新世界である。日本の小天地に在りて鬱屈爲すなきを捨て、來り、未來ある大地盤を固めるものならば、曾に其の幸福は本人のみには止まるまい。

○中部メキシコ

我が東洋汽船會社は中部メキシコの門戸なるマンサニョ港へ定期航海を開通して至便になつて居る、其の氣候が健康地であるのみならず、地勢、地味、水利、交通の各点より見て、チアパーラ湖を中心とする地方が好移住地として近時我が國の注目する所とはなつて居る。

其の四—印度の東と西

○東なる緬甸

其の面積は恰も我が日本（朝鮮を合したる）と同じく、人口は一千四百萬に上り、米の産額は一ヶ年四千五百萬石、加之チーク材の本場として世界に知られ、森林の面積無慮二萬五千方里（日本内地の太さ）而も又東部亞細亞第一の石油國として近年頗る擡頭し來つたのが緬甸である。

其の住民とし言へば吾々日本人と同一種である故に自ら日本を憧憬して居り、居心地のよいことはいふまでもない。此の地に在留する支那人十三萬の多きに比して、我國人は僅々五百に満たない。東に接壤する暹羅、佛領印度支那と共に我が國人の發展すべき好個の地である。

○西なるメソポタミヤを中心にして廣い國々

歴史は繰返して、世界人類の搖籃であつた此の地に、逝いて三千餘年の今は再び巡つて東西の勢力が此所に相會するとは誰が期したらう。現に、英、佛、米、土の四國が血眼になつて爭奪するは、昔アッシリヤ帝國の國都ニネヴェである。

名に負ふ「モスル油田」

波斯灣の盡くる北、メソポタミヤを中心とする一帯の廣漠たる地域及同灣の東岸波斯にかけては、實に無限の石油を埋藏して居る。之を十分に開發する時に於ては、世界第一の石油國たる米國に拮抗し得らるべしと専門家の所説である。

此の油田を中心に、波斯、亞刺比亞、以北小亞細亞の地が各方面に開拓せられ行くことは次代に現はれる當然の事實であらう。そして必ずや其處に東西の衝突即ち白人種と有色人種との興廢問題が伴ふことを識者は語つて居る。

土地は亞細亞であり吾人は有色人である。唯傍觀して其の時機を待つか。然も亦現に亞細亞の寶庫に喰入りつゝある白人種をその爲すが儘に任するか、重要にして緊急なる問題はここに存する。寶庫は大である。門戸は無限であらう。「石油の有無が國家社會の興亡を決する。」といふ眞理に速く目覺めて、得らるべき門戸を有力に獲て置くことは國家百年……以上の計ではあるまいか。國家は策を極め、國民は意氣を揚げて日本國の爲のみならぬ亞細亞人十億の爲めに大いに劃策しなければならぬ。自己の畑より白人が拾上げた寶を見て啞然として驚くが東洋人の常である。かくして東洋は其の凡てを喪ひ果てんとして居るのではないか。残る一物をも亦失ひつゝあるのは實に残念の至りである。

三、太平洋を中心に

地中海時代が遠に過ぎて歐洲の文化は大西洋を渡つて米大陸に西漸し、所謂大西洋時代を作り、倫敦の繁榮となり、紐育の全盛となつたのである。

然るに太平洋の兩岸即ち歐羅巴も北米の東岸も土地狭く人口は多く、地力も漸く盡き去り發達も窮りて發展の舞臺を更に西へ求めた。今や歐米人種を並べて太平洋に達し、更に進みて太平洋中の島々に軍事上將た經濟上の根據を作り、前みて支那に伸び、西比利亞までも雄張しやうとして居る。

顧るに彼白人は、初めに東の亞細亞大陸より西の歐羅巴に遷り、西漸に西漸し更に西漸して茲に還元し來り、

東に進んで我が帝國に花咲く東洋文化と、即ち東漸の文化と西漸の文化とは、今や太平洋に集中したのである。南亞聯邦首相スマッツ將軍が「今や歐羅巴、亞弗利加、亞細亞は極東に於て相會するに至れり、人類史の次の大なるページは極東の地に展開すべし」と喝破した通りである。蓋此の人類史に如何なる史實も作るか、今後帝國の問題でなければならぬ。

是に立つて太平洋の圖を披き見たら、東には加奈陀北米合衆國、墨西哥及南米の太平洋岸あり、而も創業期に屬して發展すべき餘地は多大である。洋の西には世界に於ける未開利源の第二と稱へられたる西伯利亞があり、南には未開利源の第三と稱へられたる濠洲がある。其の間には西に未開利源の第一と稱へられたる大支那がある、而も洋中に散在する大小の島々は實に利源中の利源を以て満たされて居る。

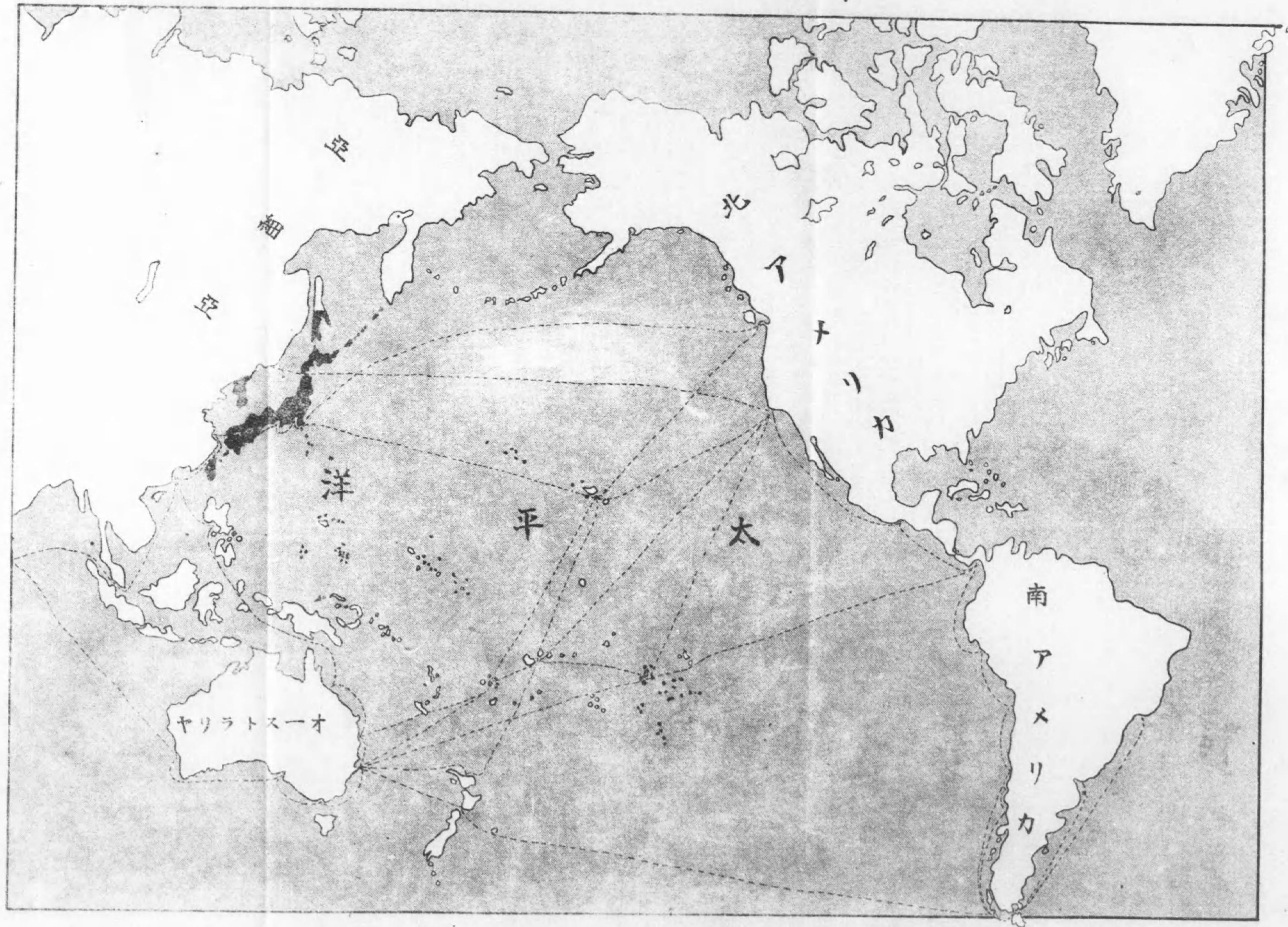
然して亞米利加と亞細亞とは相對して風土を異にし産物を異にし、製造品を異にし、南部諸島も又特異の必需品に輝いて居るから、有無交換の理は自然に貿易の殷盛を醸すべきは當然である。

世界が太平洋時代に進轉しつゝある時に方つて思ふに、世界七十國中太平洋に包まれたるは、獨り我が「日本」あるのみである。極東の盟主たる我が大日本帝國は此の位置に居り此の時に際して、國民舉つて國家發展の將來に任すべく、非常の決心と實行の大切なる之に過ぐるものはあるまい。

而して忘れてはならぬ。此の大任を背負つて立ち、此の世界的葛藤の中に、嶄然として帝國の威信を發揚しなければならぬ者は、吾人の眞劍なる太平洋問題講話の前に、目を見張り、拳を握つて共鳴禁じ得ぬ。「最愛の兒童を外にしては何者もない。」ことを。



(圖 洋 平 太)



「最愛の児童を外にしては何者もない。」ことを。



第二篇 實際論

第一章 兒童海外思想の資源

私は「兒童に及ぼす教師の教化價值を無視する教育思想」には徹頭徹尾賛成は出來ぬ。苟も學校教育が「兒童對教師」の仕事である間、該教化教育の基底は教師にあること理の當然で、何れの場合か例外あらんである。

教師の知識は兒童の知識となり、教師の信念は兒童の信念となり、教師の人格は又やがて兒童の人格に強く影響することを肯定しなくてはならぬ。實に教育はこゝに價值があり生命があるとも言へやう。

故に本問題「小學校兒童の海外思想」も亦、先づ根柢を小學校教師の該思想の徹底に待たなければならぬ。教師に、帝國及び對外的理解があり、海外事情の眼識があつて、國家的信念が旺盛であるならば、氣は器を遷すの理、教師の知識と信念は何時しか兒童の胸底に定坐すること當然である。

されば、兒童の思想以前に教師の思想を思はねばならぬ。教師の思想から兒童への思想を重視しなければならぬ。吾人が頁を費して稍々詳細に第一編を草したる所以は全く是に外ならない。

兒童の海外思想の資源は第一教師である。教師は彼等の思想の源泉である。教師より湧躍する鮮活な思想を攝取して兒童は己の思想を作り、信念を拵へるのである。教師といふ源泉が、或は歴史的に或は現代的に、內的に外的に豊富に満へて然も鮮明であつたならば、兒童の思想より豊富により鮮明に溢れては帝國を潤すに足り、漲つては人類を救ふに足る思想が養はれることであらう。

屢々前篇に述べたるが如く「我が國民海外思想の明暗」は、國家將來の死活問題、乃至は延いて人類問題に關及する。而も世界の趨勢は今や太平洋に集中して、軍事的、經濟的大争闘は一刻も閑視を許さざる急迫の時にあることを、教師先づ鮮明に自覺しなければならぬ。そして未來ある小國民をして、帝國の現状と、海外の情勢

とに對立せしめて、之に處するの道を眞實に悟らしめねばならぬ。是れこそ吾人教育者の必ず果さざるべからざる奉公であり使命である。

その使命を果す爲に

「教師の修養と方法的具案」が必要である。

一、修 養

(一) 海外視察

「百聞一見に如かず」とか、教師の生きたる眼識を作る爲めには、視察に越す良策はあるまい。而し、之にせ經費といふ難題が伴ふ故に、意に任せられぬのが遺憾である。然るに近來、東京市、大阪市等に於て、巨費を投じて小學校長の歐米視察が屢々企てられたることは遠がに先覺といふべく、斯かる機運が全国的に、而も亦校長のみならず訓導にまで及ばんことを希はざるを得ない。

國民が海外に目醒めることが果して國家的の要望であるならば、其の源泉を涵ふ意味に於て、宜しく小學校教師の外遊を劃策し、國家は之に要する多少の經費を犠牲にしなくてはならぬ。尙教師自身及教育團體は夫々方法を講じ、少くとも、滿鮮視察、支那視察位は、凡そ總ての教師が必ず決行する必要があるではなからうか。他を識つて甫めて已が知られるものである。一度び上海市場に對立する世界各國民の活動狀況を見たらば、眞に已を省み、自國を憶ふの念がむら／＼と湧發することであらう。

(二) 鮮活なる知識

過去の史蹟は現在の根柢である。歴史を識ることに依つて眞に現代を理解することが出来る。先人が有した海外思想を直ちに現代人の思想たらしめることは勿論出来ないけれども、而も幾多の貴い暗示と教訓とが漂うて居ることは、前篇既に縷々述べたる所である。教師は所謂鮮活なる知識を得る爲めに、我が國及世界の、海外發展の歴史を研究しなければならぬ。

次に世界の事情に通じることが最も大切である。それが爲には、日本地理、外國(世界)地理は言ふに及ばず、政治、經濟、國際の一般、特に外交、貿易植民(廣い意味)には最も深い注意を拂はねばならぬ。凡そ前篇に述べたるが如き知識と信念を備へないでは、兒童の思想を鮮活ならしめることは逆も出來ざる相談と信ずる。最後に「新聞若くは雜誌等に對する用意」である。勿論、昨日今日の間、「大西洋時代が一轉して太平洋時代となる」といふが如き大變動はないにしても時々刻々定まりなきは世界の情勢である。海外の事情は實に停止の時がなく、昨日の事實は必ずしも今日の事實ではない。之を思ふ時、教師は餘程の用意を要する。努めて新刊書に親しみ、新聞や雜誌に注意を拂つて、常に新鮮なる知識と識見を懐かなくてはならぬ。新歸朝者や先覺者の講話を聞くが如きは最も良己自啓發の方法である。

以上を要するに、教師が或は學習により平素の注意により、又出來得べくんば實地の視察等に依つて、自己の實力を養ひ、思想を鮮活豊富にすることは、兒童の思想を有爲ならしめる爲めに、常に努めなければならぬ重要なことである。教師が明智を得る爲の修養は、兒童をして賢明ならしめる唯一の前提であることを知らなければならぬ。

二、方法の具案

詳かに言へば「小學校兒童に對する海外思想普及の良策」の別辭に外ならぬ。自己の信する所を、最も眞劍に以下章をかへて述ぶることとする。

第二章 海外思想はお伽噺の世界から

「國の神話、傳説、俚諺、其の他俗話の端に至るまで何か知らぬ。其處に國民性の閃きを發見するであらう。

別してお伽噺は兒童の鋭敏なる感覺をそゝり、其の思想、感情に影響して其の感化は偉大なるものがある。延いては之が歴史ある國民性の涵養ともなり、一國の政治、政策の上にも作用すべきことを想はねばならぬ。

彼等幼弱なる兒童が、聲を張り拳を握つて、雄しく桃太郎の唱歌を

1、桃から生れた桃太郎

氣は優しく力持ち

鬼が島をば討たんとして

勇んで家を出かけたり

○

2、日本一のきび團子

情けにつき来る犬と猿

雉子も貰うてお供する

急げや者共遅るなよ。

4、車に積んだ寶物

犬が曳き出すえんやらや

猿が後押す わんやらや

雉子が綱曳くわんやらや。

と話し勇むとき、其の心界はどんなに躍ることであらう。固より之を植民發展的に看するならば、桃太郎といふ智仁勇兼備の青年が、南方に、在る未開島の遠征を企て、其處の蕃人を征服し、數多の金銀財寶を分捕りして再び日本に歸り、両親を喜ばせた。といふのであつて、其の方法は侵略的であり、分捕り式であり我が日本民族の過去に於ける海外發展をそのまゝ物語つて居る憾みがある。けれども是によつて彼等の幼年の心海はどんなに啓かれ、將來の活動性をどんなに孕むことであらう。

同じく兒童の嗜好に適ひ、價値の多いのは、「浦島太郎」の噺である。

或る一漁村に生れた浦島は、不圖した機縁よりして沖遠く波の間に、漕ぎ行く中に、外洋遙かに漂うて、とある島陸に上陸したのであるが、其所の住民より非常なる歓待を受け、酋長の寵愛を一身に集め、終に其の娘

は全身の愛を彼に捧げるに至り、實に不足のあるべくも無い境地に立つたのであるが、遺憾ながら家族を伴はなかつた爲めに「龍宮」の歡樂も遂に故郷を忘れしむる力とはならず、再び故郷に歸つたといふに盡きて居る。之を植民的に見るとき、桃太郎の如く侵略的ではなかつたといふ美點はあるもの、尙家族を伴ない半永住的の發展で、錦を故郷に飾らんとする我が民族過去の風習にある點に變りはない。

然しこゝに桃太郎や浦島を云爲する所以は、決して是を植民的に批判を試みやうといふのではない。之が幼年の心理に及ばず、純なるお伽としての價値を見詰めたといふのである。即ち彼等が面白いお伽の噺に聴きとれ、之を高唱して居る裡に、何時しか自他の境地を越えて、自己の全部を噺の中に没入し、そこに大きな世界を見、廣い天地を描いて行く。その生活自体が、やがて海外に親しむ心でもあり、大きく發展的意氣の萌芽でもある、極めて貴いものであると信ずるのである。

我が國には不幸にして未だ桃太郎や浦島に優る發展的のお伽噺が見つからない。或は創作により、或は廣く求めて、一生を支配すべき大切な幼年の心を常に發展的に刺戟することを忘れてはならぬ。「三ツ子の魂百まで」鐵は赤い中に鍛へねばならぬのである。

桃太郎の鬼が島征伐、浦島太郎の龍城、吾々日本人の總てが、必ず一度は歌はねばならぬ此の唱歌、其の感化の偉大なるを思ふ時、海外思想の普及上、此のお伽噺を輕視する譯には行かぬ。

第三章 小學校地理教育の徹底

吾人の兒童の上に望む「海外思想」は、少くとも其の國家的、國民的の自覺の上に立つべきであるから、「小學校兒童に對する海外思想の普及」の方法的内容は、教育方法の或る限られた一部分か又は特殊に非ず、寧ろ教育の全面即ちすべての教科教育を其の内容としなければならぬけれども、而も其の方法として第一線に立つべき

ものは徹底的地理教育であると信ずるのである。

勿論、小學校教科としての地理科は、其の教則に示されたる目的の下に置かれたものであつて、決して植民思想の普及といふが如き一部目的に止まる筈はないけれども、而も児童の海外思想を養はんとせば、宜しく地理教育の徹底を圖らねばならぬ。即ち地理教育の目的が果して「地球表面に關する知識並に人類的生活に關する知識を得せしめ、而も本邦國勢の主要を理解せしめて國民の愛國心を養ふ」ことにあるならば、斯かる目的を果すに足るべき地理教育は自ら児童の海外に對する思想を隨伴する。極言すれば、児童の海外思想を養ひ得ざる地理教授は、未だ其の目的の半ばをも達し得て居ないと信ずるが至當であるまいか。

然らば地理教育は如何にあるべきか、否「海外思想普及の第一義」として立つべきを、如何に經營すべきか。是は本問題解決の爲めに、最善の努力を費すべき所である。

故に以下、海外思想の普及に向ふ地理教育の方途につきて、自信を披瀝することにする。

第一、本邦地理學習の徹底

「郷土を識ることが一國を識るの初めであり。一國を解するが、海外を解する所以である。」

我が國民の有すべき海外思想なるものは、必ずや我が國情を其の根柢とすべく、所謂「海外」は「海内」即ち内國に對するの語であつて、又、内國なくして「海外」あるべき筈もなく「内」明かにして「外」自ら明徹を得べきは理の當然であらう。

而して吾人の兒童に要望する海外思想はなるものは、必ずや日本國民としての思想ではなくてはならぬから、兒童が、眞摯にして明徹なる思想を得る爲めには、先づ日本といふ我が國の國勢……内實を十分にわからねばならぬ。然らば之が爲に努力すべき點は如何に

1、本邦國勢並に我が國の世界的地位の自覺

位置 我が國の自然的位置を、地理的に又列國との關係から眺めて、極めて天授的優位を占める點、其の優位は

同時に種々の民族的、國際的に幾多の問題を有する點、世界の大勢太平洋に集中せんとする今日は、一段の秋に方ること等を、「地圖」の讀方を最も機能的に導いて國力充實の必要を深刻に覺らせねばならぬ、

國力の充實、何れの國か之思はざらんや、であるけれども我が國の現状は、或は産業、交通、貿易等所謂經濟方面より見て、又一面人口と國土關係より眺めて、これ安住を許さざる窮境にあるのである。想ふに國勢の理解は、他との比較對照を以て有効とするから、是等經濟の問題、人口の問題を、他列強及び國々と比較對照して直觀的學習を進め、國力充實の必要と、我が帝國の世界的地位を自覺せしめねばならぬ。(諸表左圖參照)而も亦世界の大勢は屢々述べたるが如く、將に太平洋に集漸し、東洋は今後世界的、國際的檣舞臺となるの形勢にある。こゝには一段の注意を拂ひ、特に現勢の推移を見抜くべく、常に時事問題に用意を怠らずして、握り得た教師の事實と實感を兒童の鋭敏なる感管に熱く觸れしめて、我が國力充實の必要を痛感せしめねばならぬ。

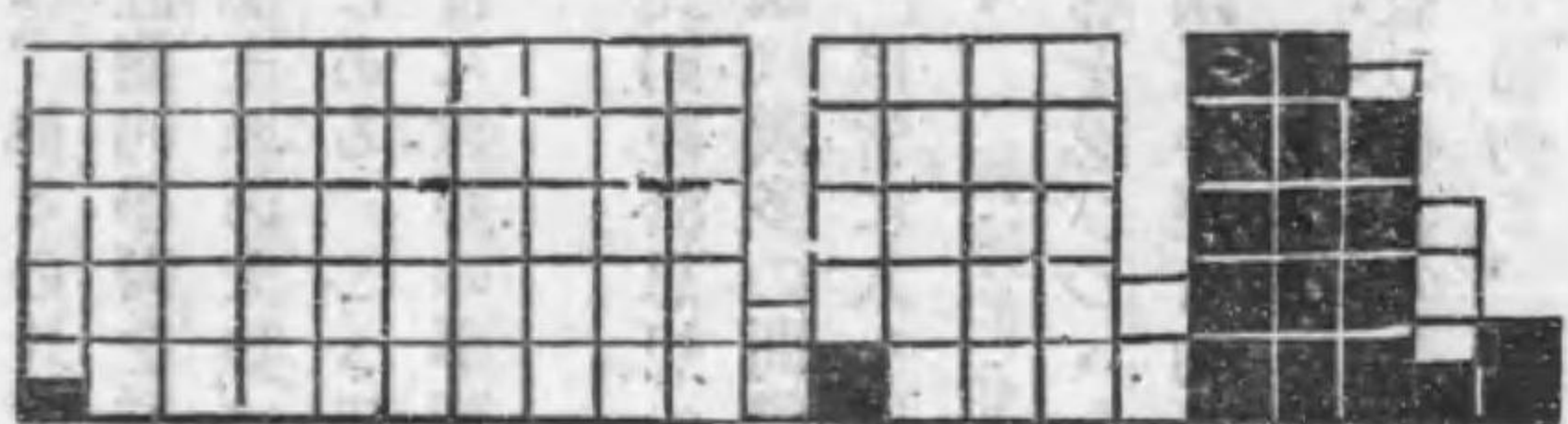
2、國民的經濟思想の涵養

我が國は幾多の問題を有する。而も國家の浮沈に關する最大の問題は實にこれ經濟といふ問題ではなからうか「國土」は當に人を以て填められて餘地なきに至り、「生産」は足らずして年々萬億の金を貧しき懷より絞らざるを得ず、「國家的企圖」は遷延か徹廢で國民の要望に副はざるもの一二にして足らず、爲めに帝國は幾多の辛酸と國辱を忍びつゝあるのではないか。

實に國民の經濟的自覺は、國家隆昌建設の自覺、國民永遠福祉の力でなくして何であらう。「經濟地理」の重要、是が小學地理の中核を爲さねばならぬと信ずる。

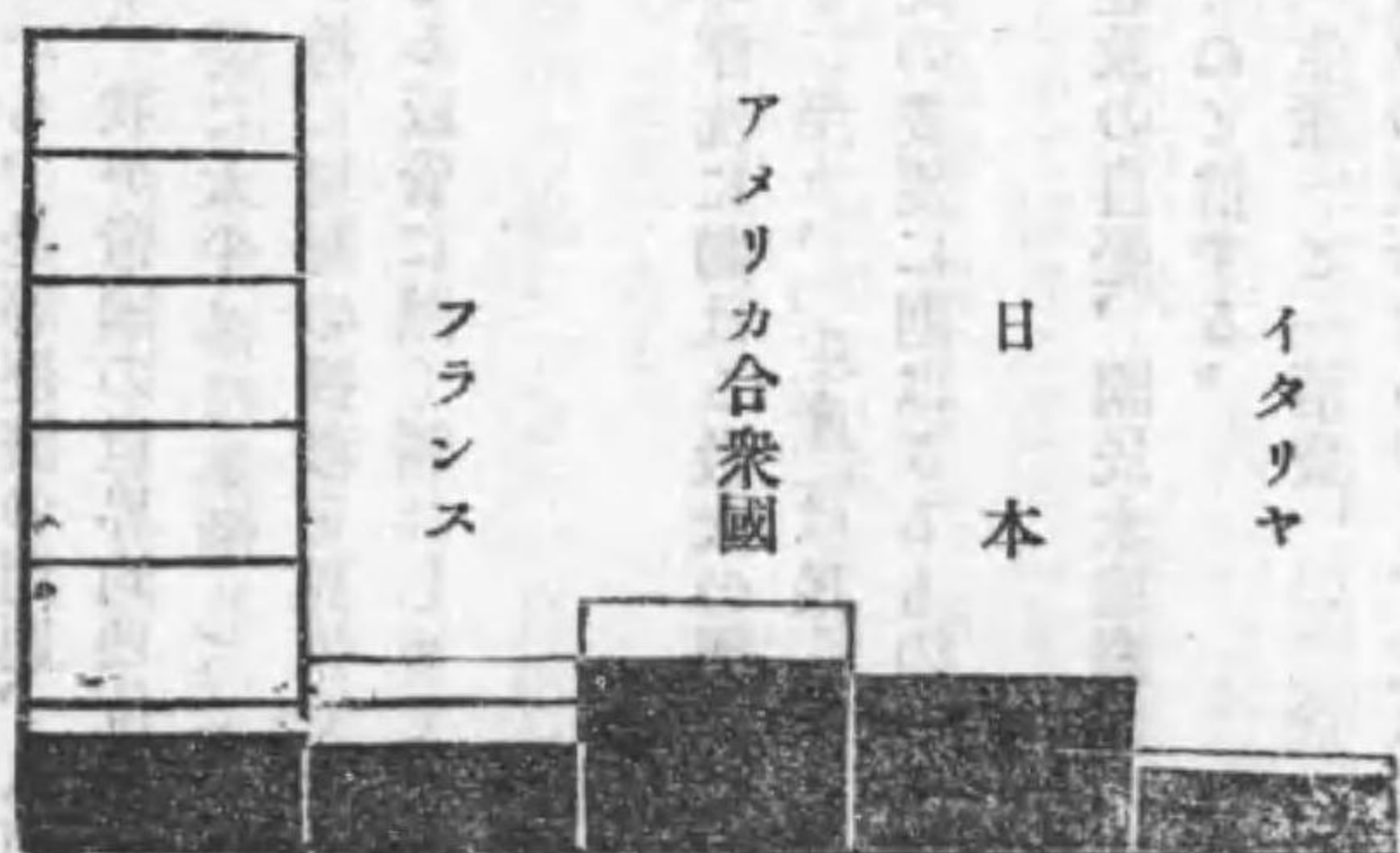
國産増殖の必要の自覺、念ふに經濟の道は「生産」と「消費」の二途を歩まねばならぬ。而して後者は國民の國産品の節約と、外國品の節用といふ消費節減の經濟であつて、之は輸入を遞減し、輸出を増加する一の力であ

五大國ノ積面ノ比較

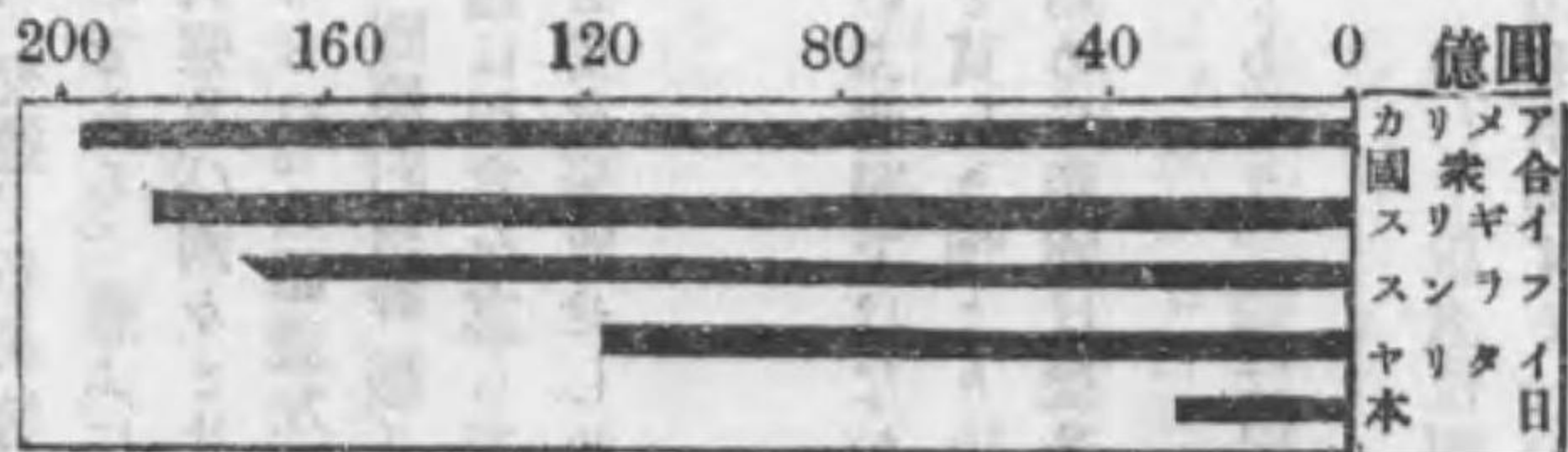


日本
イタリア
アメリカ
合衆國
フランス
イギリス

■ 國本
□ 外以國本



五大國ノ人口ノ比較



五大國ノ貿易額ノ比較

つて、國民の相共にかむべき所勿論なるも、一國の積極的經濟は實に生産に據るべきこと言ふまでもない。即ち年々海外に流れ行く金貨の防止、挽回の策は、實に國產の増殖をその第一義としなければならぬ。茲には實に國家總動員の自覺を要する所である。従つて

産業取扱を重視し、産業の發達、産物産出の原因、産物の特質、産額の多少、現在の狀態。將來の傾向人的努力の結果勃興せる産業、最近の産業界の變動に着眼して圖表、數字、特に實物を用ひて具体的に學習せしめ、事實の直觀に努めて其の間、地理的理法を覺らせ我が國の國產とする重要産物、豊富なる産物、不足する産物には特に深甚の注意を拂ひ、需要供給の原則に基いて國策のある所を了解せしめる。而も亦將來の改良、普及、畫策乃至は國民の努力に依つては生産を増加し得る可能性あるものに就いては一層の力を注いで、奉公の實を覺悟させるのである。尙茲に各産業取扱上の着眼點を摘記すれば

「農業」土地、面積、灌漑、氣候との關係、農産物に對する人為的改良法、利用と日常生活衣食住との關係、(常に可及的海外諸國との比較)

「牧畜」氣候、風土、地勢との關係、畜産物の利用と日常生活其の他、國家經濟其の他人生との關係

「林業」山地、氣候(雨量を含む)と森林地、灌漑と森林地との關係、林産物利用と日常生活其の他人生との關係、木材の不足と海外關係、植林と原野の利用

「鑛業」人智の進歩と富源開拓、鑛業狀態と人智の偉大、鑛業と交通都邑との關係、鑛産物の種類と利用、特に將來國力の消長に關係ある石油政策

「水産業」海流、海岸の種類との關係、加工製品販路關係、國人の活動發展の狀況……海外重視、水産物と日常生活との關係

「工業」土地の位置、水陸交通、原料品の有無、動力の供給、努力資本等の諸關係、工業と他生産業との關係原料及製品と海外貿易關係、科學の進歩と我が國工業の發展、世界工業の發展、商業、貿易との關係、都邑との關係

「商業」他の産業、交通との關係、内地商業外國貿易の狀況と發展策、重要貿易品の重視、商業道徳

海外貿易に對する覺悟

主なる輸出入品及び其の價格、輸出入の依つて起る原則的知識を授け、輸入先の生産狀況、輸出品の生産狀況を具體的に明かにして、思を將來に致させねばならぬ。外國地理を授ける場合、我が貿易關係國に於ては、其の相對貿易狀況に及び、彼此照映して知識を確實にすると共に、國際的妙味を味はしめることにする。我が國の海外貿易上特に留意すべきは「失はれたる得意先」があるのではないか、是である。今日我が國の貿易は、言はゞ市中の大道だけであつて、小路、裏通に好個の需給者が見通がされて居る感がある。即ちペルシヤ、アラビヤ及び小亞細亞の諸地方、墨西哥、玖馬等の地方は、たまたに入込む我が國の製品が愛用され、一方我が國の需品も豊富で、劃策宜しきを得れば大いに前途望みあることは、志賀博士等によつて頻りに唱導する、所である。今日漸く生産力を増大しつゝある我國は、斯かる失はれたる小路をも求めて更に新得意先を擴むることが必要ではないか。

我が國は今日世界五大強國の一、寧ろ三大強國の一として、世界に重きを爲すに至つては居るが、其の貿易に就ては未だ甚だ振はない。我が國の貿易額約三十億を、世界一なる英國の百九十億に比ぶれば、殆んど比較にならず。第四位のイタリヤすらも將に百二十億で我が國の三倍に垂んとして居るを思ふ時其の甚だ少きを憾まざるを得ない。而も我が國の三十億は、年々幾万億の入超といふ不況に居る。今にして緊縮一番せずんば誠に國家永代の禍根である。顧るに我が國は四方海にして、西には接壤の大陸があり、南に東に顧客を以て圍繞せらるゝといふ自然的に貿易の好位置に坐する。内に品質優良にして價格低廉なる物産の豐出に努力し、外に販路の信望と擴張に勉めたものならば、我が國貿易の將來は蓋し洋々たるものがある。

爰に工業者の奮起と貿易商人の大發展を要する。而して兩者は毛髮相容れざる提携の要あるを忘れてはならぬ。即ち商人は、價格低廉なる原料の提供者であり、各地需品目の指示者であり、而して正直にして機敏なる製品の配給者であらねばならず、工業者は、品質の優良と價格の低廉とを以つて、商人の配給に都合よき物品の

豊産者でなくてはならぬのである。



由來、我が國貿易の不振は、其の一因を貿易商人の商業道德の欠除に置かれてある。或は延いて工業者もその責任の一部を負はねばなるまい。

要するに我が國貿易發展の企圖は、眞に重要な國策であり、眞剣なる國民の自覺奮闘でなければならぬ。而も其の發展を遂げる爲には、内に國民の緊張と外に原料地の開拓と販路の擴充の爲めに、大いに國民の海外發展の要がある。吾人は彼等兒童が此の重大なる問題に向つて眞實の眼を見開くべく、最善の方途を辿らねばならぬ。

我が國交通の發達

國內の交通は姑く措き、海外の交通に就いて見るに世界の軍事經濟の中心たらんとする太平洋の西北部に位置する我が國は、世界の三十餘箇國と條約を結びイギリス、フランス、イタリア、アメリカ合衆國を始め、主なる國には大使館を置き、其の他の國には大抵公使館を置いて、汽船は互に往來し、通信は迅速に交換せられ、交通、貿易は年を追うて益々發達して行く。

即ち交通發達、造船業の進歩と共に汽船帆船の隻數も著しく増加し、汽船は總數約三千隻で、中には一萬噸以上のものも少くない。總噸數當に三百萬噸で其の大部分は外國航路の船が占めて居る。之を列強に比較すれば世界第一なる英國の四分の一に過ぎないけれども、佛蘭西と共に第三位に居り、世界有數の海運國として知られるやうになつた。

又、外國航路の發達に隨つて、諸外國との郵便は益々便利となり、海底電線に依つて世界の各地と連絡して居るので、實に千里比隣、海外幾千里は遠きに似て實は其の日に意志の交換を爲し得る近隣となつた。而も亦無線電信も漸く發達して諸外國との通信を得る外、航海中の船との通信をもなし得るのである。

かかる状態を兒童に納得せしめるのである。凡て交通機關、通信機關、運輸機關を、各系統立て、互に聯關、づけ、産業、軍事、政治、遊覽等の事實と照映して具體的ならしめ、最も綜合的、有機的の取扱によつて、「世界の距離は短縮され」「活動の舞台は擴げられ」志の發する所、或は「貿易」に或は「海外雄飛」に、機關は具はり、連絡は出來て、問題は唯活動の如何にあることを、十分に心行くまでわからせねばならぬ。然らば彼等は躍然として未來の抱負に燃ゆることであらう。

以上略述したるが如き方途に依つて本邦地理が取扱はれる時、眞實に彼等は「我が國日本」を識ることであらう。同時に國民的自覺が起ることであらう。そして、海外發展の緊要を痛感することであらう。實に爰に、經濟の海外的重視の思想、海外雄飛の氣象、殖民移民の思想が啓培されるものと信するのである。

第二、外國地理學習の徹底

外國地理學習の目的は

- イ、世界的識見の養成
- ロ、本邦國勢の外的理解と世界的地位の自覺
- ハ、着實眞正なる愛國必の養成

地理教育が此の目的を果すことによつて、吾人の希ふ海外思想は同時に兒童の上に養はれるのである。

より強く海外思想を養はんが爲に、吾人は外國地理教育の方法的着眼を、左の如く見詰めて、教師の明敏なる見識と努力を是に傾注したいと思ふのである。

- 1、自然的人文的方面の學習
- 2、各國特徴の理解了得
- 3、各國特徴の理解了得

其の國人が如何なる國民性を有するか、風土的特質は如何、産業は如何なる方面に特長を有するか、又其の理由は何所にあるか、貿易状態は如何に、軍事は、政治は等、あらゆる方面より其の特質と、之が依つて生じたる所以を兒童と共に探究して、其の得たる所に價値を認めて行き度いのである。

諸列強國の學習は、比較的精密に行はれねばならぬ。最も取扱上注意すべき點は、第一「其の國に現はれたる文化材」である。即ち政治の姿、水陸交通の状況より其の貿易活動、延いて殖民的活動の現狀を明かにし、進んで、其の國民の學術的、宗教的の現はれまで、一國の文化及びその程度を味はしめねばならぬ。而して第二に忘るべから

ざるは其の國民性である。

國民性は文化特徴の根源である。其の政治、其の學術、その宗教、さては一切の活動は實に凡て國民性の發動と言はねばならぬ。即ち其の國民性に或種の特色を有するが故に、遂に一國の富強を輸したのである。實に大國建設の素因を此の如く眺めて行く所に地理的理解と妙味が伴ふのではなからうか。

次に是等と共に見通してならぬのは人口と國土の面積である。彼の英佛の如きが、本國の人口面積共に我に及ばざること遠くして、外に廣大なる領土を有してよく今日の隆昌を致せる源は、或は歴史的に沿革に逆つて、比較對照、其の理の了解に努めしめねばならぬ。斯く、彼此相比較して「本源的」に眺める行き方は地理取扱上忘れてはならぬと信するのである。

本邦と密接なる關係ある諸國の重視

數多い世界の國々は殆んど一として我が國と無關係なる國とてはあるまい。固より國際的關係は固定的なるものに非ず、年々歳歳多少の推移はあるにしても、諸國自ら關係に親祖あるはいふまでもない。

或は政治的に、或は軍事的に、或は經濟的に、或は殖民的に、或は文化的に、位置、國力其の他の事情によつて、本邦と密接なる關係にある國は、我が國勢の伸張と共に今日は殆んど世界の全面に亘つて居る。

夫等の國々につき學習する場合、本邦と其の國との關係の實情、其の關係の生じたる理由及び今後之に處する途について、要領適確に知らしめねばならぬ。

而も亦、政治的、軍事的關係國に就いては、其の國勢の一般を了得せしめ、殖民的關係國に於ては其の氣候風土、地方、特産及び邦人他國人の活動狀況等、其の地の特色一般の了解に努力すべきは言ふまでもない。

既に第一篇に詳述したるが如く、今や我が同胞の活動地は地球全面に及び、可なりの地域を占めつゝあるけれども、大々的の進展は今後に殘されたる大問題である。

今後大いに伸びんが爲には先づ現在をよく窺はねばならぬ。教室に於て世界の地理を一步々々兒童と共に辿り行く間には、即ち我が同胞の汗みごろになつて活動しつゝあるものに度々相會する。此の機を逸すべからず、足を止めて其の實狀を見、過去を語り、將來を談せねばならぬ。

即ち何を目當てに働いて居るか、其の結果は何うであるか、我が移民の「特長」は何處にあるか、又「缺點」は何か……合衆國や加奈陀、布哇や濠洲、特に南部アフリカ等に於ては其の欠点と並べて悲痛なる排日の話の真相にも及ばねばならぬ。又他國移民と比べて我が移民の得失、過去の歴史と將來への覺悟等、其の土地、其の場に於て考證的、研究的に話を進めねばならぬ。其の間には

各國殖民政策

の概要も窺はれ、一方には亦

殖民的氣象

も鼓舞されて行かねばならぬ。而も大いに注意すべきは

女子に對する海外發展の氣象作興

の問題である。

南洋を除いては、女の發展は遠く／＼男子に及ばない。これは或は當然の事實かも知れないが、「女を伴はない」海外發展が、多く失敗に終り力ないものである事は、我が祖先及び世界の歴史がヨリ明かに證明をして居る。未來ある發展は「夫婦共稼」「家庭を擧げて」の雄飛であらねばならぬ。南洋に於ける我が祖先、米大陸に於ける英、西の歴史に省みつゝ大いに女子の發展的氣象の作興に努むる所がなくてはならぬ。

尙、機會を促へて海外生活の趣味談、海外成功者の事實談等を試みることは、決して徒勞でないと思ふ。かくて

將來有望なる發展地

を兒童の前に展開して、其の風土、其の地方、其の民情、一般の状況等を前篇に掲げたる土地々々に就いて十分に識らしめねばならぬ。

以上の如く取扱ふ場合、本邦との交通關係(所要の日子、旅費まで)渡航の手續、我が國及先方國の投助等すべて事實を本として一切の懸念を取除く所に十分の注意を拂はねばならぬ。

6、國家の盛衰興亡と其の國民性乃至民族性

國家の盛衰興亡に於ける其の國民性は、全く本末、原因結果の關係なることいふまでもなく、國民の特質優秀なれば其の國は興り、低劣なれば其の國は亡びる。古今東西の歴史は最も鮮明に之を物語つてゐる。

兒童等は教師に率ゐられて世界の各地を巡る間に國々の變る姿に一方ならぬ興味を感ずることであらう。而して感ずる姿其のものは、其の國民性が作つた文化、寧ろ國民の姿其のものに外ならぬのである。流し傳へた其の國の沿革も、展開された現代の文化も、未來を照す皎々たる光も、皆是れ國民性乃至は民族性の象徴にして外ではない。是をシンミリと味はせるのである。例へば

英國 に至つては、其の産業、其の貿易、さては咲匂ふ文化の影に、彼等英國人の自尊心、發展の氣象、自由心と言つたやうな國民性を見出して行き、

西班牙、の專政的、利己的民性は一時手廣く植付けた植民も根抵から枯れ果たして、國勢亦振はない結果をまじめに看るならば、そこには幾多の暗示と無量の教訓を見出すことであらう。

これよりして我が國民性が親しく顧られねばならぬ。「奉公の爲には一身を顧みない犠牲の精神」共同以て事に當る團結心、潔白にして情に篤い美はしき心情といふが如き我が卓絶無比の國民性は、奮闘爰に三千年の聖史を作つて居る。實に／＼辛なる哉である。でも此の欣幸の裏に冷かに復るときは又、不幸にして民性の缺陷を鮮かに氣付くことが出来る。それは

「興り易く冷や易い性質」

「家郷戀しく發展し悪い性質」

等である。彼等白人が一度思ひ立つては代を重ねても完成せんとする永續不拔の性、有望なる發展地を見付けては笑つて郷關を出で、復歸らない勇飛の氣象に比べて、甚だ及ばないこと遠きを感ずるのである。

かゝる優劣の性的傾向を、彼等と常に比較して、我が國民の執るべき途を悟らせ、而も發展的意氣を鼓舞して行かねばならぬ。

世界平和、國際聯盟の名は如何に高くとも、國家的競争は早や段を超えて、世は民族の軋轢に化し、而も有色人種は白人種の爲めに追はれ無視され壓迫されつゝあるのではないか。十億の有色人頼むに足らずとするも、我が日本民族のみは嶄然樹つて彼等に對せねばならぬ。そして眞に世界を人道の光に導かねばならぬ。そこには彼等の國民性乃至は民族性に徹底し、我が卓拔なる日本民族性の遺憾なき發揮を要するのである。

7、大局より眺めたる世界の趨勢、國際關係の理解

個々の地につき、各々の國を細やかに眺めて、そこに地理的價值を見出して行く行き方は、子供には無論必要に違ひないが、一に又世界を大局より見て、其の趨勢を知り、國際的關係を理解せしめて行くことは、國民としての世界的識見を涵養する上に大いに必要なることである。故に教師は常に時事問題には注意を拂つて生きたる問題を捕へ、統一せる見方によつて子供の智識を廣く鮮明に導くことに努力せねばならぬ。

第二、地理學習の諸要件

1、直觀地理

一般認識が直接經驗を基礎とする如く、地理科に於ても、地理の直觀に求めねばならぬ。かくて得た直觀は、

認識の根柢ともなるべき地理的基礎概念となつて永久に精神界に止まつて、思想なり感情なりを支配するに至るものである。此の点から考へて地理學習の第一は直観でなければならぬ。

直観地理の重要な範圍を占めて居るものは郷土地理である。郷土が深い印象を吾人に與へて、深く認識の根柢を培養する。この思想感情が根強い潜在意識となつて永く吾人の精神界を支配して行くものである。

されど、如何にせん郷土は狭小である。これが爲めに實地見學の機會を多く捕へ、飽くまで實物實地に就きて直観せしめなければならぬ。茲に遠足旅行の必要が存するのである。

然るに直観も其の方法に留意しなければ、其の効果は甚だ少いものである。即ち直観は「深致」なるを要する。在來の直観といへば唯直観物の表面のみを觀察し、皮相に止まる嫌があつたが、眞の直観は實物實地に就いて深く推究、其の原因にまで亘り所謂、天意人意の存する所を明瞭にして、地理的觀念を極めて正確明瞭なるものとしなければならぬ。斯くて始めて地理といふ學科に興味が生じて來るのである。

而して此の直観といふ心理は地理教育の全面に漲らねばならぬ。遠足や旅行も未だ甚だ範圍が狭小で、地理學習の要求する廣範圍に亘ることは小學校などでは得て望まれないことである。ここに於て

すべて取扱が、可及的直観的なるを要する。即ち、地圖模型により繪畫、地圖により、其の地産の諸實物により、然も説話を直観的にして學ぶものをして躬其の境にあるが如き感あらしめねばならぬ。特に外國地理に於ては、一物なりとも其の地より求めた實物に頼ることを努めて、學習の機縁を是に接ぐことが必要ではなからうか

2、想像地理

直観には範圍の制限がある以上、未だ見聞して居ない土地を、恰かも實地踏査したかの如く想像して行く所に想像地理の價値が存する、之は地理教授の上に多く行はれざるを得ない所である。故にその効果をして十分ならしむべく努めねばならぬ。是が爲めには

イ、舊經驗が明確であること

ロ、寫眞、繪畫、記録、談話等の直観方便物が明瞭であること

が必要で、想像は是の状態に比例することを忘れてはならぬ。

3、類推地理

類比、推理の法則に従つて、既知の地理的事實又は地理的理法を基礎として、地圖なり寫眞なり、繪畫なり、談話なり、記録なりに依つて現はれた未知未踏の地理的事實に比較し對照して、其の間に存する類似点を考察して、該地方の地理は此くあるべしと判斷して行くのが所謂類推地理である。想像地理に似て之は而も能動的で推理的で又積極的の重要な學習限據である。

地理類推の原據は、

地圖、寫眞、繪畫、記録、談話等であるが、就中地圖は最も重要な位置を占めて居る。極論すれば、精密なる地圖さへ眺むれば、「自然と人文」との相互關係は自ら明瞭となり類化され、其の間に存する地理的理法も自然と推測されるのである。

要するに郷土若くは兒童經驗以外の地理は多く之に頼らねばならぬ。即ち地圖を原據として該地の地理的事項は此くあるべしと類推し、其の上寫眞や繪畫を、重用して具体化し、記事と對照して其の内容を吟味し、實物又は統計に依つて其の内容を正確にし、一層其の實情を明にして、地理的理法を闡明ならしめねばならぬ。

4、地理學習に親ましめること

「世界の地理に親ましめる」ことは、兒童の海外思想培養上最大なる力であると信ずる。而して親ましめるには情味ある取扱

が必要である。そのためには兒童向きの海外談を交へて、社會味、人情味を味はせる。時に少年の血の湧く發展的の話、希望に輝く邦人の成功談をしてやるのである。

固くなつてはならぬ。情味の中に地理を流して行く用意は尋常科に於て特に必要なる心掛けであるとして其所に「思想が其の國、其の土地に生活する」といふ貴重な、眞の地理學習が出来て行くと思ふのである。

- 地圖練習……描くこと、讀むこと
- 實物幻燈、活動寫眞……ここに充分進まねばならぬ。
- 實物標本……之を蒐集して活用
- 統計圖表(グラフ)

(教師も示し、児童も作り、比較し考察させる。之による學習は、最も知識を詳活にし、感銘を得しめるに極めて有力)

地圖に親しませる取扱

地理の學習に地圖の重要は謂ふ程愚である。特に児童を海外的ならしめるには、左の如き地圖を甘く利用して、地理眼を高めしめ、世界の地理的事情が一眼に見納められ、距離は近く、舞台は普く「異郷即故郷」の感に至らしめることが必要である。

- イ、國勢圖……各國領土の明かなるもの
- ロ、分布圖……人口密度、人種、産物等の分布
- ハ、交通圖……主として航路、所要時間
- ニ、海流圖……氣温關係、漁類まで
- ホ、氣象圖……等温線、風向雨量
- ヘ、發展圖……我が國人の在外分布の模様
- ……我が國貿易状況の一覽に適するもの

第四章 他教科教育の徹底

「思想」は其の性質上、一定の限られたる範圍に依つて構成されて行くべき筈のものではない。「海外思想」も亦如何に地理科が海外を取扱ふ教科なればとて、之のみに依つて思想の普及を圖らんとするが如きは、甚だ偏狹にして不徹底の誘りを免れない。故に學校に於ける教育の企圖は凡て教育的目的を「各教科全一」的生活作用の中に見出して行かねばならぬ。即ちあらゆる教科は其の機會によつて行ふ教師の取扱によつては、児童を海外的に目覺める機縁と力を與ふるものたるはいふまでもない。而して他教科中最なるものは「國語科」「修身科」「國史科」「唱歌科」ではあるまいか。

第一、國語科

國語科の讀本には、海外的理解を進め、發展的氣象を鼓舞するに足る教材が數多織込まれて居る。教師の用意其の宜しきを得れば、必ずや効果は期待に背かないと信ずる。今左に掲げて見るならば

- 尋 一 ……モモタラウ
- 尋 二 ……うらしま太郎
- 尋 三 ……海
- 卷六 ……神風
- 全 ……四

卷七……………世界

全……………大阪

全……………大連だより

全……………航海の話

卷八……………揚子江

全……………アメリカだより

全……………コロンブスの卵

全……………廣瀬中佐

尋 五

卷九……………トラツク島便り

全……………ナイヤガラ瀧

全……………兩將軍の握手

卷十……………アレクサンドル大王と醫師フィリップ

全……………燈臺守の娘

全……………パナマ運河

全……………輸出入

全……………文天祥

尋 六

卷十一……………孔子

全……………上海

全……………ゴム

全……………フカ

全……………我は海の子

全……………リンカーンの苦學

全……………南米より(父の通信)

全……………孔明

全……………ウエリントンと少年

卷十二……………チャールズ、ダーウィン

全……………商業

全……………ヨーロッパの旅

全……………ペートルベン

全……………國旗

全……………リヤ王物語

全……………間宮林蔵

全……………釋迦

全……………トマス、エヂソン

全……………港入

全……………我が國民の長所と短所

ざつと拾ひあげて實に四十課の多きに達して居る。而も其の特質を眺むる時、所謂地理的のもの、歴史的のもの、物産を語るもの、國民性を語るもの、或は又人情を表はすもの、文化を現はすもの、然も亦發展的に言ふならば實

易に關するもの、移民に關するもの、さては戦争に關するものまで、吾人が所謂、「海外思想」の内容として需め、培はんとして求むる諸要素を網羅して居る。而して尋常小學校の分のみで既に此の如しである。教師の周致なる着眼と方法に依つては啓發する所必ずや偉大であらう、

第二、修身科

「朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟シ以テ其ノ福利ヲ共ニス朕ハ爰ニ益々國交ヲ修メ友義ヲ悖シ列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ頼ラムコトヲ期ス」是は戊申詔書冒頭の一節である。

大正十二年十一月十日の國民精神作興に關する詔書には末節に「出テハ一己ノ利害ニ偏セスシテカヲ公益世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ」と仰せられてある。

兩詔に、世界相携へて立ち人類永遠の幸福を見出さうといふ御聖旨や、國家民族の榮耀と社會の慶福を思召す大御心が窺はれて畏い極みである。

國民たるもの恐懼躬を以て御聖旨に副ひ奉るべく滿身の努力を捧げねばならぬ。而して是に對し奉るの道は、廣く海外に目醒めて、我が無比の國家を世界に見出し、國民將た族族的一切の努力を此の根源に發するにあると信ずる。

蓋し修身科が此の大理想、而も目前に横たはる大目的に向つて畫策する所あるべきはいふまでもない。

兒童は數多取入れられたる人物例話によつて、又我々の國家若しくは社會、人情風俗等の比較對照に依つて、國情を識り社會相を辨へ、人情に接し國民性を覺ることは多大である。又さうなければならぬ。ここに於て願ふに、我が國には最も唾棄すべき國民的の「偏狹」が存する。即ち我が國の長所美点を外國を比べて外國の一切を下げしむとか、外人の風俗習慣の變れるを見て之を嘲笑し、

鹿兒島の所謂「他所人」の論法で一も二もなく之を卑下するといふ一種の傳統的の缺陷がある而も國力我れに劣れる國人に對しては殊に著しい。近來漸く薄らぎつつあるとはいふものゝ其の傾向は大したものである。

此の大缺陷は、我が國の品位を下げ、國體を害し、排日を生み、特に我が植民的發展に於ては其の支障害毒實に量り知られぬものがある。

外人といへども、逆も國人の追従し能はざる長所があり、國人といへども逆も蔽ふべからざる弱点を有することは、言はずして明かなことである。爰に吾人の

- 品位を高め
- 標度を養ふ

所がなければ、國家永遠の大禍は此處に生ずると信するのである。之でどうして聖旨に副ひ、國家の理想を追ふことが出來やう。蓋し

修身科の任務は偉大である。かゝる見地よりして修身教育上心掛くべき点は

- イ、帝國の優秀を覺ると共に他國の長所を尊重する
- ロ、他國人の長所に學ぶ
- 特に植民發展の意味に於て
- ハ、海外的意氣を鼓舞する
- 尙、教育の實際に於て
- イ、外人に接する態度の訓練
- ロ、時事問題を捕へて實際的指導
- ハ、内國及外國の發展的偉人を今少し取入れる

ニ、忠孝の眞義に徹底した取扱

所謂忠孝の眞義

祖先墳墓の地に在つて、孝養を盡すとか國難に殉ずるとかは誠に立派なる忠孝であつて實に我が國は是れあるに依つて三千年の聖史を飾り得たのである。然るに今日は尙其の上に一の問題がある。即ち

「食へるか食へぬか」

といふ大問題がある。日本は日本のみにては今日は食へても明日は食へないのである。然らば爰に「完全なる衣食住の料を十分に我が同胞に與ふる事に努力する者」があつたら、是れこそ亦眞の孝子であり忠臣ではあるまいか。

吾人は忠孝の眞義を此く見て行きたい。そして吾人は兒童をして斯かる忠孝の体现者たらしめんが爲めに、修身教育上大いに努力する所がなければならぬと信するのである。そしてその食へる爲めの「糧」は海外に在ると教へてやらねばならぬ。

第二、國史科

國史は我が民族性の記録である。此の記録を抜きにしては將來の伸展は期せられぬのみか、民族性の姿を識ることさへ出来まい

我が祖先は建國の始め既に海外に目醒め、發展的であつたことは歴史の傳ふる所で、爾來、時代と共に幾多の發展的史實を並べて居ることはよく人の知る所である。時代は遷つて彼の戰國時代から徳川の初期にかけては、所謂「海外發展」の全盛時代で、倭寇や御朱印船が、殆んど東洋(特に南洋南亞)全面に亘つて邦人を散布したそれが鎖國の一令に鎖されて全く世界の闇黒裡に眠ること二百年、過去の發展的事蹟、跡もなく消れ失せた時

分、浦賀の米艦に迷夢は醒まされたのであつた。

爰に我が發展的の氣勢は再び甦つた。甚だ後れたりとは雖、明治聖帝の大方針の下に日本民族の海外的活動は始まつたのである。

以來、星霜爰に五十年、其の五十年間には、内齊つて領土は擴がり、海外に六十萬の人口さへ送つて貿易額三十億を算し、國威は輝いて世界の五大強國に列するといふ盛事を現出した。

兒童をして、かゝる我が國々史の跡に深く省みしめて祖先の偉業を冷代に繼承し、發展せしむるの重任を懇ろに悟らしめることは、國史の任にあらずして、何であらう。

是等に就いては批判的或は孝証的に、前篇に稍々詳述したる所であるから再記の煩を避けることにする。

第四、唱歌科

歌ふことに依つて、子供の心情を陶冶する力の強いことは今更いふまでもない。

左の如き種類を選んで歌謡せしめることが必要である。

イ、國民的自覺を興すに足るもの

ロ、海外を理解するに足るもの

ハ、發展的の氣分をそゝるもの

ニ、外人の名作

第五章 機會の善導

或意味に於て「教育は機會である」ともいへる。故に、機會を見出すこと、機會を作ること、機會を利用する

ことの三つは教育上極めて必要なことで、爰には周到緻密なる用意がなければならぬ。今、教科を離れた、而も海外思想を養ふに足る機会とも見るべき重要な諸項について略述することにする。

第一、十一二三歳

思想の普及や善導の上に幼年期の大切なるは既に述べたる所で、尋常一二學年の頃から、桃太郎や浦島太郎の話で子供の心を大きく廣く、生々したもにして置かねばならぬ。それから學年を追うて、種々の方面から色々の材料で、漸次強味のある、深みのあるものに培つて行くのは自然の道行きである。

然るに尋常五六學年、高等一學年、年齢でいへば十二三歳の時分は、所謂

「發心」

の時機として最も注意を要する大切な時機とせられて居る。

三四學年の頃まで、極めて自然性に強く律動的で、而も暗示性に富み模倣的で、父母教師等長者の行爲を見て己の行動を律するといふやうに、一切が多く他律的で幼稚であつた兒童は、五六年生にもなれば心身漸く發達して情意の働きも旺盛に進み、而もこれまで影を潜めて居た理性の働きへ頭を擡げて、自覺といつたやうな芽萌れをも認めらるに至り、正しく識り正しく感ずる力が出來て來る。

此の時分強く彼等の心内に侵入して來た或るものは、強く彼の感銘を呼んで、彼の一生を貫く強い力の緒、即ち發心をなすのである。簡明に言ふならば、心的内容の漸く整ひかけた十二三歳の時分受けた感激によつて發心し、奮闘の圏内に一步を踏入れるのである。之は古今東西に亘つて皆さうで、今日偉人と仰がれる多くの人は何れも大かた十二三歳、多くて十五六までの間に發心をして居る。而も其の機縁は極めて意外なる所にあることもあるが、概して微妙に其の心情を動かしたものである点に變りはない。想ふに是は單に偉人のみに限ることではあるまい。其の程度に差こそあれ、人多くそれではなからうか。果して然りとすれば、尋常五六年

及び高等一學年頃の教育は餘程意を用ひねばならぬ。此の時機を誤つときは浮ぶ船が浮ばないことになる。

斯かる意味合から小學校の上學年教育に於ては、「海外思想を普及」せしむる上からも亦重要視して其の取扱に徹底しなくてはならぬ。それかあらぬか教科課程も亦上學年に最も厚く低學年に極めて軽い。凡て教科教材を運用して海外思想の普及徹底に努むると共に、科外に於ても亦かゝる心理傾向にある五六學年といふ機会に於て、大いに之が培養の途を企圖せねばならぬ。

第二、講演

「海外講演」是が思想普及の爲め効果甚大なることは、餘りに明白であるから多くを言はない。

課外に、海外事情に情通した人や、移民状況を視察した人又は、洋行歸りの人に依頼して、左記の如き問題に就いての講演を聴かせる。

イ、海外事情

ロ、移民（植民）状況

ハ、日本人にして海外成功者

ニ、國際問題

ホ、經濟事情（交通、貿易、産業）

聽講兒童は主として五六年以上、話内容によつては三四學年まで。但、講演ではない。伽嘶の會など催して發展的な、氣持の大きくなるやうな話をしてやることは、一二學年に對して有益なことある。

第三、活動寫眞

海外事情、移民状況、海外奮闘者、遠洋航海、等の活動寫眞を見學せしめることは最も地理學習上必要な地理

の直観化で、児童の心情に影響すること多大である。学校の設備が進んで地理上の要所々々を活動寫真によつて児童の前に展開せらるゝの時は何時であらう。せめて機会を需めて児童の眼を樂しませしめつゝ海外に向ふ心根を養つて行かねばならぬ。

第四、展 覽 會

博覽會ならば尙よい。共進會、展覽會等の機會を利用して、或は内外の貿易狀況を、或は領土、富力の一般を或は世界各國の特産物を、其の他軍事、教育、文化の特徴等を觀覽せしむることは、是亦絶好の企てである。知識を眞に明確ならしめ、心を眞に深からしめ、特に海外の事物を解し、眞の抱負に燃わしめるには是以上の企てはないのではあるまいか。しかし、かゝる大々的の施設は望んでも容易に得られることでない。故に與へられた好機は之を逸せざることに努め、學校は常に意を用ひて海外の特産を蒐集するとか、外國歸りの人の携へ來つた私有物等を借用陳列して子供に親しく見せてやるとかして、其の「知見」を海外的に廣めてやらねばならぬ。本縣に於て、是非かゝる目的の爲めに見學利用すべきは高農、博物館(圖書館附設)物産陳列所等あるのみである。

第五、揭 示

揭示場に或は地理室其の他適當な場所に、左の諸項の如きを日常よく捕へて揭示を行ひ、我が國勢、海外事情及海外關係等に親しましめることは、一時に多くを提供すると異なり、意識を明瞭にし、理解を進めて趣味を増す等、良い結果を齎らすことゝ信ずる。學校課外の教育として是非實行されて行かねばならぬ大切な問題である。

主なる揭示資料

- イ、毎月の我が國貿易額及年額
- ロ、海外移民に關する主なる消息
- ハ、我が國々勢を窺ふに足る事項
- ニ、海外の主なる出來事(特に列強に關するもの)
- ホ、政治、軍事、經濟上の諸事項
- ヘ、特に珍らしき直観物
- ト、各種(海外的)宣傳ビラ
- チ、全統計表

凡そ學校教育に於ては獨り揭示のみに限らず、教師不斷の心掛如何が強い力で児童に影響する。「教育は影響である」とも言へる。「思想普及」の上には亦一段此の影響を重視しなければならぬ。

第六、社會の氣 圈

児童は氣圈に順應する、氣圈から思想へ……か、思想から氣圈へ……か、兎角或る思想は或る氣圈の中に増長し、普及することは争はれない事實である。故に國家の施政とか社會的事實とか言つたやうな児童の生活圏内に、児童の時々感知するに足る現れがあるならば、何時とはなしに彼等児童の思想はそれに強く特色づけられて行くべき筈である。

此の意味よりして政府の施政、社會の狀態といふものが眞に海外重視の姿にあるといふ事は極めて必要である。國民が眞に海外に目醒めることが必要であるならば國家は國家事業として社會は社會事業として、大いに國民の自覺と奮起を促し延いて小國民の思想を爰に導く爲めに、或は植民的に或は企業的に促進的に畫策する所が

なくてはならぬ。

是が爲めには、地方も起たねばならない。財力団体も大いに組織されねばならない。實に國總動員の自覺と奮起を要する大問題であるのである。

政、府（外務省）は大正十六年度、移民保護獎勵費、海外經濟事情調査、領事館新設、商務職員増員等の事業を目論見、新規要求として百五十萬圓を計上して居る。

額固より過分ではないけれども、今や當局の斡旋と努力に依つて、各地移民の調査が進められ、南洋に南米に日本の村が建設され、各地に利權が獲得されつゝあることは、帝國の爲め、延いては世界民族の爲めに雀躍して尙餘りがある。

本縣にも「海外協會」なるものがあり管にブラシルに於ける「鹿兒島村」の現出を理想とするものでない許りが、本論文

「小學校兒童に對する海外思想普及の良策」

といふ國家死活の大問題を掲げて、廣く天下の識者に訴へ、道を求めて將來を啓かんとする愛と熱とに充つる有爲なる団体である。此の団体の健全なる發達こそは、少くとも本縣兒童の該思想普及のための最大なる力であると信するのである。

結 び

顧るに全篇悉く駄足、淺薄な卑見であつて、本問題の爲めに何等の開拓もなく貢獻もないことを自ら愧づるものである。

るに吾人が非才をも顧みず、敢へて本稿を草したる所以のものは、

「「海外思想の普及」是は大問題である。國家、民族の大問題である。少くとも兒童の教育者として立つ吾々の一通り自己の信念を固めて置かなければならぬ大問題である。哀心の所信を述べて識者の批正を仰ぐことが必要である。」

と思つたからである。愈々述べていよ／＼平凡、甚だ申譯がないけれども、吾人をして一通り斯かる重要問題に對する考へを纏むるの機會を作つて頂いた「鹿兒島縣海外協會」に對して感謝しつゝ、結びを急ぐ次第である。

吾人が二篇に亘つて述べ來つた所は、今左に結論として述べる所の大精神を目標とする道行きに外ならぬといこと諒解を先づ求めねばならぬ。

さて十八世紀末の政治改革により、「政治専制」の時代は終りを告げ、十九世紀の初頭に於て「資本専制の時代」を産み、所謂「産業主義」の出現を見ることゝなつたが、此の時代に發達した文化が即ち今日の西洋文化であつて、其の特色とする所は「物質的」であり「享樂的」である点である。而も此の産業専制の結果は資本の増加に伴ひ「帝國主義」を産み「軍國主義」を産み「植民政策」を産んだ。更に又世界政策を産み特に十九世紀後半に於ける歐洲列國の海外發展は、領土的に、經濟的に著大の伸展を見るに至り、世界の廣大なる陸地は殆んど彼等白人の分割占有に歸することになつた。

斯くて世界の土地分配は極めて不公平を示すに至り、列國の競争は益々激烈を極め、其の結局は遂に這回の世界大戰を爆發せしむることになつた。故にこの世界大戰は「物質文化必然の歸趨」であると同時に「黃金文化」没落の幕であつたのである。

茲に於てか、歐洲の諸國は此の大戰の結果陥つた經濟界の不振及び財政上の困難を恢復すべく、非常な苦心努力を成して居るのであるが、其の一面に於て、從來「白人」の壓迫に甘んじて居た「有色人種」覺醒の機運に到達したのである。

即ち土耳其に於ては、ケマル、バシヤの蹶起となり、埃及に於てはナイル河畔の一老農さへ「吾々は最早比の上
下大たるに堪わ得ない」と叫びしむるに到り、印度に於てはガンデーの奮起となつたが、又一面に於ては軍備制
限と太平洋の平和とを目的とした華府會議の開催を見ることになつた。

華府會議は確かに世界平和のために大いに祝福に値する。然し此の會議は不公平なる世界土地の公配をそのま
ゝにした立案なることを忘れてはならぬ。我が國の如く人口過多にして國土狭き現狀に於ては、更に進んで「平
等」なる土地の分配と、自由なる民族の發展に對する權利とを要求せずしては居られない。

海外を思惟すれば自然、人口問題に、民族問題に、或は又植民問題に甚だしく想及する。而も然うなければな
らぬと痛感するのである。

我が國は世界の土地分配上から言へば、家族を十分に養ふことも出来ないやうな一の「小地主」たるに過ぎな
い。故に日本が當然主張し得べき權利は、飽くまで之を主張し、公平なる土地の利權を握つて甫めて止まねばな
らぬ。

世界陸地の總面積は五千七百二十五万方哩で、其の上に約十七億三千五百万の人類が棲息して居る。而も歐羅
巴三百八十七万方哩の上生存せる四億六千萬の白人は、世界陸上の五分の二を其の植民地として占有し、且世界
人口の三分の一即ち五億六千萬の有色人種を支配して居る。不公平も亦極れりである。若し人類が平等に普く世
界の陸地に棲息するならば、一方哩の人口は僅かに三十人足らずに過ぎないから、人口問題は末だ悲觀するに及
ばないものを、世界土地分配の不公平な結果は世界の各所に「人口の過剰」に苦んで居る國と民族とがある。即
ち我が國の如き其の一例である。

過大地主は農業上不可なるのみならず、實に國際的にも甚だ不都合である。英國を筆頭に、過大地主は決して少
くない。而も彼等は實力以上に、而も亦必要以上に大面積の土地を所有して居る。其の結果は千里の沃野が不毛
のまゝ抛置せられて人類の利用になつて居ない。

彼等大地主の多くは、他人の所有地に對しては「門戸開放」「機會均等」を要求しながら、自己の所有地に對しては
「他人無用」の禁札を掲げ、所謂「鎖國主義」の手合も少くない。

斯くて人類全体の幸福を望むが如きは百年清河を俟つが如きものである。世界に於ける土地の分配を先づ公平
ならしむる時に於て、そこに初めて人類全体の福祉は増進せられ、永久の世界的平和は確立する順序のものであ
らう。

世界の平和を維持せんが爲めに、軍備制限の協約は成立した。同じく人類平和の根源たるべき土地の分配が同
協約によつて成立し得ない理由がどこにあらう。己の勝手のよい事ばかりを企劃することはかりが強國の任務で
はあるまい。

今や我が國は世界の五大強國となり寧ろ三大強國に列して世界の一等國になつた。そして世界何れの國と雖決
して企て及ばない國家的美点も存する。而も今にして自負心に増長するか、此のまゝに安住躊躇したならば、吾
人の子孫は實に遠からずして食へなくなるのである。食へないことに勝る大問題ありやである。

どうせまだ世は「勝テバ官軍、敗クレバ賊軍」である。日本が日本の發展を遂げ、理想を伸ばすには、先づ國
力の充實を圖らねばならぬ。即ち日本の現在に國を擧げて最善の努力をなし、國家民衆の向上發展を圖り實力に
充つる一國等たるを期すべき秋である。即ち今や吾々の祖先が、建國以來爲さんと欲して未だ爲し得ざりし所を
遂行すべく覺悟の時が來たのである。

我等は神代ながらの祖國を中心に、東西南北其の欲するがまゝに盛に發展すべきである。世界何れの所か日本
民族發展の地ならざるものあらんやである。

さて、かゝる意味内容の「海外思想」を見童に「普及」せしむべき「方策」に。と努めたが、而も當らざるこ
と遠きを懸念しつゝ、九月九日夜の九時筆を擱く。

(終り)

三等當選

肝屬郡 垂水尋常高等小學校

假屋豐吉

目 録

我が國の現状……………一三九

一、現在日本人の國民精神如何……………一三九

二、外國人の日本人壓迫……………一四〇

三、産業上の危機……………一四一

四、國土と人口……………一四二

五、貿易状態と財政的危機……………一四三

六、海外發展の要求……………一四四

海外發展の影響……………一四四

一、海外發展の社會的利益……………一四二

1、無職者の調節……………一四二

2、國民思想と人口増加率……………一四三

3、海外發展と國民体格の向上……………一四三

4、其の他の社會影響……………一四三

二、海外發展の經濟的利益……………一四三

1、移民と貿易の關係……………一四三

2、在外者と農工業……………一四三

3、海外發展と海運業……………一四三

4、農村問題の解決……………一四三

三、海外發展の精神的影響……………一四四

- 1、大國民性の修養
- 2、人種的綜合の自覺
- 3、眞實なる愛國心
- 4、獨立心の養成
- 5、剛健質實の氣象

日本人活躍の地は何處……………一四六

一、滿州附内蒙古……………一四六

- 1、雄飛すべき滿蒙の新天地
- 2、日本人と其の事業
- 3、滿蒙の特産

二、滿州と我が移民狀態……………一四八

- 1、特に資本家の奮起を促ねばならぬ理由
- 2、政治外交方面に於ける日本との關係

三、印度支那地方……………一四八

四、ブラジル地方……………一四九

- 1、春秋に富むブラジル
- 2、將來移民國としてのブラジル
- 3、其の他の点

海外發展者として必要なる日本人の修養……………一四九

(附)何が故に排日が起るか……………一四九

- 1、人種的感情上から
- 2、民族の生活様式の異なる点から
- 3、日本人根情から

一、精神的方面の訓練……………一五〇

- 1、永住の決心
- 2、民族的自負心の修養
- 3、共力一致の訓練
- 4、公共事業に就いて
- 5、禮讓
- 6、子女教育の必要
- 7、信仰の必要
- 8、世界の日本人として

二、公民的訓練の必要……………一五一

- 1、バーデーの言葉
- 2、海外禮式
- 3、外國語の必要
- 4、婦人訓練の必要
- 5、家政及經濟智識の必要
- 6、交際に就いて

7、通信に就いて
8、衛生方面に就いて

三、其他日本人として修養すべき事項……………一五五

1、計畫的の訓練

2、祖國との聯絡の必要

小學校教師は如何なる考へで教壇に立つべきか……………一五五
海外思想普及に對する學校教育……………一五六

1、教科と教師

2、各科の取扱法

修身科
國語科
地理科
音樂科
國史科
算學科
體操科

我が國の現状

一、現在日本人の國民精神如何

大戰後世界各國舉つて經濟上の恢復に努め國民經濟の根本を極め之が永遠の計を樹てんとして居る彼の軍備縮少協定の如きも畢竟戰後の經濟難を救済して國民經濟の道を講せんとするに外ならない。

幸に華府會議は參加諸國の誠意に依り海軍制限協約及四國協商となり人類の福祉増進の基礎漸く確立したりと言へども國際的經濟戰は益々激烈を極め平和戰に於ける世界の覇者たらんとしてゐる。この秋に當り漫然事態を輕視して安逸を貪り、心氣を弛緩せしめ、徒に事物の推移に委せて萎縮退嬰するが如き決して大和民族のなすべきところでない。即ち經濟的消長は直に國運の盛衰に影響することを忘れてはならない。

此の經濟戰に服すべき豊富なる準備と最善の努力を要する事大である。之がためには宜しく上下を擧げて覺醒し専ら經濟的振興を策して奮然之が實行に趨ひ華を去り實を求めて勇往邁進の覺悟を要する。由來我が國民は舉國一致の美風を戰爭の時に發揚する事以外は殆ど協力一致して奉仕するの必要を忘れたるの感がある。

我が國は維新より日清戰役迄は國民進取と言ふ事を國民精神として文化を進めて來たのである。然るに彼の三國干渉に於ける國民の屈辱は更に伸張し「臥薪嘗膽」なる語を老若男女の區別なく唱へ之れが國民的標語ともなつたのである然るに其の屈辱を復讐し得るや國民精神は萎縮弛緩も何等國民の向ふべき目標がなくなつた。殊に世界大戰に於て二十億の正貨を加へるに及んで朝夜滔々恰も望月の缺ぐるを知らざるが如き状態であつた。斯くして日夜國民精神を失ひつゝある間に財貨は失はれ國債は加らんとしてゐる秋に當り一朝にして百年拮据の都を廢墟に歸せしめ百億の富みを逸散せしめたる震災の打撃に對して我が國民は果して之

を償ふだけの緊張味あるや否や。

一四〇

二、外國人の日本人壓迫

近時幾多の理不盡なる外國の壓迫は災後の日本を憤激せしめんとしつゝある現状を見るならば一日も、安閑として暮すことは出来ないであらう。北米合衆國は大正十三年七月一日を以て國際間の正義人道に背反して排日案を作製し之の法律を實施した。當時我が國民は上下擧つてその不法を責めた。政黨政派を超越して反省の決議をなした。

然るに米國は恬として顧みないのである。獨り米國のみならず最近の國際労働大會或は加奈陀濠洲の代表者は會議の席上に於て排日法律制定を言ふ様になつた。又同盟を結んで親善なりし英國でさへ新嘉坡に軍港を建設し日本を假裝敵國として居るではないか。

三、産業上の危機

内地の現状を見るに憂慮すべき問題が多々存在して居る。

1、資源の涸渇と其の供給 2、農村の疲弊と其の救済 3、人口過剰と對策 4、一般産業の改良

中でも2と3の二大問題は朝野識者の間に論議されつゝある大問題だ。今にして方針を誤らんか國勢の發展に一大暗影を投ずることゝなるのである。

大戰の結果未曾有の發達を遂げたのは商工業方面のみであつた。國民の多くは商工界に身を立ててすんば成功し得ずとの考へを有するに至り農村の青年は踵を接して都會に集中した。祖先傳來の農地は荒廢するに至り容易なる金儲の情報は小作人地主の争を生せしめ小作人の怠惰を助長するに至つた。

尙大工業の發達は資本主義經濟の發達と共に都會と田舎の懸隔著しく分離するに至れり。然るに一方都會集中は各種の社會問題を惹起し各種の争ひを生ずるに至れり中にも労働過重の問題は最も苦しむところにして之れが生活難就職難の聲をきくに至つた原因である。

四、國土と人口

大正十五年六月統計局發表に依れば内地面積二十一萬七千二百平方里（湖沼、河川ヲ除ク）住する人口五九二七六八二二人一平方里一四一七人世界屈指の人口密度を有し而も其の増加率年七五萬に及ぶ之を以て推移せんか、遂に食料の不足を來して共存共榮の實を擧げること出来ぬ。此の過剰なる人口を他國に移植すること亦重要な政策である。

五、貿易状態と財政的危機

我が國の貿易は維新以來入超實に三十九年の多きに達して居る。之れ天與の物質が乏しき原因はもとよりだが最近七年間に三十一億八千万圓の金が外國へ行つて居るといふ。尙現在では十五億七千万圓に減じて居ると云ふ斯くの如く我が國の貿易が入超に次ぐに入超を以てしたら我が國は財政的に亡びる外にないのである。

ここに國民の自覺を促し産業の振興を計らねばならぬのである。

六、海外發展の要求

明治の國民的事業は世の文明國に劣らざる國となすことを唯一の目的として來た乃ち内的建設時代であつて外的雄飛は顧みる暇がなかつた。昭和の今日民族の外的膨張海外發展の大いに必要なる時期に際會したりと

言はざるを得ないのである。之れ職にあるもの如何にせば國民を海外に誘導し得るかを考へ企畫すべきの日である之れ實に大和民族にあたへられたる天の使命でなければならぬ。

海外發展の影響

一、海外發展の社會的利益

1、無職者の調節

小林丑三郎博士の調査に依れば我が國の農民間には約五十萬人の労働者が過剰してゐると又長野縣上伊那郡農會の調査に依ると同郡の農夫を以てすれば八十日に農業は終了すると云ふ即ち六分の五の勞力過剰を見るのである。

之れ商工業方面に於いても今文明の組織を輸入すれば一商店一工場と雖も恐らく一割位を減ずるは易しと信ず。斯かる時内地に於て多くの過剰を來すや論なし之れ農家も同じ北海、樺太に容る餘地ありといへども塞くてやせたる所に資本を投じて何程の結果やあらむ。只一途の望は國民を海外に指導するに在り。

2、國民思想と人口増加率

由來日本は農本の國として健實な道を踏んできた將來も續けねばならぬ。然るに人口過剰、生活難、就職難の状態にある内地、不平、不満が起る之れ延いては國民の思想に動搖を來たさんとは限らない。之を未然に防ぐ方法ありや

職なき者には職をあたへよ、耕地なきものには耕地をあたへよ、日本になれば海外に求めよ。

3、海外發展と國民体格の向上。

近時の壯丁検査は切りに國民体格の下向を憂へて各種の報告を呈するに至れり。中學校小學校に於いても皆斯く如し。之れ大いに体育を盛にすべし最もなり。然るにまた適當の時期に於て移植せられざりし苗圃の苗を見るに彼等の身長は伸びたるも骨も肉も細きなり我が國の青少年亦斯くの如し。廣大無邊食料充分なる海外へ行へしだ

4、其の他の社會的影響

食ふに困つての厭世自殺、保険金欲しさの放火、或は盜難、敵へ來たればその生活難より來る社會問題幾何なるか知らず。それ警察制度を完備するも必要ならんも亦その依つて起る原因を尋ねて未然に防ぐは最も賢明の策と思ふ。殖民地に居る日本人は「どうして食はう」と心配するものなく「何を食はう」と苦慮してゐるのだ。海外發展は之等一には貧民の減少を來たし生活難を救ひ生活難より來る犯罪を救ふ事となるを忘れてはならない。

二、海外發展の經濟的利益

1、移植民と貿易との關係

殖民地と本國との貿易關係はまことに親密なるものである歐洲の例は申すまでもなく、我が明治二十六年の台灣との貿易僅かに五百萬圓にして支那台灣は三千五百萬圓なりしが現今に於ては支那台灣間一千萬圓内地台灣間は三千五百萬圓に上れり之れ北海道にしても同じく如何に經濟的に殖民地の本國の貿易に關係するかを知るべし。

2、在外者と農工業

我が國の各種の百合を輸出せらるゝは在外者の紹介に依る恩典なり、其の他、國民の發展が農界に特殊の作物を附加するのみならず、新種類、優良なる品種改良せられたる農具、新組織の輸入となり直接、間接に我

が農界に貢献をなすことを忘れてはならない。

3、海外發展と海運業

國民の進む所に商品行き商品の行く所海運を要す日本は海國なり海に生きざるべからず海に生くる者海權を保持せざるべからず。海權保持の論據は海運の隆盛に待たざるべからず。之れ海外に移民を導く必要ある所以なり。

4、農村問題の解決

外國人は「日本の土地はよく耕されたり」と言ふと雖も農民は極貧なり。世に米價調節と言ふことあり。然るに我が米産費用を調査するに現狀では出來得べくもあらず（統計は略す）耕地も可なり産業組合可なり農事の改良も更に可なり然れ共之は根本にあらずと信す。日本の農家は年收約三百圓英國は九百圓而して在外同胞者は年收八千圓と云ふ。我が農民をして年收八千圓の土地に行かしめよ然らば解決されん。

三、海外發展の精神的影響

1、大國民性の修養

姑息にして小さなサクルの中を生長した日本人が徳川三百年の犬猿猫鼠配置主義のために愈々小さくなり疑ひ深くなり嫉妬となり猜疑となりて遂に島國根情を大成した斯かる國民をして人を信じ人を容れ得る而して汽車の中に於ても喫煙せず又先を争つて乗車することなく或は男女席を同じくするが如きサクルの中に生長せしめよ然らば日本人と雖も必ず大國民としての修養が出來ると思ふ。

2、人種的綜合の自覺

日本があらゆる点に於て東洋の盟主たることは論をまたず、而るに世界到る處に住する十三、四億の有色人種は三、四億の白人種に壓迫せられつゝあるではないか。日本の大使命は有色人種人種の總代として自國を

打破するに在る。自由をして眞實の自由に、平等をして眞實の平等にならしめるには人種の結合を必要とする而して之れは相互の理解に依りて成立す之の理解又眞實なる植民に依りて求められることを忘れてはならない。

3、眞實なる愛國心

余はかつて十余年在米せし或人からきいた。

帝國軍艦來たりて桑港に投錨したり。朝日に輝く日の丸を見た時身には武者振を感じ兩眼よりは感涙拭へ共しく流れ落ちたり日の丸の旗は天涯異域に於て我々により大なる力をあたへると。之れ祖國を思ひ帝國を愛する赤誠の發露にあらずして何ぞ

4、獨立心の養成

眞實なる愛國心は祖國を去り他國人との競争場裡に殊に強く深く了解せらるゝのである。伏せば蚤來たり仰げば煤煙將に落ちんとする小屋に、祖先傳來の味噌と菜ツ葉と河魚に満足し鳥の糞をかけた行く墳墓の地を理想郷と觀じ戀々として去る能はざる日本人をして信賴すべきものは自己の力あるのみ、系圖もお爺の代議士も祖父の豪商も一切通用せざる而して昨日の煎餅賣り今日は大地主となる海外に導け然らば眞實なる獨立心養成されん。

5、剛健眞實の氣風

殖民地の生活は荒野の開拓草小屋の居住、馬と機械の使役力仕事、腕仕事、自然を征服して人に従はしむるが如き仕事である。植えたる作物が出來るかも出來た作物が賣れるかも疑問なり殖民地は戰場なり眞實剛健敢爲進取の氣象も亦自ら訓練せらる。

日本人活躍の地は何處

一四六

一、滿洲附内蒙古

1、雄飛すべき滿蒙の新天地

元來馬賊の巢窟と思はれし滿州も、桃栗三年柿八年の例へもあるが如く日清の役過ぎて三十年日露の役過ぎて二十年今日はりつばな實を結んで居ることを思はねばならぬ。勿論南と北とに著しい差異はある氣候にしても同じだが日本人の生活上に暑さ寒さに凌ぎ得ないことはないと言ふ現に小學校の兒童も戶外に於て冬と雖も喜んで活躍して居ると言ふ屋内には火鉢の必要もないと言ふ如何に住みよいかは伺はれる。細い數字は抜きして大畧を記すならば其の面積我が國の二倍(耕地)それに人口僅かに二千萬三分の一にも達せない滿州の自然は實に大きい一日歩いて山のやうな字も見出すことは出来ないと言ふ。早い話が滿州でも奉天以北は所謂沃野千里で平原の一畦一哩以上に達すると云ふ高粱、大豆、小麥、烟、蠶、蠅として天際に續き地平線を出づる盆の様な太陽地平線に沈む血の様な太陽は南北隨所に見得る壯觀である。日露の戰爭以來特殊の關係を生じた地域で露國の有した諸權利を東洋平和確保のため正當合理に繼承したのである。この東洋平和確保の責任支那の開発、日本の經濟的生存の上からして延びは日支共存共榮の上から此處と連絡を取つて行かねばならぬ。

2、日本人と其の事業

鴨綠江を挟んで朝鮮と境しその一角に安東縣があり遼東半島には大連があり營口がある。そして南滿鐵道は其の中腹を一貫して居る此の沿線附屬地及租借地に内地人約三十万と朝鮮人約百万も在住して居る。之等が皆支那商人と密接なる取引關係を結び又朝鮮人の大多數は農業に従事して居る。之れ其の水田の開墾であつ

て我が日本の勢力が滿州に延び行くと共に工業の原料も亦滿州支那に仰ねばなるまい。こゝに於いて日支提携の實を擧ぐる必要なる所以である。

3、滿蒙の特産

イ、農業

現在粗策な農業法に依りて、高粱、大豆、粟の産は實に一億二千万石と言ふ莫大なる産額を擧げて居る。この粗策の農法を改良し開發して行つたら今に數倍の産を増すことは容易のことだと云ふ。その上に大部が肥沃地であることも一考に價するのだ。

ロ、鑛業

石炭は坪數一千萬坪埋藏せる石炭約十億噸、昨今一日一萬五千噸掘出して居るが今後百年位で掘盡くすことの出来ない東西を通して珍しい大炭鑛がある之れ撫順の炭鑛だその地本溪湖遼寧等にも出るし調査されないものも數多いと云ふ。鐵は有名な鞍山がある。その量、調査の結果何程に達するか分らないと云ふ。少くとも還元鑛法が成功した二、三年後には年額二十五億噸の洗鐵が製出される見込であるその他各種の鑛物も豊富で炭雲母、石綿、石墨滑石、天然曹達、石灰石等相當に價値あるものが多い。

尙こゝに注目し價するものは油質頁岩は更に大事なものであらう。そして從來全く厄介視されたものから經濟的に石油が取れるとしたら石油に苦しむ日本の一大福音といはねばならぬ。

ハ、工業

從來此の方面は徹々として振はなかつたのであるが最近此の形勢は一轉して將來一大工業地として行く事は多言を要しない状態である原料は無限動力の石炭は多くて安い。勞銀は更に安い要するに最も有望なるは工業であらう。

二、滿洲と我が移民状態

1、特に我が資本家の奮起を促さねばならぬ理由。

最近總督府の調査に依ると年々一萬人乃至一萬六千人の移住者を出して居ると云ふ。(これ朝鮮人)この外彼の地に居る内地人は多く日本人經營の工場會社に居て働いて居る。在滿労働者は内地に比して五割その賃金が高率なるため、又熟練職工多きため、朝鮮支那の労働者の競争は問題にならない。日本人の三圓六十錢に對して朝鮮人二圓三、四十錢支那人一圓内外である。之れ皆生活程度に依つて高低の差を生じたと言へ大連港の大豆積出に使役する人夫は平均十時間の作業に前記の賃錢に甘んじ服するのを見ると其の生活程度の支へられる所以がわかる。即ち内地人の豫想の出来ない程粗衣粗食して居るのであつて之等の人と競争して行くことは少からず困難である。

故に滿洲は農業に適する。内地人はこゝに資本を投下して勞銀の安き支那人朝鮮人を小作人として所謂地主たるべき人々の渡滿を奨励せねばならぬ殊に朝鮮は滿洲の事情に近くして盛に移住しつゝある時だから資本家これを利用し互に圓滿解決することは我が國の食料及び移民政策の上から必要と言はねばならぬ。

2、政治外交方面に於ける我が國との關係
此の條は略す。

三、印度支那地方

地形極めて錯雜し、山形數條に分れて南下し數多の溪谷をなして居る。河川其の中を流れ豊沃な平原を作つて居る一年を通じて乾濕の二期に分れ人類の生活に困難なる場所もあるけれど貿易風のために爽快を感ずるといふ。而も住民は安逸に流れ迷信に陥り活氣に乏しく農工の實權は他國人の掌握するところとなつて居る而も舊法の農法に依り、工業振はず商業又振はない。無盡蔵の原料天與の土地を利用し文明の知識を以て興

業に従事したら驚くべき進歩を來すのである。

四、ブラジル地方

1、春秋に富むブラジル

至る處高原平野の其の廣茫と其の偉大なる世界いづれの國にも見られないと云ふ。サンボロ、リオミナス州の波狀高原の光景は此の國の特徴だといふ。尙セルバスと稱する畫尙暗き森林、アマゾン、アラバチャ河流域の平原、河は長大にして、水量豊富、動植物無盡にして人口稀薄なるブラジルは世界屈指の原料園としての價値を充分有して居る。

2、將來移民の國としてのブラジル

其の自然と國人感情の濃厚なる人種偏見の少き資本勞力の缺乏より見て又生活難の皆無の点より見て最も有望であると言ふべきだ、而して年を追ふに従ひ親日の傾向を持し我が移民を歓迎して居る殊に國家政府は渡航の便を計り、憲法は國內外人の生命財産を保証し平等の權を認め人種差別を撤廢し歸化權を早くあたへ政治に參與せしめる又各州は或は旅費を貸與し土地拂下を簡單にするさかして移民の増加を希望してゐる。

3、其の他まだ擧げ來れば澤山あるも略す

海外發展者として必要なる日本人の修養

何が故に排日が起こるか

大正十三年七月一日?我が國の對米感情は極力反對の氣勢を示し朝野一般識者の議論は皆米人の反省と考慮

を希望し議會の問題となり駐米大使の抗議となり更に米人の憤激を買ひ事態漸く大ならんとした。原因どこにある。

1、人種的感情が相容れない。

人種差別の感情は何れの國でも濃厚であつた。天文以降外人の渡來を「南蠻」で迎へキリスト教に壓迫を加へたのも徳川時代の攘夷に世論も理由はあるにもせよ要するに人間感情の至るところだ。即ち米國と雖も同じだ。言語、風習、民族心を異にする異人種間に調和融合の不可能なるは、文通比隣、世界平和を叫ぶ世にも不可能とされて居るのだ。

2、民族の生活様式が異なる

各其の民族特有の傳統によりて特殊の様式を有して居るがため異人種の混住は甚だしく殺風景を感ずること亦何れの地方も同じだ。各民族は自己の生活の尊重するが故に外人の生活様式を故なく嫌ふが故に此の感情が起るのであるが人種相違の關係上亦止むを得ざることである。

3、日本人根性

とかく日本人は排外的思想乃至は異端的態度を特するものが多い。

邦人の移住者先づ財を獲得し之を本國に送還し以て出稼の精神を満足するを唯一の目的として永住同化の觀念等は殆ど寥々たるものである。自國に有害な事は他國にも有害であり有益なことは他國にも有益なれば日本人は接觸し易き國民なり信頼する國民なりとの感を抱かむること必要なりこの心掛がなければ益々排斥され成功は望まれない。

一、精神的方面の訓練

1、永住の決心

「どうせ一度は日本へ歸り外國歸りと云はれたや」之れ從來の移民の根強い願だつた。従つて事業も腰掛主義であつた。故に永遠の計畫は勿論ただ目前の金の上に憧れて居た。そこには或る犯罪も亦構成されて居る斯くの如くで年幾萬人の移住をだしたとて何になるものぞ、こゝに於いて永住の決心を必要とする永住の決心なくば地方民と融合して行くこと不可能なればなり。

2、民族的自負心の修養

日本人はお國自慢なれ共自負心を有せずと云ふ之れ在外同胞の文明程度高き所にて馬鹿視され文明程度低き人種にも尊敬せられざる原因と思ふ之は實に民族的發展の根據となるものなれば全力を擧げて修養せざるべからず。

3、共力一致

見もせぬ、知りもせぬ他國に在りては同民族協力して仕事をする程力強きものはない。我が在外同胞は諸種の組合を組織するしかして儲ければ利益の分配で喧嘩をする損すれば負擔法で衝突する。而も日本人は不利益と知りつゝも少數にて自己の意見を通さんことを主張するのだもつと小を合せて大となすことの修養が必要だ。

4、公共事業に就いて

祖國ならば政府の保護と補助を受けて得べき教育機關の設備或は慈善病院の建設、維持費移民地に於いては己が犠牲を拂はねばならぬ事業が多々あると思ふ。余はかゝる犠牲に依つて在外邦人の安全にして完全なる發達が出来るものと信す豈修養せずして可なるか。

5、禮 讓

古語に「親たしき仲にも禮儀あり」主従關係はもとより互の間にも一定の禮式はあつた。現在はすでに大いにすたれて居る。内地に於てでさへ斯くの如し況や海外に在る日本人をや。日本人の禮儀は忘れ歐米の禮儀は

知らず、平氣で他人の居室に帽子を被つて突入するが如き動作の粗暴なる言語の下等なるもつと我々は修養せねばならぬ。

6、子女教育の必要

殖民地に於ける移民は余りに黄金を得るに急にして子女の教育は顧みる所にあらずと云ふ。殖民地に於ける子女教育は移民の目的を決すか否かの大问题だと思ふ。アブラハム傳(舊約聖書中)中の彼れが子女教育に依りて目的を達したと言ふではないか日本の使命を果すには十年三十年の計畫ではない永遠の計畫である。永遠の計畫は子女の教育を必要とする即ち其の本末を顛倒したるが如き方法は一日も早く一掃せねばならぬ

7、信仰の必要

外國に於いては皆他人である言語不通、習慣相異なるなり自己の實力以外何物もない故に明確なる理想ありて神の助力我にあると信仰するに在らざれば克く困難に打克ことは出来ない。其の誘惑に打克つことは出来ない。移民には困難苦痛我を待てり、我は之を打破し目的を成就せんと思へば信仰自ら必要となる亦信仰は意志を鞏固にし精神を剛健にする。

8、世界の日本人として。

世界の人種と雜居して圓満なる生活をなさんには日本人が最う一歩進んで神人の關係が義にして人と人との關係が友なることを了解するまでになりたい。

二、公民的訓練の必要

米國加州知事バーデーは其の職を去る時

- 1、日本人は國人集合して離散せず
- 2、取引は彼等同國人間に限られ
- 3、白人と取引することを喜ばず
- 4、生活は日本の習慣を墨守し

5、人種を異にするが故に同化することなし
故に大いに排斥する何の不可あらん。
バーデーが何と申しても善は善、悪は悪はどこまでも悪である。然れ共彼我の習慣風俗を吟味し其の善に移るべきは當然だと思ふ。

1、海外禮式

米國の日本人が澤山住する地方には

- 一、草履や素足にて戸外に出づるべからず
- 一、多勢歩く時は歩を揃へよ
- 一、夫婦同伴の時には妻に荷物を持たすべからず
- 一、子供を背負つたり街上に放置すべからず
- 一、衆人の間で子供に乳をやり泣かすべからず
- 一、街上にて高聲を發し長談議をなし店頭にて弄花をなすべからず
- 一、街上に唾を吐くべからず

日本人會

いづれも我が國にては誰も氣にするものすらないのに印刷して配布する程大切な問題であるよろしく研究して見ねばならぬ所である。

2、外國語の必要

假りに北海道に低級なる言語も風俗も全く我と没交渉なる人種來たりて一郡をなし更に一獨立國の觀を呈するに至らばよもや打捨て置かるべき、何れの國も人情は同じだ。我が國民が若しも上記の如きであつたら必然中途で斷念の止むなきに至るであらう。先づ我國の青少年に外國を教へよ然らば移民も亦解決されん。苟も身体強健にして移民に適する青少年には一、二ヶ國の外國語を習得させる必要がある即ち移民が差向の

用を辨じ會話だけの修得でもよい。青少年にして外國語を修得した時こそ大和民族が地球全面に大散布を始める時である。又その他國人の氣風を雄大ならしむるにも案外必要なことを忘れてはならない。

3、婦人訓練の必要

男子は勿論のこと婦人の訓練又必要なり。婦人の反對に依りて發展を妨げられること多し。殖民地に於て嫁は主婦であり家政の事にたづさはるその切廻しの善悪は直に累を夫に及ぼす、其の他或は衛生看護に於いて或は祖國との圓滿なる關係を保持する上に於て大いに訓練の必要がある。

4、家政の必要

日本人は經濟思想の幼稚なるために事業と家の經濟とを混同し遂には事業の得失もこれがため不明となり家計の冗費の如きも遂に發見する能はず而して年毎に生活難に陥るのである之れ家政研究必要する所以なり。

5、交際に就いて

日本人はまことに交際の下手な國民とされて居る之れ主な原因は一、外國語を知らざること二、大國民として修養の足らざること等であらう。古來「遠き親類より近き他人」と云つた殊に海外に於て最も必要を認めろのだ。黒人でも白人でも自由に交際の出来るやうに交際的手腕を修養することが必要である。之れ殖民の發展する所以なればなり。

6、通信に就いて

故郷を離れて遠く旅立つた者最も通信を喜ぶ況や萬里異域に於ておや

通信を忘る時は十年愛兒の行衛を知らず十五年父の消息を知らざるに至る。新發展者は通信の習慣を必要とする之れ内外呼應して國運の發展につくす所以なり。

7、衛生方面

物質、地質の異なる所へ行き暴飲暴食は身体を亡す基となる命あつての物種だ。衛生、生理に氣を付ける様訓

練すべきである。

三、其の他日本人として修養すべき事項

1、計畫的訓練

海外に於ける日本人失敗の原因を永田氏左の如く説かれて居る。

イ、農業方面の重なる失敗は作る事を知りて賣ることを知らないことつまり桑港附近の玉葱が濠州の相場と關係し加州の果實が歐州の市場で濠州産と競争して居ることを知らず無鐵砲だから大なる損を招くのだと。

ロ、資本に比して過大なる耕作面積の企業をなすから大なる面積の耕作をなすの勇や愛すべし資本に比して過大なる企業をなすの愚や思ふべし。

ハ、第三は經營の不熟練にあると

更に商業的方面に於ても全く日本向きの商業を營み人真似をなし甲旅館に儲けたりと言へば乙も丙も旅館を始むるが如く全く無計畫に依ると思ふ之れ大いに日本人に計畫的訓練の必要なる所以なり。

2、祖國との聯絡

移民地と本國との關係を實質に保持し以て相呼應して民族の發展を計らねばならぬ或の此の種の教育機關を設け或は在外同胞のために金融機關を設けることも亦必要だと信ずる。

小學校教師は如何なる考へで教壇に立つべきか

小學校は智識のみ授くべき所でもない技術者を養成する所でもない人としての教育の場處たるは贅言を要しない兒童は近き未來に國の中堅となり運命を開拓し人類の幸福のために貢献すべき義務を有するものである以上述べたるが如き人口問題の解決は現時に於ける日本最急の問題である國家の安危民族の存亡に關する大

問題である之を解決する否とは國民をして海外に有利に導くより外に方法はないのであると信ずる。ただ國民に向つて海外に發展せよと叫んだとて火星に電波を送つたと同然何の反響もないと思ふ。教師にして斯かることを頭中に置くならば或は有形に或は無形に兒童に感染して海外思想の普及は期せずしてされることと思ふ。

海外思想普及に對する學校教育

世界の形勢が今日の如く、日本の現狀が斯の如く進展し來たれる以上我が國民が異人種と雜居生活すべきは當然である此の時に當り自己の運命は自己で拓いて行かねばならぬ。海外に於ける日本人成功者を見れば

- 一、精神の確實なる人
- 二、其の國の語を解する人
- 三、其の國に適する技術を有する人
- 四、其の地方の事情に通じた人のみだと言ふ。

されば、帝大出身の法學士より理髮士が勝れ早稻田の文學士より洗濯職工が歡迎され慶應の理財より鐵腕の農夫が却て収入が多いと言ふ。我が國民に斯の思想を普及せんとせばよろしく職業學科に重きを置かねばならないと思ふ。

1、教科書と教師

教科書と教師が如何なる交渉を有しなければならぬか。

教科書は文部省が其の道の大家を網羅して研究編纂されたものにして限られたる頁數に、最も經費を少くし、而して最も合理的に最も効果のある如く苦心されたものであると思ふ。勿論理想的と決して言へないが之を批難するよりか如何にしてうまく活用するか教師たるもの、研究せねばならぬところである。教科書の

記事は最少限度最低限度のものであると思ふ。

2、修身科

根底を建國の理想に置き、大和民族の位置、使命を自覺せしめ國運發展、勤儉治産、自強不息の精神を旺盛ならしめ、或は郷土に材料を殖民成功者(立志、勇氣、進取等徳目補充)或は冒險談(時々)を取り入れて進まねばなるまい(教師の手腕)勿論一朝一夕に其の思想の普通せらることは出來ないのである。

2、國語科

國語科の著しき發達につれて作者の眞髓にふれて讀解力を養成せんとして想像に訴へ繪に文章に書き展げて已の學び得た何物かを發展せしめやうとして居る故に余は補充材料として教材を在外同胞に求め植民的材料(教師の苦心に依りいくらでもある)を更に増し出來るならば羅馬綴をも加へて(尋常五年以上位)店の看板自己の生命位は書得る様にしたいものだ

3、地理科

時勢の要求を大別して見ると

1、國家的精神の樹立に關するもの 2、日常生活に關するもの 3、國際精神の涵養に關するもの等が叫ばれるその中最も強く叫ばれるものは國勢の理解に依り一層愛國心を喚起し發展的國民養成するに在ると思ふ。余は教則及時勢の要求に向ひ海外思想普及と言ふ方面に着眼して地理的要素を説明して見たい之れ最も地理は關係深きものなればなり。

- イ、位置 政治經濟上より見たる位置に重きを置く
- ロ、地勢 地勢と産業及交通の關係を考察せしめるが主なり
- ハ、氣候 位置と地勢及生業との關係に力を注ぐ
- ニ、産業 起因現狀將來を考察せしめ重要な物の特徴販路を知らしむ

ホ、交通 断片的に流れず連続せしめ、時間、賃錢、距離等を理解せしめ其の價值と地方に及ぼす影響を知らしめる、

實際指導の着眼を申して見たい

基礎的觀念を陶冶し正しい着眼を得せしめ地圖中心に大局に着目し而も實際生活に觸れたる取扱をなすことは勿論なれ共特に經濟重視の取扱、殖民思想養成を重視した取扱ひ（二項はすでに前日本人の必要な修養の條に述べたり）直接間接に普及に移めねばならぬ。（實際指導案は略す）

4、音樂

余の従弟北米に在ること十年遂に彼の地で他界したる者が通信に「加州の高原に立つて語るべき人なく前の風景に目をたのしませ鳥の聲をさくのみまことに寂しいと外人は毎夜音樂に心を慰めて居る俺もせめて素養でもあつたらと思ふ」と如何に音樂が他國に於て唯一の慰安者であり激勵者であるかが分る又平和な家庭を作り社會を清くし人心を和ぐる効大なるに於いては尙更である歐米人が世界到る處で平然たるも亦音樂の力に依る事大なり豈務むべけんや。

5、國史科

日本の歴史を研究すると古來大和民族は發展的國民たることが明にされる元和年中の山田長政の如きは理想的發展者である或は伊達正宗の使臣をメキシコに遣したるが如き濱田屋兵衛の如き舉げて數ふべからず是等の人の成功或は失敗を其の目的から過程及結果まで深く研究して其の由つて來たつた原因を示しつつ直接間接に普及に移めねばならぬ。

6、數學科

メートル法の統一された今日一日も早く徹底を期し使用を許されたる π e \log の如き略字の如きも合せ使用し又簡單なる外國貨幣の取扱或は換算等も課すべきである。尙日常學習材料に於いても殖民的材料を採

りて指導することも忘れてならない

7、体操科

体操に於いても合理的なるは勿論（改正要目には最も海外思想普及に好都合の材料多く課せられ喜ぶべきなり）野外運動或は冒險的（棒倒し疑馬戰）或は外國遊戯（野球庭球）等を課し發達を助くると共に之に對する趣味を理解せしめ、時には實際に荷の積却。露營野宿等行ひ簡易生活に慣れしめることも必要だ。

三等當選

字宿校

德重喜一郎

目次

一、緒言.....一六三

二、本邦國勢の理解と其の世界的地位の自覺.....一六三

三、移民政策の國家的關係.....一六五

四、殖民と移民並に海外發展とは.....一六七

五、我が國移民の歴史.....一六七

六、移民地の具備すべき要件.....一六八

七、小學地理教科書に現はれたる移民教材並に其の取扱大要.....一六九

八、外國地理教授、特に有望な移民地の取扱ひ.....一七一

九、各國々勢並に各國々民性の理解.....一七六

一〇、海外本邦人の分布狀況.....一七七

一一、殖民地教材の取扱ひ.....一七六

一二、本教材教授上の着眼点.....一八〇

一三、教師論.....一八〇

一四、結 び.....一八一

一、緒言

歐洲大戰は實に悲慘極る時代であつた。數百万の人命、數千億の財貨を喪ひ、多くの物を破壊し去つて茲にあらゆる改造の機運を齎して戦争の終局を告げるやうになつた。

彼のベルサイユの平和會議は眞に恒久の平和を表徴するものであらう。併しながら之を以て恒久の平和とのみ信する事は出来ない。來るべき平和の戦争が我が國民にとつて最も恐るべきものではないか、戦後世界の大勢を察するに各國とも非常な勢を以て、經濟的に或は民族的に海外に發展して其の損失を回復しやうと努力して居るではないか。此の時に當つて我が國民は果してよく其の競争場裡にあつて勝を占め得べきや、戦時本邦の經濟界の好況に引換へ今日の變動を見ては轉た寒心に堪へない。加ふるに年々七十余万の人口増加は漸次國民生活に不安を與へつゝある。そこで其の捌口を考慮しない譯にはゆかぬ。即本問題は極く重大なことであるから茲に吾等國民に海外思想を一般に普及せしむる事が極く必要な事である。

二、本邦國勢の理解と其の世界的地位の自覺

近時國際的關係の接近と國民活動の舞台の擴張とは特に國民をして世界列強の國情と各民族の活動状態とを目撃せしめた。かくて其の刺戟は國家の實力、國民文化の程度如何の反省となり。やがて國家の獨立、民族の發展、國民文化の向上に資することが大ではあるまいか。そこで徹頭徹尾、物質的にも精神的にも國力の充實、民力の涵養を圖ることが最大急務ではあるまいか。今や世界の三大強國と稱せらるゝ本邦國民が皆よく國勢の現状を理解し其の責務を感得して居るか否や、此の点は特に顧慮せねばならぬ重大な問題ではないか、特に國家の發展國力の充實を企圖すべき國民教育に於ては國家社會の實情、國民活動の状態を尋ねて本邦の現状を理會し、政治的

經濟的、文化的の各方面から國際關係を説いて本邦國勢の世界的地位の自覺に努むべきである。翻つて本邦の各事情を考へてみるに其の實力を象徴する即ち誇りとすべきものがあらうか、國体美、國土の美の外に何物があらうか。經濟力の貧弱、科學思想の幼稚、國民生活の低級等、到底列強の比でない。殊に富力、即ち經濟的實力は如何、果して英、米と競争が出来やうか。而も其の資源たる天産物の貧弱は勿論、日用品として必須の綿花、皮革、羊毛、ゴム等は殆んど之を他に仰かねばならぬ。然し自ら自給自足や産業獨立の必要を高潮しても、此を全部國內で自給する事は不可能だ、幸如上の天産物は東亞に、南洋の近隣に無限に包蔵して居るから互に有無相通じて大いに經濟上の發展を試みねばならぬ。即ち海外航路を盛大にし足らざるを補給し人口過剰を調節し、廉價に購求する方途を講ずる必要がある。近時世界の經濟力は大きいに發達し、延いて人口の急激な増大を來すに至つた斯くて過去一百年間に世界の人口は殆んど三倍に達したと言はれて居る。今後異なる條件の發生せぬ時は此の加速度的増加率を以て増加するは當然の勢である。そして此の問題は今後數百年を経れば全世界等しく遭遇する事實問題である。顧るに四万二千里の狭小な國に而も年々約七十万の人口が増加しつゝある。人口は年々加速度的に増加し益々密度は増してくるも國土の擴張は殆んど不可能である。故に勢生産に限度ある國內に人口溢れ激甚な生存競争を現出するであらう。茲に天與の富源が裕であり而も未だ開拓せられない地点に進まねばならぬ境遇に立ち至るであらう。かの歐米列強が大なる勢力を我か近隣に扶植しつゝある時に當り、我は晏然と拱手すべき時でない。否我は彼に比し一步も二歩も立ち遅たのである。決し因循躊躇すべきでない。正當な方法手段に依り政治的、經濟的はた文化的に海外に向つて大いに發展せねばならぬ。勿論國內にあつては生産の方途を講ずるは固より大切ではあるが、一方海外に大いに雄飛して大いに利權を收める事が意義あることである。偕て自國民が海外に移住すれば自國の物産に對する需要を増し貿易の領域を自然擴張することとなる。又一方海運業の盛大を促し富源の基を開くこととなる。剩へ本國に送る一ヶ年間の金銭は巨額に上り本國を富すこととなる。かく民族が四方に移住して到る所に本國の言語を傳へ風俗嗜好を移すことは總て國力發展の基礎を

築くこととなる。即ち海外發展の氣象と殖民並に移民思想の培養とは我が國の現状から眺めて極めて重要なことである。故に現時の國情や國民の海外に於ける活動狀態、移民地として有望な土地の取扱ひに留意し、國家經營並に民族の發展からみて本思想を普及せしめ、海外發展、殖民及移民政策の緊要な所以を知らしめねばならぬ。

三、移民政策の國家的關係

1、移民の動機

一様でなく種々雑多である。然し從來の生活よりもよりよき生活、即ち幸福な生活を求めたいと云ふのが主な原因である。而し本動機醸成の理由としては

- イ、宗教上の脅威壓迫……米國へ移住したユダヤ人はクリスト教の迫害から
- ロ、社會的政治上の壓迫
- ハ、然し多くの移民の行はるゝ場合は前二項の事情ではなく、單に生活が困難で衣食住の供給が不如意、又就職難賃銀低廉にして生の轉廻として職業多く賃銀の高い他地方に移住する場合である。
- ニ、先きに移住した同胞知己が過去の生活よりも幸多き生活を送つて居るを聞き、直接間接に誘導せられた結果である。

人口が稠密で人口過剰の土地にあつては、人口増加の直接悲劇として常に衣食住の脅威を感じるから、之を容易に得られる地を選決して移住する場合には單に個々の小家族一個人が移住するばかりでなく、一大團體の渡航も決して少くない。故に寂寞を感じる事が少いのである。

2、移民の國家に及ぼす影響

移民は母國を離れて一、永久的に移り行く者か 二、暫時生活の困難から遠る爲に一時的の移住をなす者である

何れにせよ本國人口の過剰を調節し随つて經濟界の順調を保つことは言ふまでもない。又母國の家族親族に對しての送金も少くない。此は多くの正貨を入れることで甚だ有利である。然し先方は此に對してよく思はない國も多く即ち是が移民排斥の第一聲をあげる材にもなり得るのである。そして本國は經濟界の調節を計り得、従つて輸入超過の國でも此に依つて補ひ得らるゝ事も少くない。彼の伊太利の如きは海外移民が約三五〇万其の送金は實に三億圓に及ぶ。此の正貨と觀光團の消費する金とに依つて輸入超過を補充するのである。此の現象は獨り伊太利に限らない即ち支那でもよく見受けらるゝのだ。

次に一考すべきは經濟上の勞働問題である。移民は生産の増加を計る有力な原動力をなすもの、即ち此の見地からすれば本國は生産上はた國防上に於て一大損失を來すこととなる。反對に移入國側では富源開拓の爲には大なる資本と勞力を必要とするから移民中の勞働者は此の地方に種々の利便を提供し、植民地經營者も好都合で此等に依つて自然と富源開發が出来るのである。

3、我が國民生活と移民

借て移民は獎勵すべきものか否か、それは其の國情の如何に依つて決定すべきである。然らば現下我が國情は如何、大いに其の必要が大である。即ち國土と人口増加問題、農業と食糧問題其他衣食住の必需品の原料から眺めても其の必要が益々起つてくる。然るに従來本邦人は海外に發展することを好まなかつた其の理由は、

イ、古來農業を以て國本としたから其の土地の利用は殆んど園藝的で土地に對する執着心が強かつた。
ロ、徳川幕府鎖國主義の余弊を蒙り航海の便開けてから日尙は淺く、國民は一般に海外の事情に通ずること少く随つて海外の知識に乏しい。

ハ、風土和順豊饒で生存競争が激甚でなく生活上多くの壓迫を感じなかつた。
ニ、家族制度を重んじたこと

大要以上の如きもので現下の先決問題は國民をして海外の事情に精通せしむることである。爲には地理科教授に

於て此の缺点を補ふことである。即ち知識は力なりと云ふならば地理的識見は世界的力であると云つてよからう

四、植民と移民並に海外發展とは

移民と植民とは屢混用さればつきりした區別をつけずに居る事があるが、其の内容は可なり著しい差異があると思ふ。即ち移民は其が一時的にせよ永久的にせよ、兎角移住した國の統治權に服従するが常である。然し植民の方は本來の領土以外の土地に移住して本土の統治權の支配を受けるものである。されば移民も一國民の移住と云ふ点に於ては同一であるが、植民は屬領に移住するを意味し、移民は外國に向つて移住すると解するが穩當であらう。次に海外發展の語はしばしば帝國主義の語を以て言ひ表はされ、不正當な侵略主義、軍國主義の如く解される節のあるが決してさう云ふ意味のものではない。さて海外發展と言へば 1、政治的發展 2、經濟的發展 3、文化的發展の三様がある。政治的發展とは領土、租借地及勢力範圍の獲得乃至擴張等を意味するもので現時の如く殆んど無主の地なき状態、又國際聯盟が成立して列國の大勢が國際的友情の元に立ちて共存共榮しつゝある今日到底望むことは出来ない問題である。次に經濟的發展とは 1、海外貿易上の發展 2、對外投資上の發展 3、移民上の發展 4、海外航路上の發展等を意味するもので、現時列強の最も努力して居る点である。文化的發展とは自國の文明を他國に及ぼさんとするもので、所謂國境を離れた世界的事業である。

五、我が國移民の歴史

我が國は久しく鎖國政策を採りし爲海外渡航は至難の事であつた。それで海外に發展するやうになつたのは最近即ち明治維新後のことである。そして其の出る人数も極く少く然も一時的の移住で彼の地で若干年働いて多少

産をなせば故山に歸る者が多かつた。それで一向大多數の者が海外に出た事もなかつたが、其が明治十年代の明治十九年には一三一人の移住者を見るに至つた。そして明治二十七年には一万人を超えるやうになり、此の年移民保護規則が發布された。それで愈々數を増し三十二年には三万一千三百五十四人を算出するに至つた。然も此等の大部分はアメリカに移住したのである。然るに三十四年には移民を拒絶したので一時減少し、三十五年には一万五千余人となつた。此の年移民保護が執行されて労働を目的として清、韓以外に渡航する者を取締るに至つた。米國でも日本労働者が多かつた爲四十二年には國法を以て移民の取締をなさうとする排日熱が盛んとなるや、外務省から米國へは移民を送らざることにした。それで労働者は止むなく南米に向ふこととなつた。幸ブラジルでは我が移民を歓迎した、今日我が移民の分布は相當に廣汎な區域に亘つて居るが、民族的にも、經濟的にも其の勢力は極めて微々たるを免れぬ。

六、移民地の具備すべき要件

現在邦人の多く居住する所が必ずしも有望な移民地と云ふ事はできない。それで此の最も適當な場所を定めるには一般に肯定される標準が必要である。それは大体次の諸項に歸着するのであらう。

- イ、土地廣く而も地味肥沃であること。
- ロ、氣候 風土が本國と類似して居ること。
- ハ、我が國と距離近きこと……然も人情風俗、習慣等もあまり隔りのない所がよい。
- ニ、人口の密度が小で競争者の少きこと。
- ホ、國際關係が親密で人種的偏見なく觀迎してくれる所。
- ヘ、其他なるべく母國の損失にならぬやうに。

右の標準に照して見ると地理書にある布哇諸島、北米合衆國、カナダ、濠洲には相當に邦人が居住して居るが、將來の移民地としては全く絶望である。之に反して滿洲、蒙古、シベリヤ、マレー半島、南米は何れも多少の缺點はあるが有望な土地であるから、此等教材の取扱ひには特に留意して教授するを要す。

七、小學地理教科書に現はれた移殖民教材並に其の取扱大要

◇ 尋常科第五學年

大日本帝國……我が國土が段々擴張されたるも四圍の状況から大いに海外に發展の必要あること
 台灣、北海道 樺太方面……植民政策が成功して其處に住む、土人も立派な忠良の臣民となつて居ること
 關東地方……産業の項目に於て生糸、羽二重、養蠶、製糸等が非常に進歩して居るのは外國貿易の結果である。又綿糸、毛織物、砂糖、肥料、洋紙、船舶、雜貨等の工業品も海外を相手として發展した

◇ 尋常科第六學年

A、日 本 地 理
 臺灣、樺太、北海道、朝鮮地方を行政上より見ずして産業上其他の方面から見れば植民地の状態である更に本邦の領土になつてから産業も大いに進歩すること。且つ今まで部分的に説明したのを大日本帝國總説に於て概括して世界地理教授の際の本としたい。
 地勢……小さい國に大山脈があつて平野に乏しい農産物が少い。即ち食糧や原料品からみて海外發展の必要を力説したい。
 山系と火山脈……温泉が多く風景が美である。故に外人の遊覽を招致したい。